

## 和水町地域公共交通会議資料

議題：和水町地域公共交通網形成計画の調査結果及び  
地域公共交通の課題と対応策の方向性について

平成27年11月11日  
和水町地域公共交通会議事務局

# —目次—

1. 計画策定の背景と目的	1
2. 和水町の地域概況	2
(1) 人口動向および人口分布	
(2) 通勤・通学者の移動状況	
(3) 買物の移動状況	
(4) 観光動向	
3. 公共交通の現況	8
(1) 路線バスの運行状況	
(2) ケアバスの運行状況	
(3) タクシーの運行状況	
(4) その他サービスの運行・運営状況	
(5) 交通空白地域の状況	
(6) 既存路線バスの利用状況	
(7) 公共交通に関する和水町の財政支援状況	
4. 小さな拠点づくりに向けた現状の把握	17
(1) 主要施設の分布状況	
(2) 町民の主な移動先	
(3) 町民の移動状況	
(4) 小さな拠点づくりに関連する上位計画等	
5. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査	22
(1) 住民アンケート調査	
(2) グループインタビュー調査	
(3) 個別訪問調査	
(4) 交通事業者・町内施設等へのヒアリング調査	
6. 地域公共交通の課題と対応策の方向性	63
(1) 和水町が目指すまちづくりの将来像	
(2) 地域公共交通が果たすべき役割	
(3) 和水町における地域公共交通の現状と課題	
(4) 将来に向けた地域公共交通の課題と対応策の方向性	
7. 今後のスケジュールについて	74
(1) 今後のスケジュールについて	
(2) 地域公共交通網形成計画の基本方針として検討する項目（案）について	
(3) 現時点で想定する計画書の構成（案）	

## 1. 計画策定の背景と目的

### 本町の公共交通の現状

和水町には、産交バス(株)の路線バス(8系統)、高速バス、(有)高瀬合同タクシー及び(有)三加和タクシーの民間タクシー等の公共交通が運行しており、路線バスについては、県や近隣市町村、和水町による欠損額の補填によって運行が維持されています。そのほか、特定の目的に限定した行政による送迎サービス、菊水ロマン館の温泉バスや和水町立病院の巡回送迎バスが運行されています。

### 本町の合併後の動き

本町は旧菊水町・旧三加和町の合併(平成18年3月に)以後、新町建設計画や総合計画等に基づき、住民の日常生活圏の拡大・ニーズの多様化、少子高齢化及び人口減少の進行などへ対応するための地域づくりを進めてきました。また、旧三加和町の「ムラづくり協議会夢ランド十町(平成10年4月発足)」では、集落の活力低下などへ対応するため、地域が主体となった取り組みも進められています。総合計画においても、自律的なコミュニティの形成を目指した取り組みが進められるものの、今後も少子高齢化・人口減少が進行し、各集落の活力のさらなる減退が予測されます。

### 本町の課題

現在の公共交通網は、主要施設が旧菊水町に集積するなか、旧菊水町・旧三加和町が南北に分かれた構造になっており、町内には交通空白地域も点在します。また、路線バスは利用者が減少し、今後の存続も危ぶまれています。しかしながら、自家用車を運転できない高齢者等の移動制約者の移動手段確保は、喫緊の課題であり、併せて、急速に進展する人口減少社会では、域内の日常的な人の動き等を活性化する仕組みや、分散している生活サービスや地域活動をつなぎ、生活環境を支える拠点の構築が急務の課題といえます。

### 本計画の目的

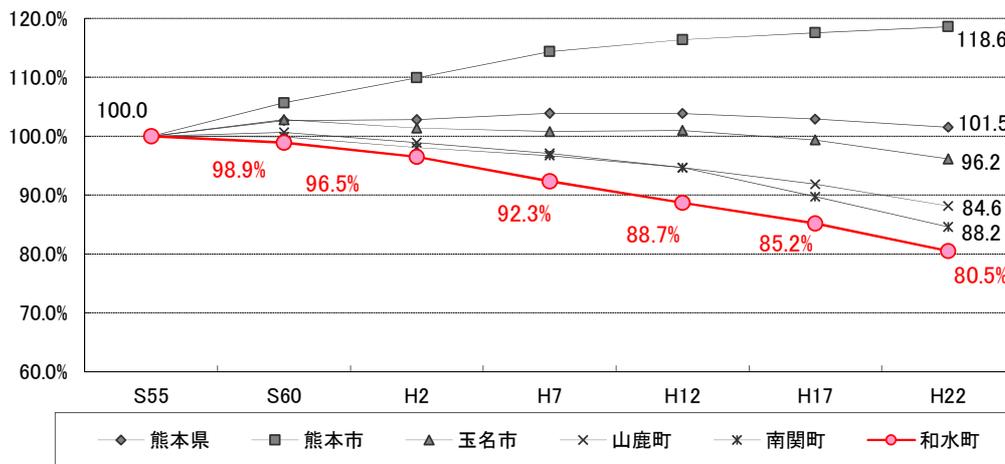
本業務は、住民の生活行動パターンやニーズを適切に把握したうえで、地域に必要とされる機能を集約した小さな拠点とふるさと生活集落圏のモデルを構築するとともに、小さな拠点を核とした使いやすい公共交通サービスのあり方を検討し、将来にわたり持続可能な地域公共交通体系を、総合的な視点から構築するための地域公共交通網形成計画の策定を目的とします。

2. 和水町の地域概況

(1) 人口動向および人口分布

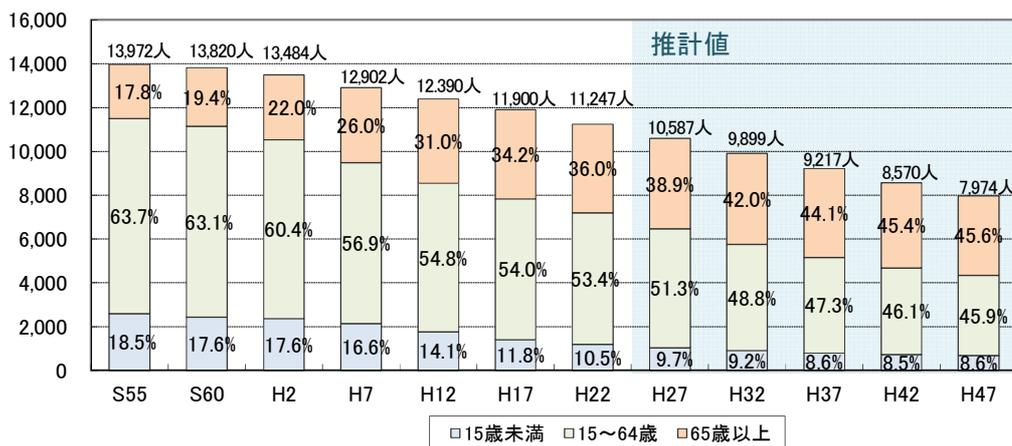
①人口推移および年齢別人口

- 本町の総人口は 11,247 人 (H22) となっています。
- 近隣他市町と比較して、人口減少の割合が高い状況です。S55 年の人口を 100%とした場合、H22 年では 80.5%と、およそ 2 割も人口が減少しています。
- 将来推計においても、今後の人口減少および少子高齢化の進行が予測されています。



出典：各年国勢調査 (S55～H22)

▲人口の推移



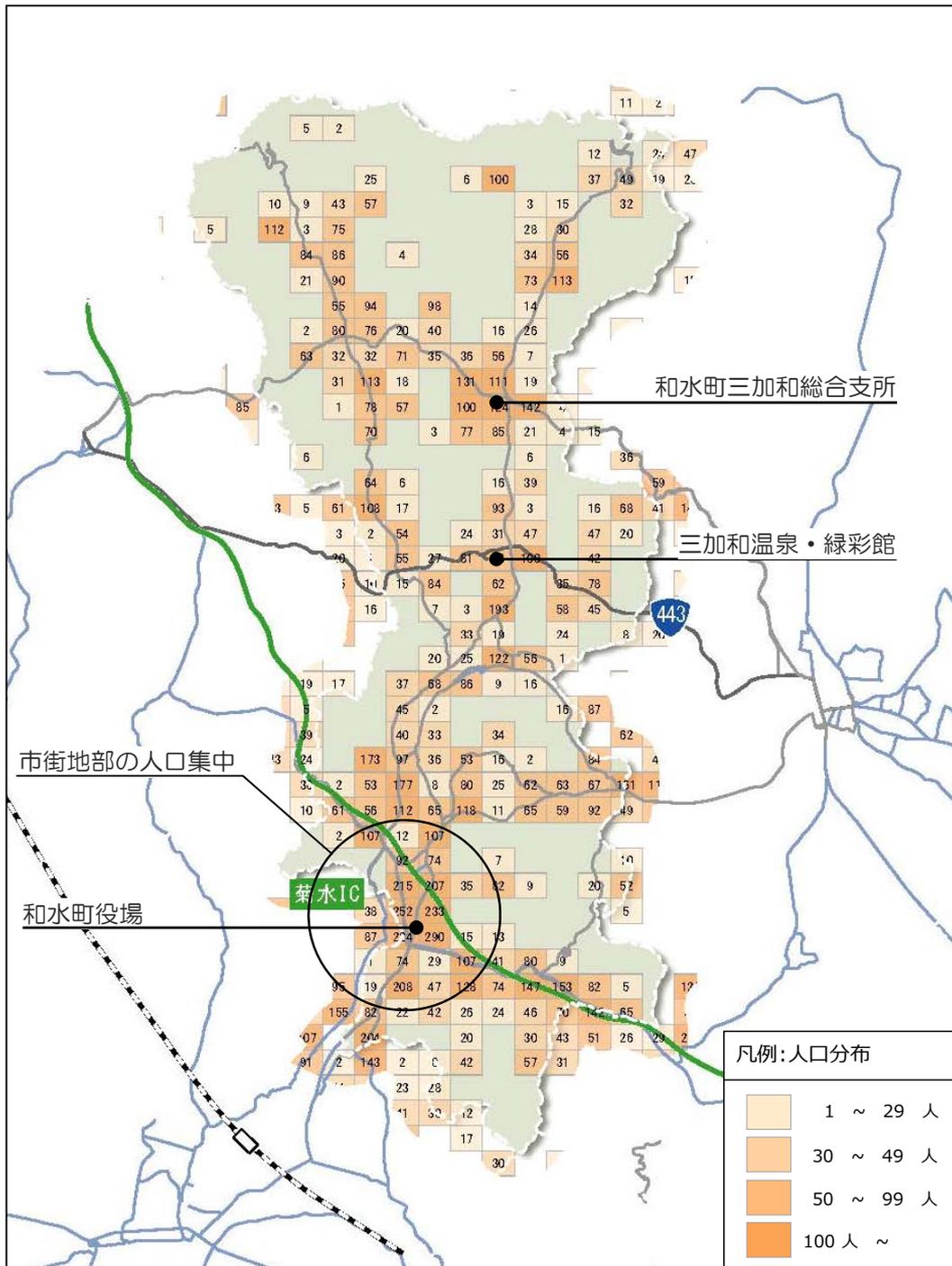
出典①：各年国勢調査 (S55～H22)

出典②：国立社会保障・人口問題研究所による  
市区町村別将来推計 (H22 国勢調査に基づく)

▲年齢別人口の推移

②人口分布

- 和水町内の居住エリアの特徴として、国道や県道沿線に住宅地が広く分布しており、菊水 IC 付近や和水町役場周辺に住宅地が集中しています。

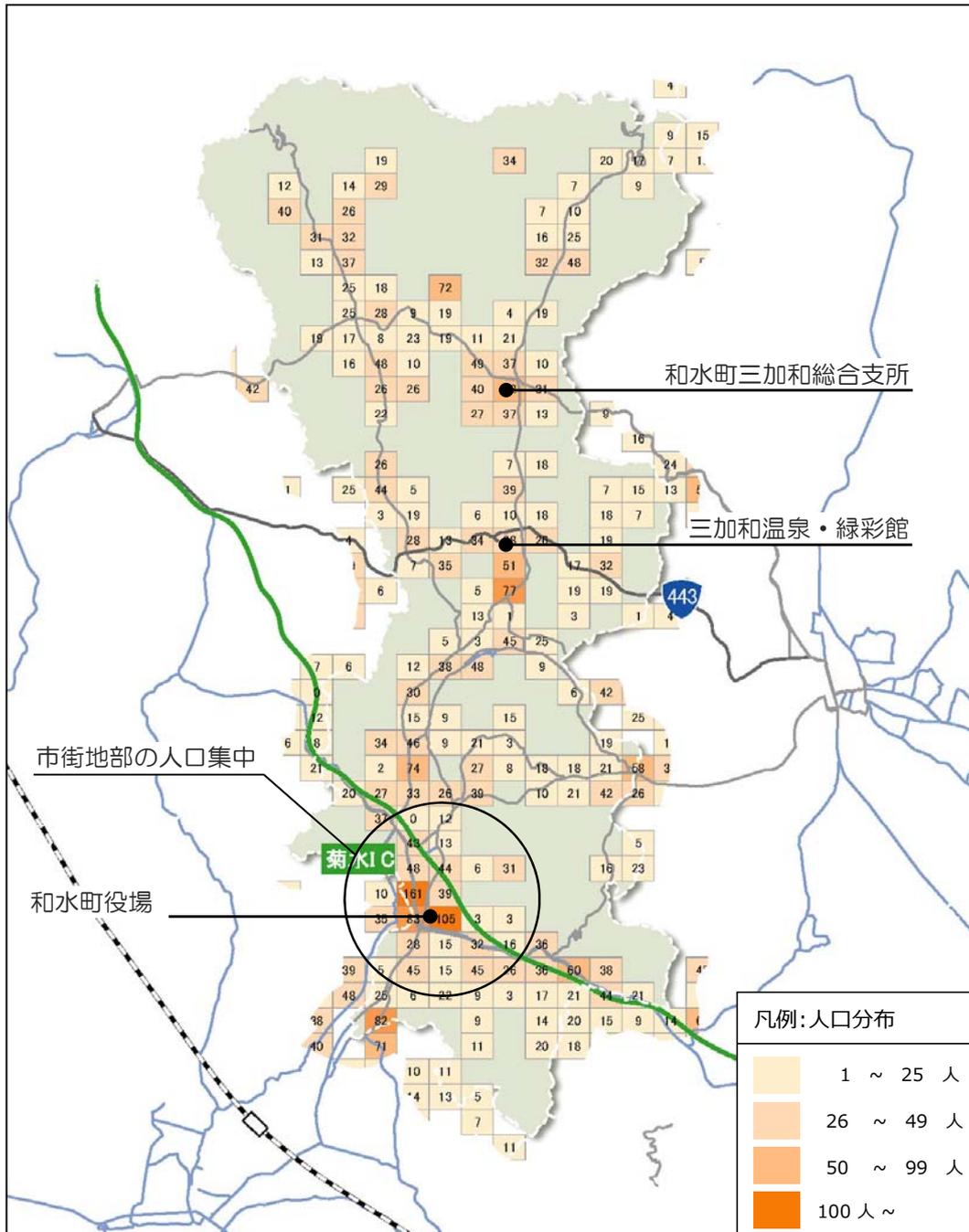


出典：H22 国勢調査（500m メッシュデータ）

▲和水町の人口分布

③65 歳以上の人口分布

- 全人口の分布と同様に、65 歳以上の高齢者も国道や県道沿線に居住しており、和水町役場周辺に集中している傾向にあります。



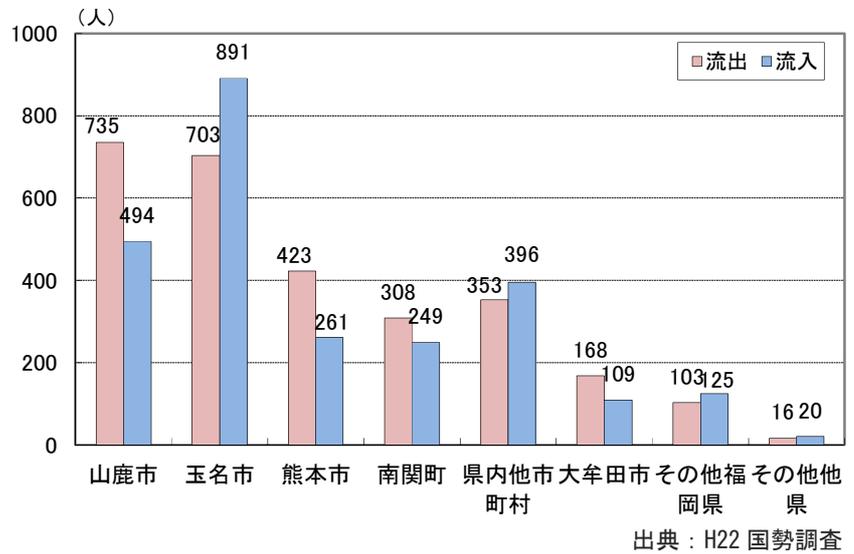
出典：H22 国勢調査（500m メッシュデータ）

▲和水町の 65 歳以上の人口分布

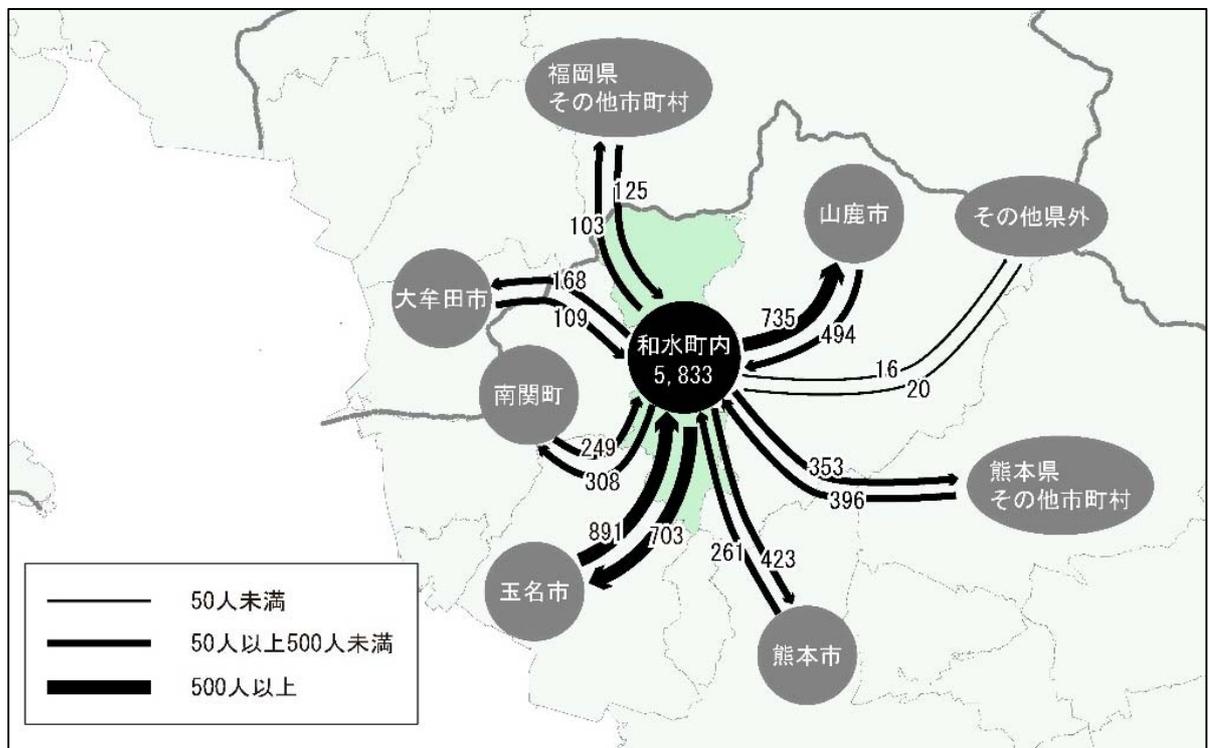
(2) 通勤・通学者の移動状況

- 和水町在住の通勤・通学者のうち、和水町内での通勤・通学者が約 51%であり、他市町村では山鹿市と玉名市への流出が大きくなっています。
- 町外から本町へ流入する通勤・通学者は 2,545 人であり、山鹿市、玉名市から流入している状況です。

和水町在住の通勤・通学者	5,833 人
(うち町内の通勤・通学者)	2,983 人
町外からの通勤・通学者	2,545 人



▲ 和水町外への通勤・通学者数



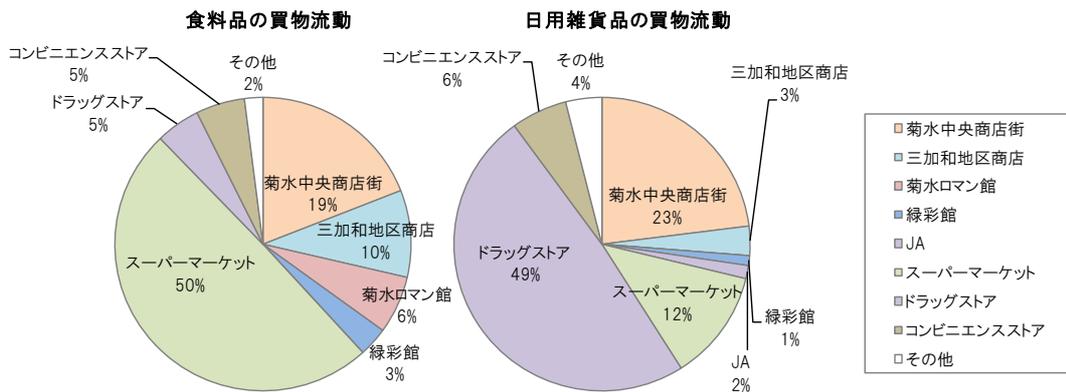
▲ 和水町における通勤・通学者の移動状況

(3) 買物の移動状況

- 町民の買物先については、町内での買物が約 13.4%を占めています。一方で、町外への買物移動状況は山鹿市に 31.7%、熊本市に 19.0%となっています。
- 町内での買物先としては、食料品や日用雑貨品といった生活するうえでかかせないものを「ドラッグストア、スーパーマーケット」で購入する割合が高く、その他「菊水中央商店街」などが挙げられています。

県・市町村名		割合	0	10	20	30	40
熊本県	和水町	13.4	13.4				
	山鹿市	31.7	31.7				
	熊本市	19.0	19.0				
	玉名市	11.6	11.6				
	荒尾町	3.7	3.7				
	南関町	0.7	0.7				
	県内その他の市町村	2.5	2.5				
福岡県	11.6	11.6					
その他の県	0.6	0.6					
店舗外(移動販売・通信販売等)		5.0	5.0				

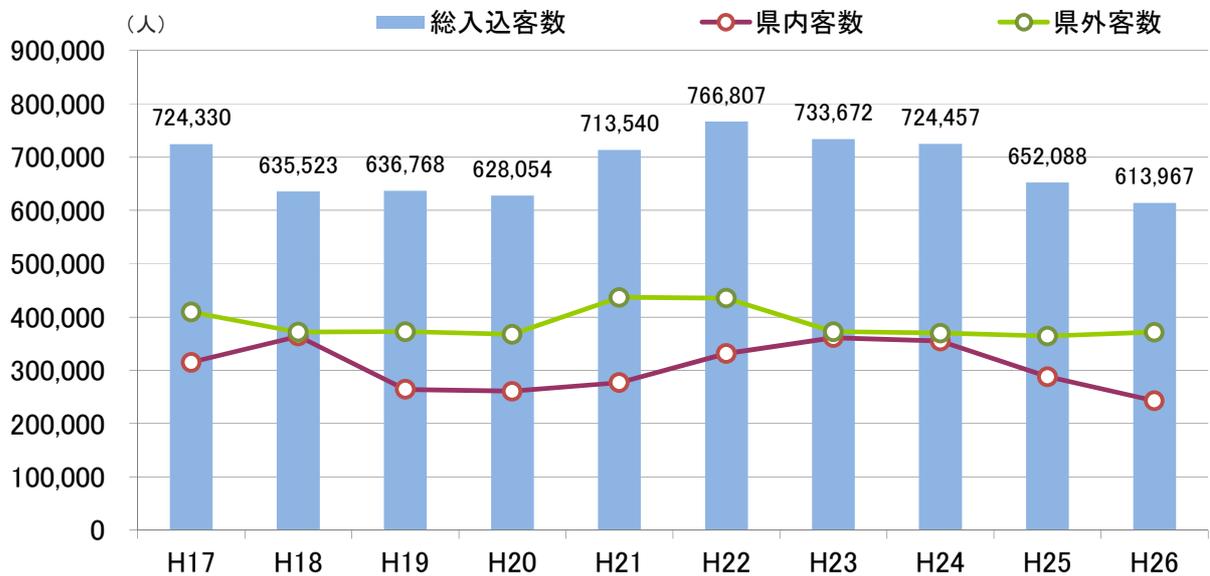
▲和水町民の買物先（市町村）



▲和水町内の買物先（和水町内の内訳）

(4) 観光動向

- 和水町への観光客入込数は、年間613,967人（H26）となっており、直近の10年ではH22年を境に減少傾向にあります。
- 県外から訪れる観光客数が多い状況となっています。



出典：和水町観光交流振興計画 H22  
 和水町商工観光課データ H20～H26

▲和水町における観光入込客数の推移

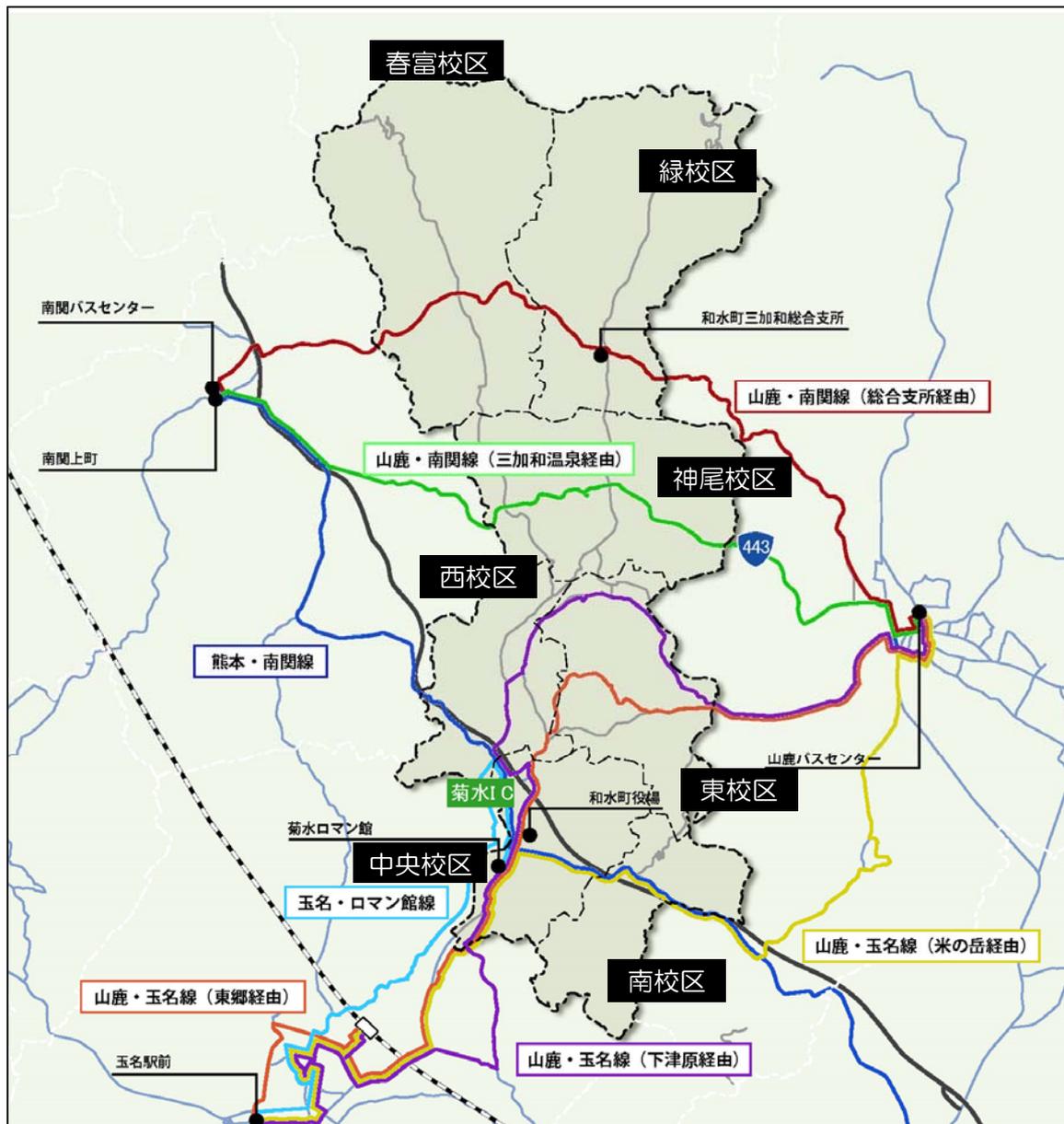
3. 公共交通の現況

(1) 路線バスの運行状況

現在、和水町では産交バス株式の路線バスが運行しています。主に山鹿～玉名、山鹿～南関をむすんでいます。

▼路線バスの運行状況

分類	運行路線	経由地	運行便数			料金	
			平日	土曜	休日		
産交バス	熊本・南関線	江田	12便	12便	12便	距離制 (初乗り 150円)	
	玉名・ロマン館線	月田	6便	4便	6便		
	山鹿・玉名線		米の岳	16便	16便		14便
			東郷	12便	10便		11便
			下津原	4便	4便		4便
	山鹿・南関線		三加和温泉	10便	10便		10便
			総合支所	16便	14便		14便



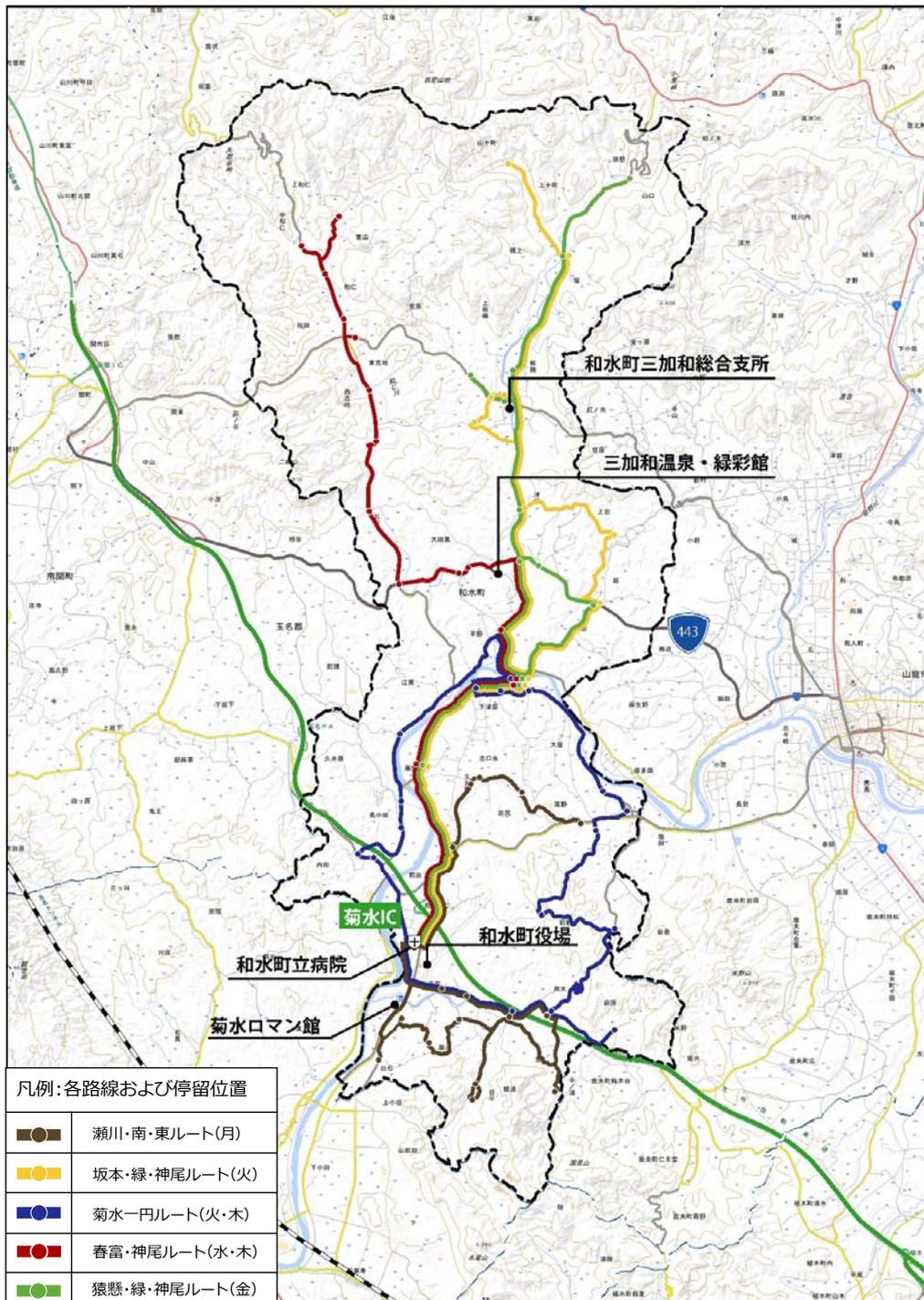
▲運行路線図

(2) ケアバスの運行状況

和水町立病院が運営するケアバスは、曜日毎に違う路線で路線数は計5路線を運行しています。

▼ケアバスの運行状況

運行ルート	運行曜日	運行便数	料金
瀬川・南地区・東地区	月曜	2 便	無料
坂本・緑・神尾	火曜		
菊水一円	火曜・木曜		
春富・神尾	水曜・木曜		
猿懸・緑・神尾	金曜		



▲ケアバスの運行路線

## (3) タクシーの運行状況

和水町には、2社のタクシー事業者が営業を行っており、玉名郡を中心に町民の日常的な交通手段を担っています。

## ▼タクシーの運行状況

運営会社	運行エリア	料金
(有)高瀬合同タクシー	主に玉名郡全域	距離制・時間制
(有)三加和タクシー		

## (4) その他サービスの運行・運営状況

## ①三加和小学校スクールバス

登校時、7時半、または8時に三加和小学校着になるよう運行しています。また、下校時は月～木が16時半発、金曜が15時半発となっています。

## ▼スクールバスの運行状況

実施主体	運行路線	運行便数		利用学生数	
		登校	下校		
			月・金		火～木
和水町	春富コース	2便	1便	2便	51人
	緑・神尾コース	2便			39人
	神尾コース	1便		42人	

## ②菊水ロマン館温泉バス

菊水ロマン館が独自に走らせている送迎バスで、和水町内では水曜日と木曜日、菊水ロマン館に10時着、16時半発で運行しています。また、木曜日は館内で健康体操を実施しています。

## ▼温泉送迎バスの運行状況

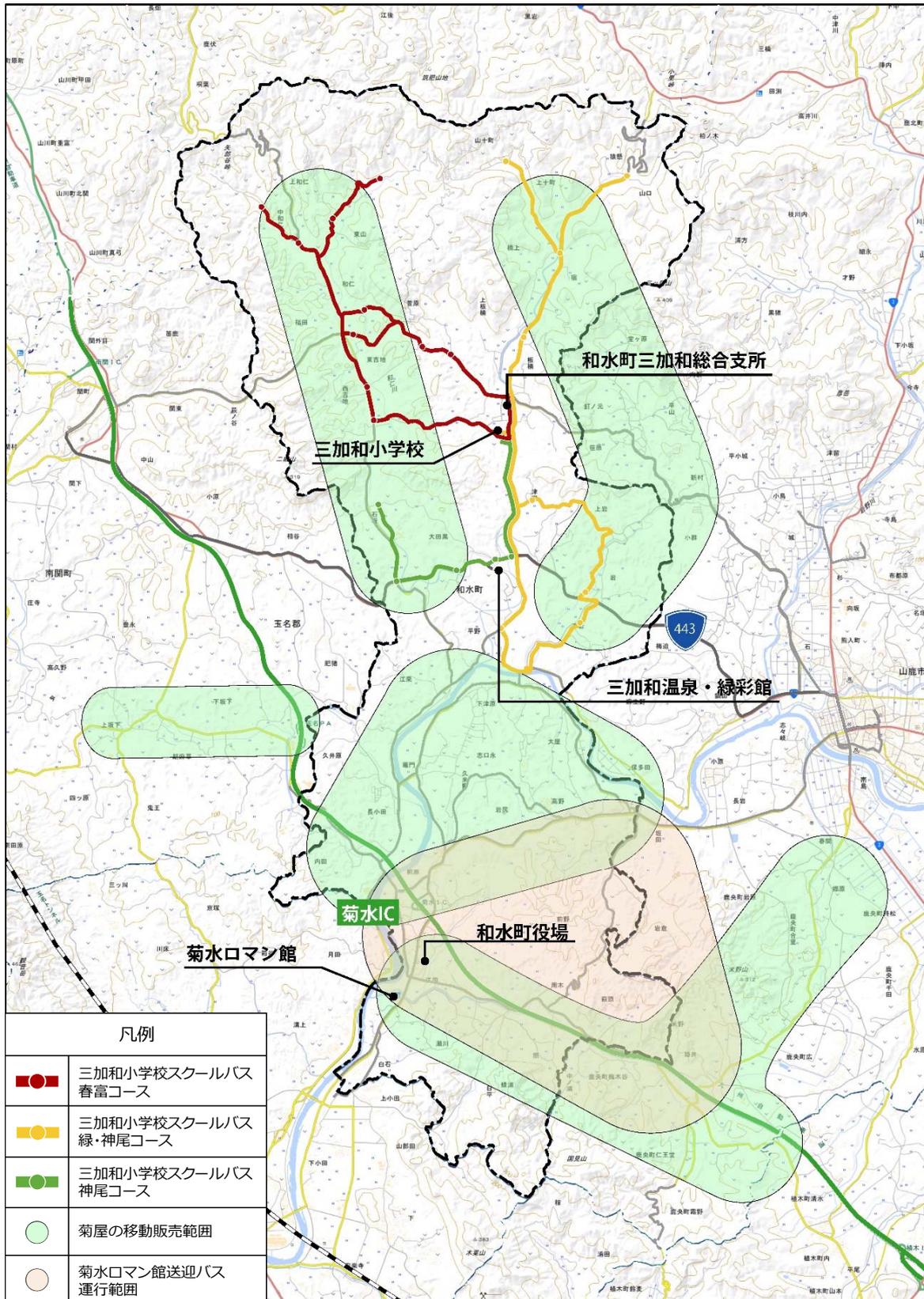
実施主体	運行路線	運行曜日	運行便数	料金
(株)菊水ロマン館	玉名市小田地区	月曜	2便	無料
	菊水南地区	水曜		
	菊水東地区	木曜		

## ③スーパー菊屋による移動販売

スーパー菊屋は2台の改造軽トラックで10時半から18時まで移動販売を行っています。

### 3. 公共交通の現況

その他サービスの運行・運営状況として、三加和小学校運行のスクールバス、菊屋の移動販売、菊水ロマン館の送迎バスの運行範囲を以下の図に示します。



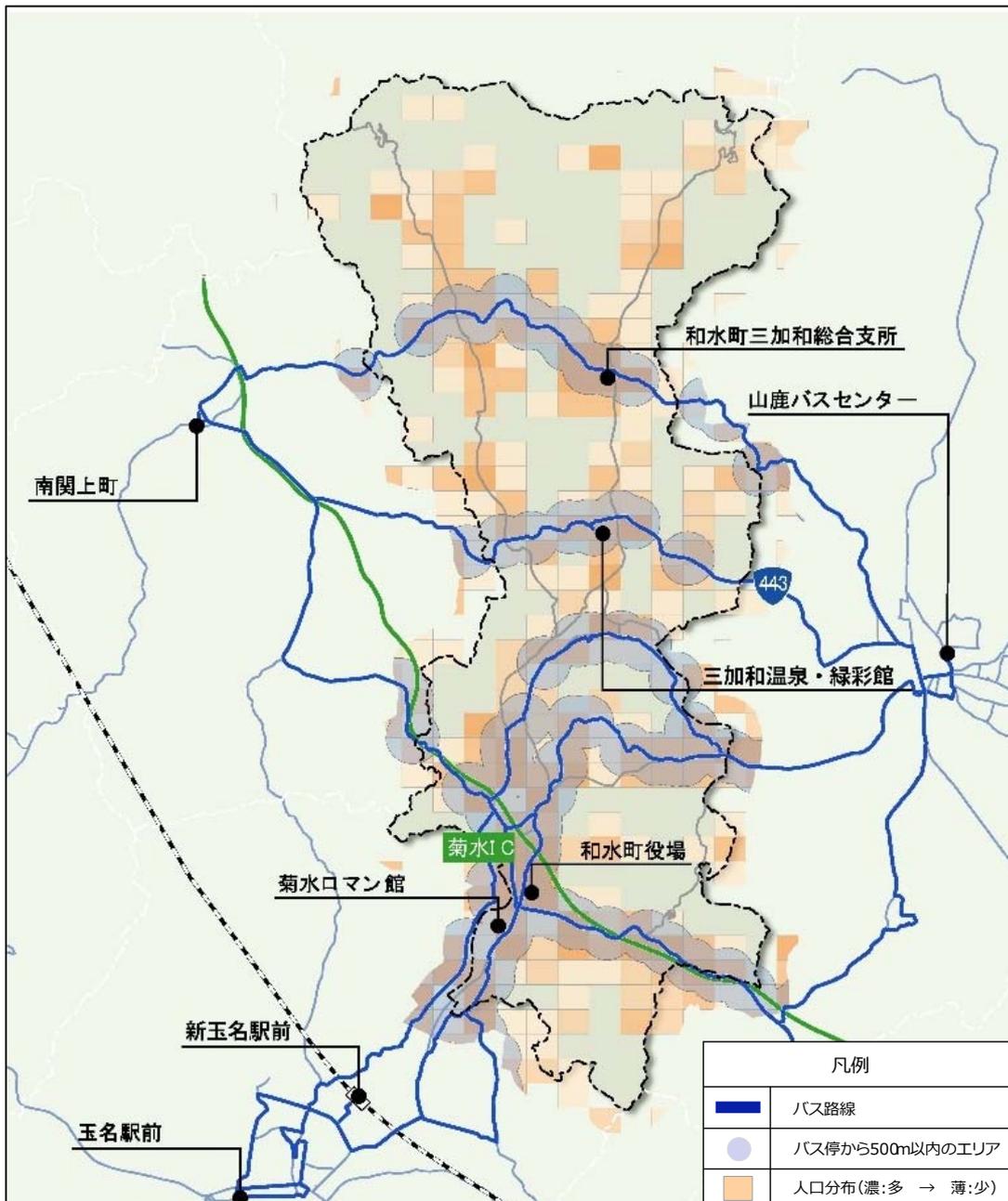
▲その他サービスの運行・運営状況

(5) 交通空白地域の状況

① 全人口による交通空白地域の状況

バス路線は和水町を横断するように運行しています（下記に、バス停から 500m 以内のエリアを抽出）。旧三加和町である和水町北部は交通空白地域が目立つ現状があります。また旧菊水町南部も交通空白地域が目立っています。

※交通空白地域は、地方では駅から半径 1,000m 以上、バス停から半径 500m 以上を空白地域と捉える場合があることが「地域公共交通づくりハンドブック（H21.3 国土交通省）」に示されており、参考値として用いています。

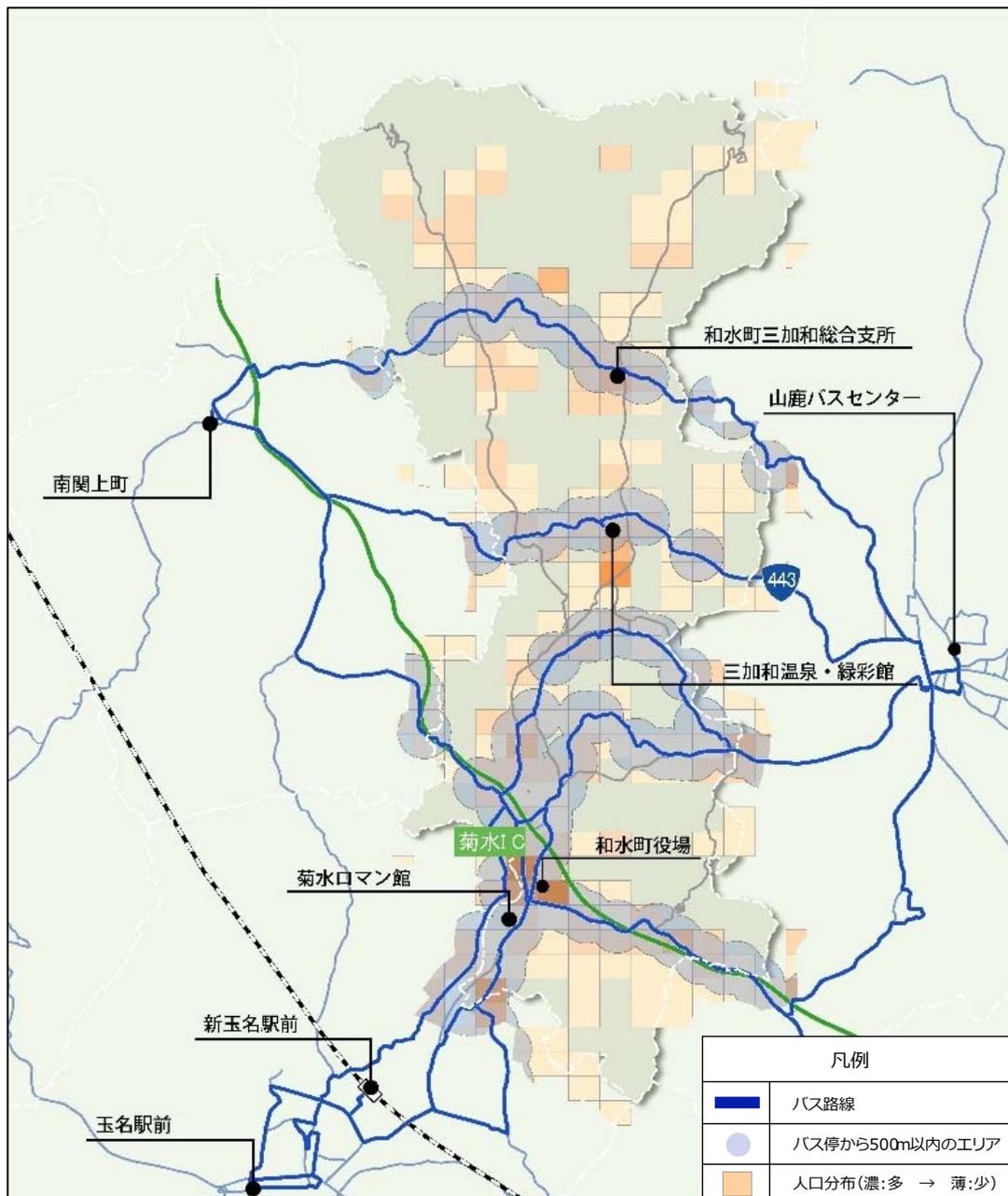


▲ 公共交通路線の 500m 以内のエリア

### 3. 公共交通の現況

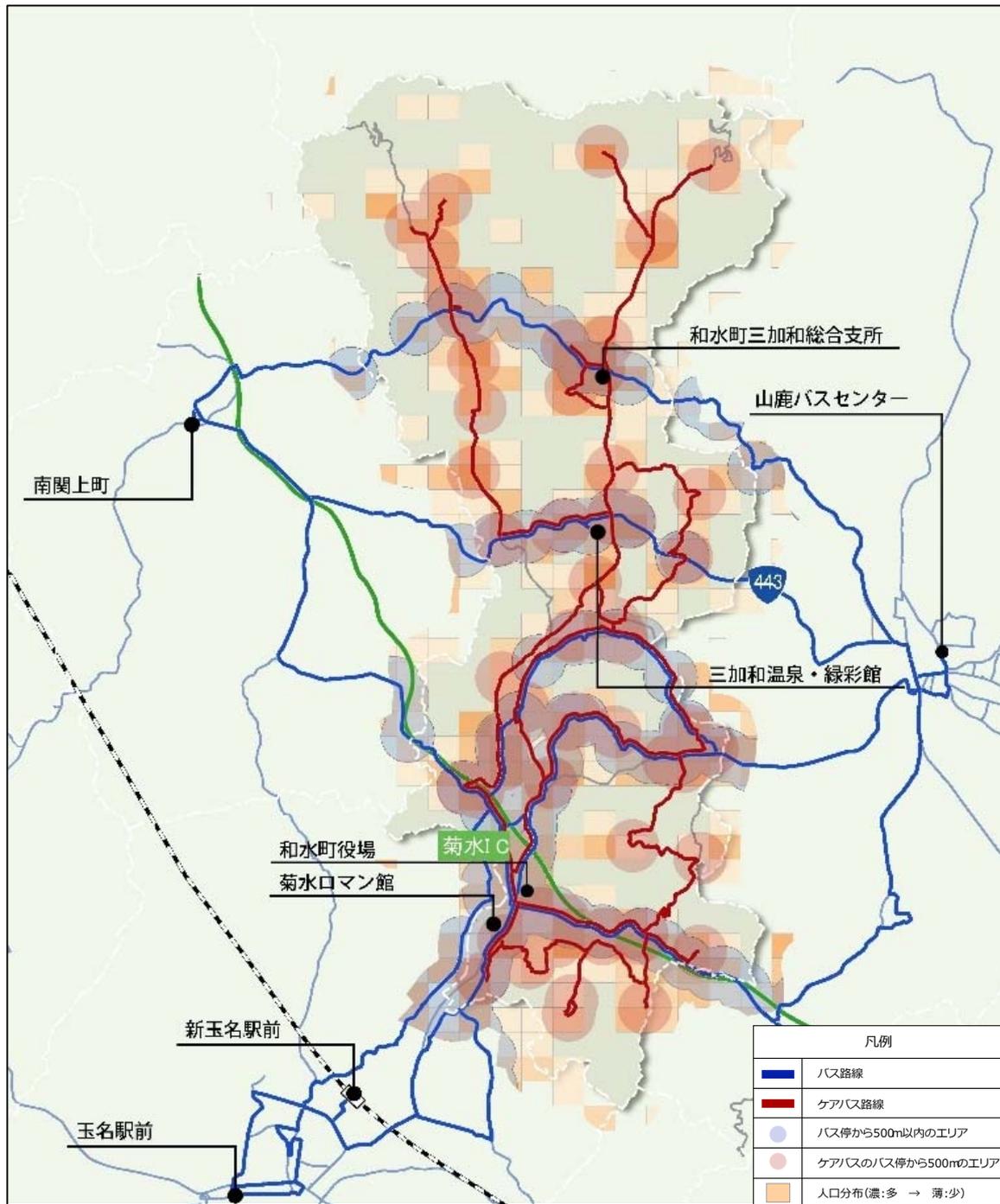
#### ②65歳以上人口による交通空白地域状況

65歳以上の居住状況についても、全人口の交通空白地域をみた場合と同様に和水平町北部と、旧菊水町南部に交通空白地域が見受けられます。



▲公共交通路線の500m以内のエリア(65歳以上人口分布)

(参考) 路線バスとケアバスの路線図



▲路線バスとケアバスの路線図

## (6) 既存路線バスの利用状況

既存路線バスの利用状況を以下に整理します。

H27年7月における和水平町内の乗降人数とその他の市町村への乗降人数を1日あたりの人数で表しています。

和水平～山鹿間と和水平～玉名間の乗降が多い状況にあります。

ケアバスの利用は菊水一円ルートの利用が高い状況にあるものの、ルートによって偏りが生じています。

▼既存路線バスの乗降状況 (H27.7)

(人/日・便)

No	路線名	上下	和水平町内			和水平～山鹿間			和水平～南関間			和水平～玉名間			和水平～熊本間			合計
			平日	土日	祝日	平日	土日	祝日	平日	土日	祝日	平日	土日	祝日	平日	土日	祝日	
①	熊本～南関線	上り	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.3	2.0	0.0	0.8	-	-	-	5.9	2.0	0.7	12.3
		下り	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.8	0.3	0.0	-	-	-	5.5	2.5	0.0	9.1
②	山鹿～総合支所～南関線	上り	0.1	0.0	0.0	4.6	6.5	2.6	0.3	0.5	0.4	-	-	-	-	-	-	15.0
		下り	0.3	0.0	0.0	8.3	5.0	4.8	1.2	1.0	0.0	-	-	-	-	-	-	20.6
③	山鹿～三加和温泉～南関線	上り	0.3	0.0	0.5	2.3	1.9	2.2	0.7	0.3	0.5	-	-	-	-	-	-	8.8
		下り	0.1	0.0	1.0	4.7	3.0	1.5	0.5	0.0	0.5	-	-	-	-	-	-	11.3
④	山鹿～看護大～玉名線	上り	1.3	1.0	0.0	1.9	0.0	0.0	-	-	-	3.9	3.0	0.3	-	-	-	11.4
		下り	1.2	0.3	0.0	1.3	0.3	0.0	-	-	-	3.4	3.0	1.0	-	-	-	10.6
⑤	山鹿～東郷～玉名線	上り	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-	0.0
		下り	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	1.6	0.0	0.0	-	-	-	1.6
⑥	山鹿～下津原～玉名線	上り	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	-	-	-	2.8	1.5	0.7	-	-	-	5.7
		下り	0.7	0.0	1.0	0.8	0.0	0.0	-	-	-	0.5	2.0	0.0	-	-	-	4.9
⑦	山鹿～米の岳～玉名線	上り	0.4	0.3	0.0	0.7	0.5	0.3	-	-	-	6.3	1.7	2.2	-	-	-	12.4
		下り	1.2	2.0	1.0	0.9	0.8	0.0	-	-	-	3.3	1.0	0.2	-	-	-	10.4
⑧	玉名・ロマン館線	上り	0.5	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	1.7	0.0	1.0	-	-	-	3.1
		下り	0.8	-	0.5	-	-	-	-	-	-	1.7	-	0.0	-	-	-	3.0
上り合計		-	3.0	1.3	0.8	10.4	8.9	5.4	3.0	0.8	1.7	14.6	6.2	4.2	5.9	2.0	0.7	68.8
下り合計		-	4.3	2.3	3.5	16.1	9.2	6.3	2.4	1.3	0.5	10.5	6.0	1.2	5.5	2.5	0.0	71.6

▼ケアバスの利用状況 (H27.7)

(人/日・便)

運行ルート	病院着時	病院発時	合計
瀬川・南・東ルート (月)	2.3	1.5	3.8
坂本・緑・神尾ルート (火)	0	0	0
菊水一円ルート (火・木)	11.1	10.8	21.9
春富・神尾ルート (水・木)	1.4	1.4	2.8
猿懸・緑・神尾ルート (金)	4.2	4.4	8.6
合計	19.0	18.1	37.0

(7) 公共交通に関する和水町の財政支援状況

和水町が財政支援を行っている公共交通の利用状況・収支状況について、以下に整理します。  
 和水町による路線バスへの補助額は総額約 3,400 万円となっています。山鹿～総合支所～南関線が最も補助額が高く、およそ 800 万円となっています。

※キロ程は、片道の運行キロ程を記載  
 ※運行回数は、1 往復を運行回数 1.0 とし、1 日あたり平均運行回数を記載

▼運行系統別の利用・収支状況

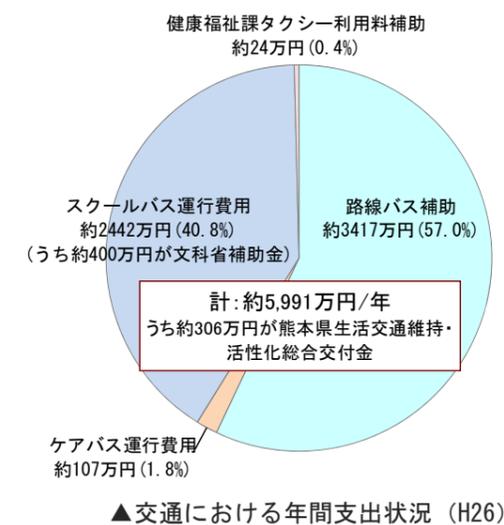
No	運行系統		運行エリア			年間輸送実績				経常費用			備考欄		
	路線名	キロ程 (km/便)	運行回数 (回/日)	起点	主な経由地	終点	実績走行キロ (km)	輸送人員 (人)	平均乗車密度 (人)	1日当たり輸送量 (人)	経常収入 (千円)	経常費用 (千円)		経常欠損額 (千円)	和水町補助額 (千円)
1	熊本～南関線	29.8	2.2	熊本交通センター	江田うから館前	南関上町	48,752.8	3,995.0	0.5	1.1	1,116	10,393	-9,276	2,718	※2,078千円は国庫補助
2	山鹿～総合支所～南関線	22.6	8.7	山鹿市役所前	平山温泉前 三加和総合支所	南関上町	144,459.2	21,031.0	0.9	7.8	5,347	30,796	-25,448	8,220	
3	山鹿～三加和温泉～南関線	18.6	8.3	山鹿市役所前	三加和温泉 うから館前	南関ターミナル	112,753.2	13,268.0	0.6	4.9	3,082	24,037	-20,955	6,760	
4	山鹿～看護大～玉名線	29	4.5	山鹿ハセンター	東郷農協前 九州看護福祉大学前	玉名駅前	96,710.1	24,311.0	1.6	7.2	6,200	20,617	-14,416	4,673	
	山鹿～川辺田～玉名線	28.2	0.8	山鹿ハセンター	東郷農協前 川辺田	玉名駅前	17,009.0	4,386.0	2.1	1.6	1,410	3,626	-2,216	739	
5	山鹿～下津原～玉名線	33.1	1.9	山鹿ハセンター	下津原 山部田	玉名駅前	48,142.7	6,746.0	1.2	2.2	2,033	10,263	-8,230	3,033	
6	山鹿～米の岳～玉名線	29.4	7.6	山鹿ハセンター	米の岳農協前 川辺田	玉名駅前	164,680.1	27,650.0	1.2	9.1	7,627	35,107	-27,479	6,449	
7	玉名・ロマン館線	13.6	2.8	玉名駅前	永安寺 月田	菊水ロマン館前	14,171.2	1,994.0	0.5	1.4	432	3,021	-2,588	799	
	玉名・ロマン館線②	13.6	2.8	玉名駅前	永安寺 月田	菊水ロマン館前	14,008.0	2,346.0	0.7	1.9	464	2,993	-2,529	781	
小計		-	-				660,686.3	105,727.0	9.3	37.2	27,711	140,852	-113,137	34,172	
合計		-	-				660,686		9		27,711	140,852	(113,137)	34,172	

和水町が財政支援を行っているバス交通について、「走行 1km あたりの利用者数」を以下に整理します。

▼走行 1 キロあたりの利用者数

順位	運行系統		輸送実績		
	運行系統名	キロ程 (km)	実績走行キロ (km)	輸送人員 (人)	1kmあたり利用者数
1	山鹿～川辺田～玉名線	28.2	17,009	4,386	0.26
2	山鹿～看護大～玉名線	29.0	96,710	24,311	0.25
3	山鹿～米の岳～玉名線	29.4	164,680	27,650	0.17
4	玉名・ロマン館線②	13.6	14,008	2,346	0.17
5	山鹿～総合支所～南関線	22.6	144,459	21,031	0.15
6	玉名・ロマン館線	13.6	14,171	1,994	0.14
7	山鹿～下津原～玉名線	33.1	48,143	6,746	0.14
8	山鹿～三加和温泉～南関線	18.6	112,753	13,268	0.12
9	熊本～南関線	29.8	48,753	3,995	0.08
バス交通 平均値		-	-	-	0.16

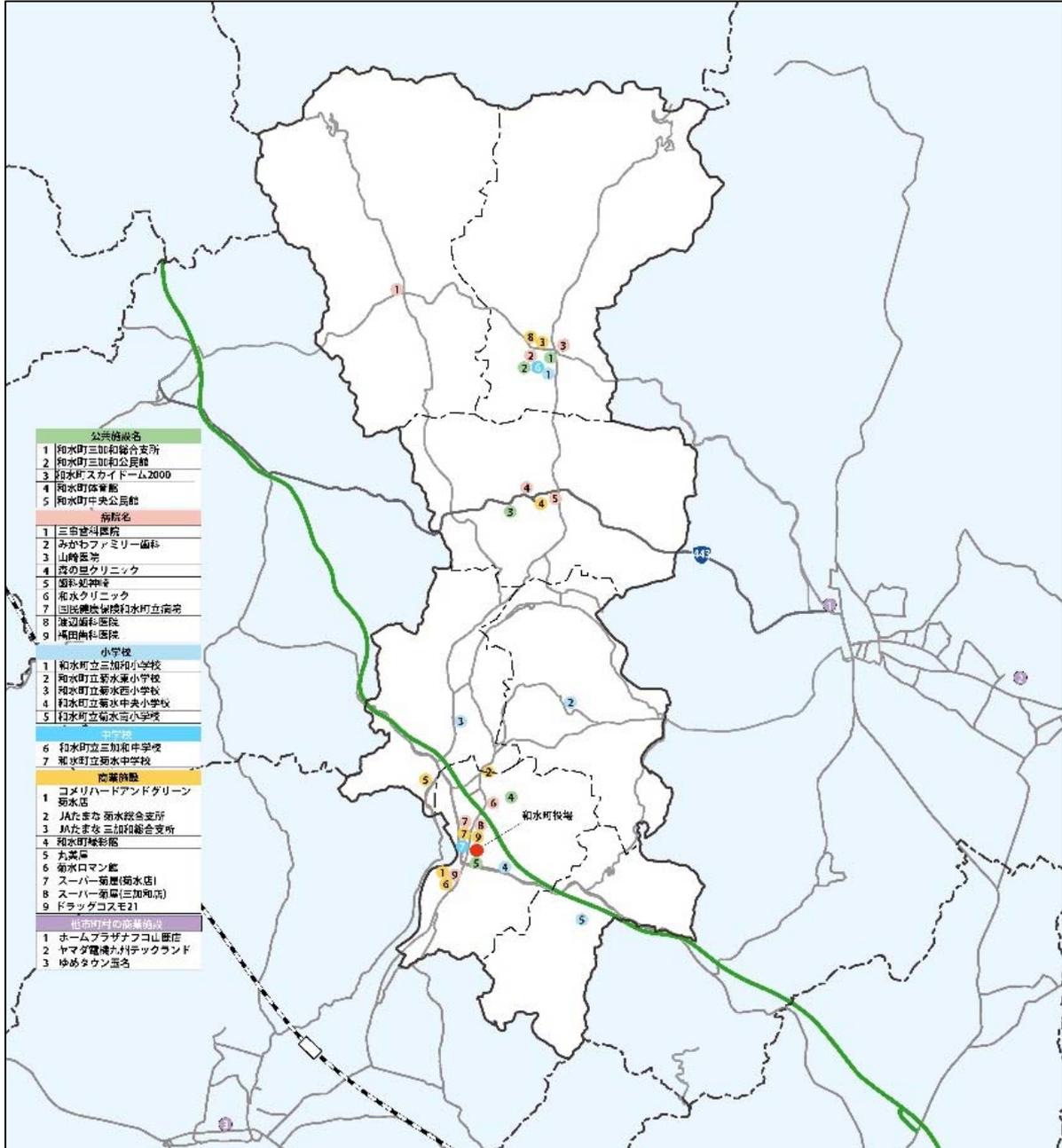
和水町が交通における財政支出として、年間約 5,991 万円を財政支援・支出しております。



## 4. 小さな拠点づくりに向けた現状の把握

### (1) 主要施設の分布状況

町の商業施設や医療施設、公共施設などの主要な施設は、市街地部に集中しています。



▲施設分布図（和歌町全域とその周辺の市町村）

#### 4. 小さな拠点づくりに向けた現状の把握

##### (2) 町民の主な移動先

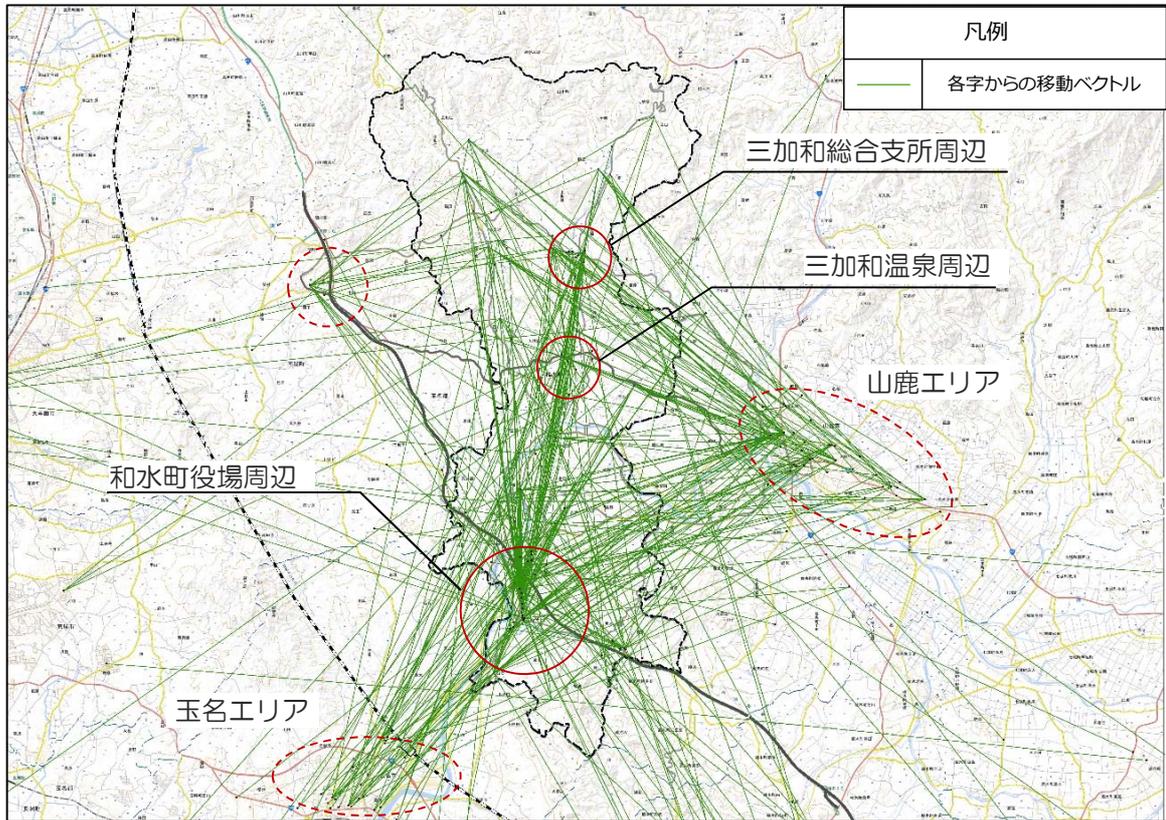
町民の主な移動先として、世帯の代表者を対象とした住民アンケート(後述)結果より、回答数の多かった上位 20 の名称を以下に掲載します。

##### ▼移動先ランキング

順位	主な移動先順位	件数
1	スーパー菊屋	149
2	和水町立病院	97
3	ゆめ마트山鹿店	51
4	菊水ロマン館	35
5	和水町役場	29
6	ナフコ玉名店	24
7	ビッグオーク	19
8	玉名中央病院	15
9	山鹿市民医療センター	13
9	山鹿中央病院	13
11	ゆめタウン山鹿店	10
12	中央公民館	9
13	コメリハード&グリーン菊水店	8
13	山崎医院	8
13	東洋電装(株)	8
13	緑彩館	8
13	和水クリニック	8
18	ビッグオーク南関ショッピングセンター	7
18	夢大地館	7
20	熊本大学医学部附属病院	6
20	ナフコ山鹿店	6
20	ミスターマックス山鹿店	6
20	ゆめ마트東山鹿店	6
20	ゆめタウン玉名	6
20	福島眼科	6

(3) 町民の移動状況

住民アンケートの結果より町民の主な外出先としてあげられた施設と居住地区を結んだ図を以下に示します。町内では、三加和総合支所周辺と三加和温泉周辺、和水町役場周辺を結ぶ移動が多く町内の拠点的な役割を担っていることが分かります。町外では、山鹿エリア、玉名エリアとの結びつきが強いことが分かります。



▲町民の移動状況

(4) 小さな拠点づくりに関連する上位計画等

小さな拠点づくりにむけて関連する上位計画や、関連計画を整理します。

1) 第1次和水町まちづくり総合計画 後期基本計画 (H25.3)

③公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒政策Ⅰ-第2節 福祉

(5) 介護保険事業の推進

①介護予防重視の取り組みの推進

介護予防に関する知識の普及・啓発を行うとともに、介護予防に繋がる地域活動を育成し、高齢者自らがこれらの活動に積極的に参加することで、自主的な介護予防へと繋がります。介護予防事業の柱である「お茶の間筋トレ(教室)」が全地区に普及するよう「拠点づくり」の推進と主体的に運営されるよう「人づくり」を推進します。

⇒政策Ⅱ-第2節 商業・工業

(2) 商店街振興の推進

①商工会との連携による活性化の推進

空き店舗問題の解決や商店活性化に向けた事業を進め、商店街振興として、引き続き商工会との連携による様々な施策を展開していきます。

②高齢者へのサービス提供

高齢化が進行する状況を踏まえ、一人暮らしの高齢者・高齢者世帯への宅配やご用聞き等、地域のニーズに応じたサービス内容の協議を進めます。

4. 前期基本計画の評価・検証

(6) まとめ

生活圏や環境も異なる菊水地区と三加和地区は合併後、祭り等での交流を通して融合が図られており、一つのまちとしての形が形成されつつあります。

2つの地区の融合が図られ、一つのまちづくりに向かって進む時期にあたる後期基本計画の期間においては、企業誘致がままならない状況を踏まえ、恵まれた交通条件を生かした産業全般にわたる活性化策、とくに、観光振興については、九州新幹線全線開業をきっかけに玉名市、山鹿市、菊池市と県北合同観光PR事業を展開中であり、町内の歴史文化資産との連携を図った魅力あるまちづくりを進めます。

併せて、町民の「住み続けたい」という要求を満たすとともに、観光振興から生み出される来訪者や産業全般の活性化によって生み出される就業者に、本町に「住んでみたい」と思わせる魅力づくりも必要です。

そのためには、両地区の融合のもと、自助・共助・公助の連携による自立した安心して暮らせる地域づくり、まちづくりの充実に、まず取り組みます。(一部抜粋)

2) 和水町過疎地域自立促進計画 (H22. 4)

③公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒Ⅰ 産業の振興

(5) 商業

既存商店の育成・強化を目標に、点在する小売店舗を数ヶ所に集約し、コストの低減や顧客ニーズにあった商品販売のための共同店舗の設置等、時代に則した新たな事業展開が必要である。また、業績向上を図るため、行政や企業・各種団体等が行うイベントとタイアップした商品販売、高齢者や障害者等移動が困難な人々に配慮した宅配事業等の展開、インターネットの活用による新たな顧客の掘り起こし等、商工会が中心となって取り組める体制づくりを構築し、商工会の自立を支援していく。

(6) 観光又はレクリエーション

観光資源の整備やアクセス道路、施設案内板等の観光サイン、肥後民家村等の宿泊施設等の充実、整備をはじめ、農家民泊のための研修会の開催や関連する組織の育成を図っていかねばならない。また、本町ならではの独自性を打ち出すために「構造改革特別区域」の申請を積極的に行い、滞在型の観光プランをより魅力あるものにしていく。(一部抜粋)

⇒Ⅷ 集落の整備

集落の維持については、集落間の協働を促すために、集落間を結ぶ道路や公共施設までのアクセス道路、集落間や集落内の生活道路の整備を積極的に進め、住民が安全に安心して移動できるようにする。また、住民自治の活動の拠点となる地域の公民館整備も併せて進める必要がある。

(一部抜粋)

3) 和水町観光交流振興計画 (H22. 3)

⇒Ⅲ 住民の誇りや愛着の醸成

**取組み 3 里山暮らし・散策・体験観光の推進**

**実践項目 3 住民が参画する仕組みの確立**

住民が自ら企画し、自ら実行していくには、町民の多くの方々に賛同を得るための同意形成が必要であり、住民ワークショップが効果的に機能していきます。そこで、住民ワークショップを開催し、住民の意見を観光によるまちづくりに活かしていきます。

## 5. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査

和水町における公共交通の利用実態およびニーズを把握するため、町民や地域の代表者、交通事業者等を対象とした調査を実施しました。

以下に各調査の概要および結果を記載します。

## ◆実施した調査

- (1) 住民アンケート調査
- (2) 地区代表者へのグループインタビュー調査
- (3) 交通弱者等への戸別訪問調査
- (4) 交通事業者・町内施設等へのヒアリング調査

## ◆各調査の概要

項目	住民 アンケート調査	地区代表者への グループインタビュー調査	交通弱者等への 戸別訪問調査	交通事業者・ 町内施設等への ヒアリング調査
調査目的	町民の生活行動パターン、外出状況など、公共交通の利用可能性を把握	各地域での移動に困っている方の名前等の聞き取りと地域での取組みや問題点の把握	公共交通がないと困る交通弱者の公共交通に対する具体的なニーズを把握	事業者や町内関係者からみた公共交通の課題、本事業への協力可能性を把握
調査方法	郵送による配布・回収	グループインタビュー方式	直接面談方式	直接面談方式
調査対象	和水町在住世帯代表者 全 3,882 世帯 (8月時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行政区長</li> <li>・民生委員</li> <li>・社会福祉協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行政区長</li> <li>・民生委員</li> <li>・社会福祉協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス、タクシー事業者</li> <li>・主要施設</li> <li>・和水町の各課、及び関係団体</li> </ul>

(1) 住民アンケート調査

1) 調査概要

①調査目的

町内在住の全世帯を対象として、生活行動パターンや公共交通の利用実態、今後の利用の可能性等を把握するためのアンケート調査を実施しました。

②調査日

平成 27 年 8 月

③調査方法

和木町の全 3,882 世帯（8 月時点）への郵送による配布、回収

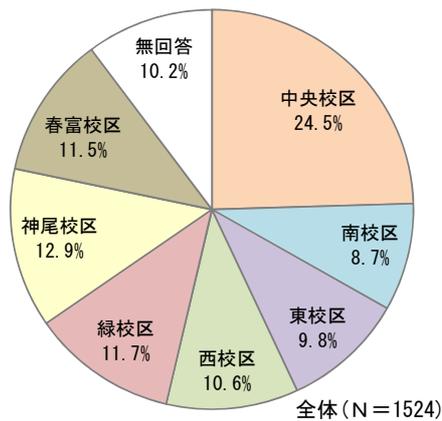
④回答者数

有効回答率：39.3%（配布数 3,882 票 有効回収数 1,524 票）

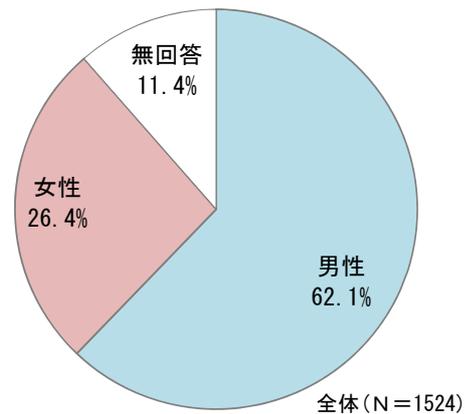
2) 調査結果

①回答者の属性

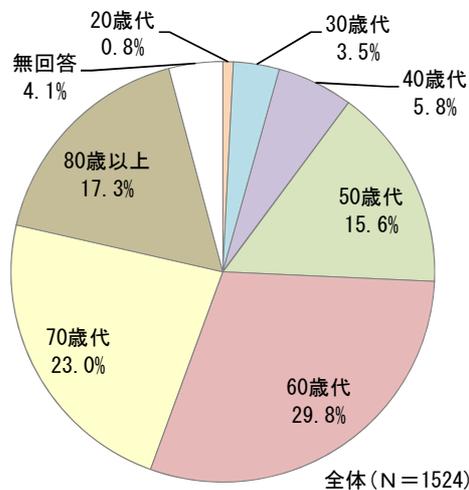
居住校区は、全体の約 4 分の 1 (24.5%) を中央校区がしめています。性別は、男性が約 6 割(62.1%)、女性が約 3 割(26.4%)の回答状況となっています。年齢は、回答の約 7 割(70.1%)が 60 歳代以上です。職業では、「無職」の方の回答が全体の 3 割以上(35.6%)をしめています。



▲居住校区

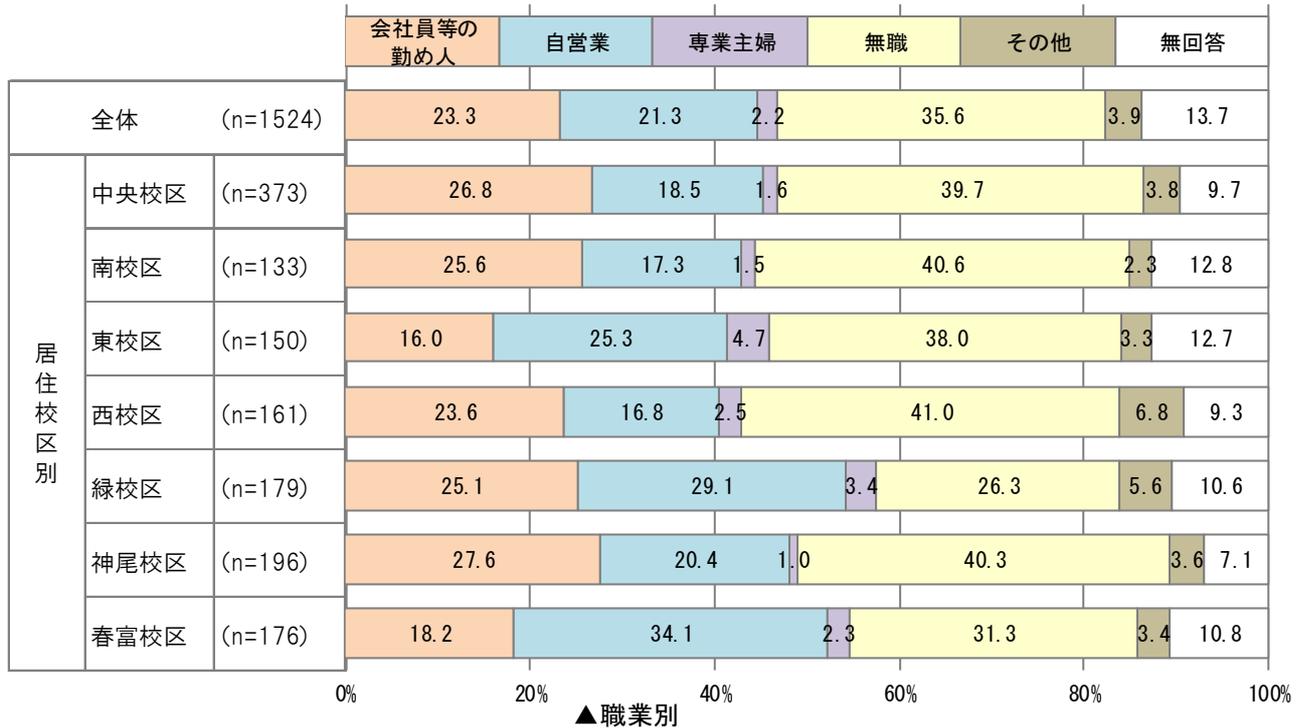


▲性別



▲年齢構成

## 5. 公共交通利用実態・ニーズ把握調査

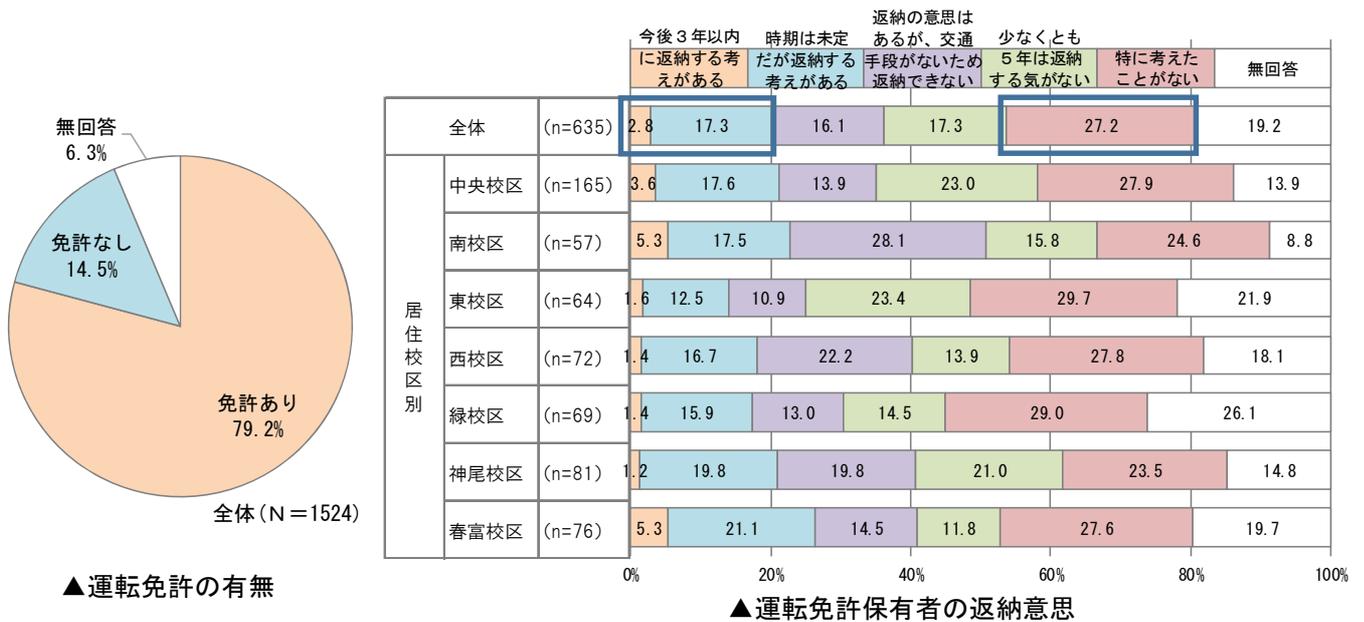


※居住校区別では、校区不明の回答を除く

### ②運転免許の有無、65歳以上における今後の運転免許の返納意志

運転免許の有無では、全体の約8割(79.2%)が運転免許を持っており、14.5%が運転免許を持っていない現状にあります。

65歳以上における免許保有者の返納意思に関しては、約2割(20.1%)が返納する考えを持っています。また、免許保有者のなかで16.1%が「返納の意思はあるが、交通手段がないため返納できない」と回答しています。一方で、約3割の方が「特に考えたことがない」と回答しています。

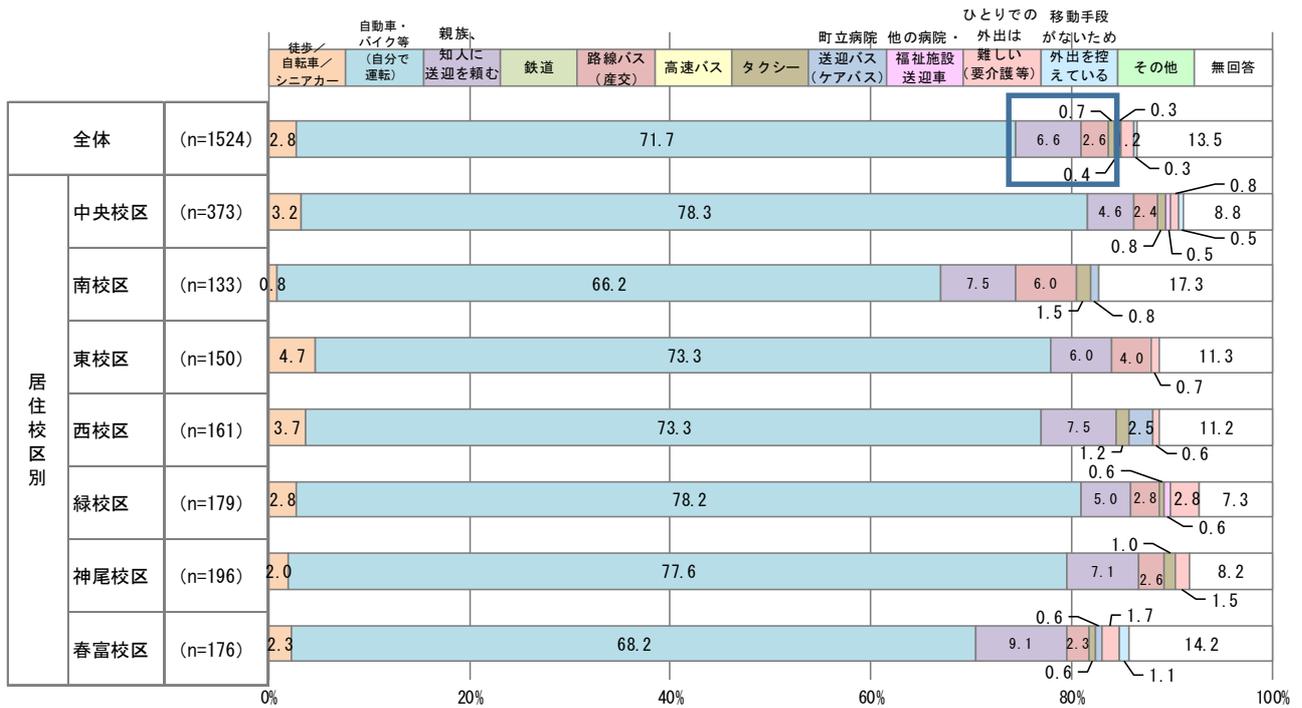


※居住校区別では、校区不明の回答を除く

③ 普段の移動状況とその満足度

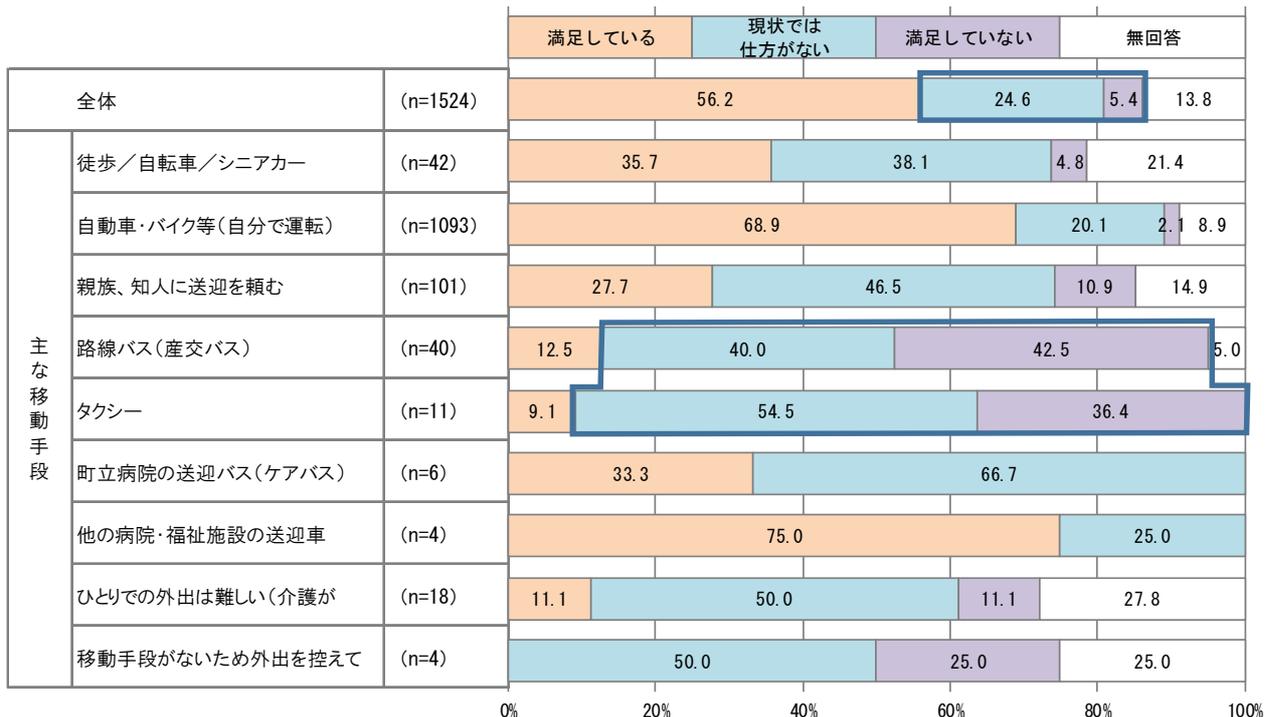
交通手段については、全体の約7割(71.7%)が「自動車・バイク等(自分で運転)」と回答しており、「親族・知人に送迎を頼む」が6.6%、「路線バス」を利用すると回答した方が2.6%、「タクシー」を利用すると回答した方が0.7%、「町立病院送迎バス(ケアバス)」を利用すると回答した方が0.4%と、移動の際に自動車等を運転していないと考えられる方が15.3%います。

普段の移動状況の結果に対して全体の30%が「現状では仕方がない」、「満足していない」に回答しており、また、「路線バス」や「タクシー」利用者の8割以上が「現状では仕方がない」、「満足していない」と回答しています。



▲ 普段の移動状況

※居住校区別では、校区不明の回答を除く



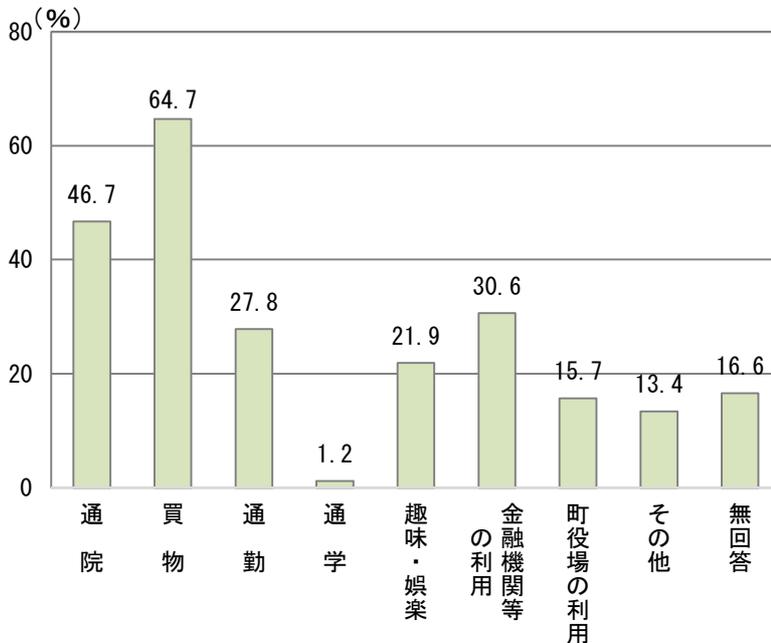
▲ 普段の移動状況による満足度

※主な移動手段では、不明の回答を除く

④主な外出目的、頻度

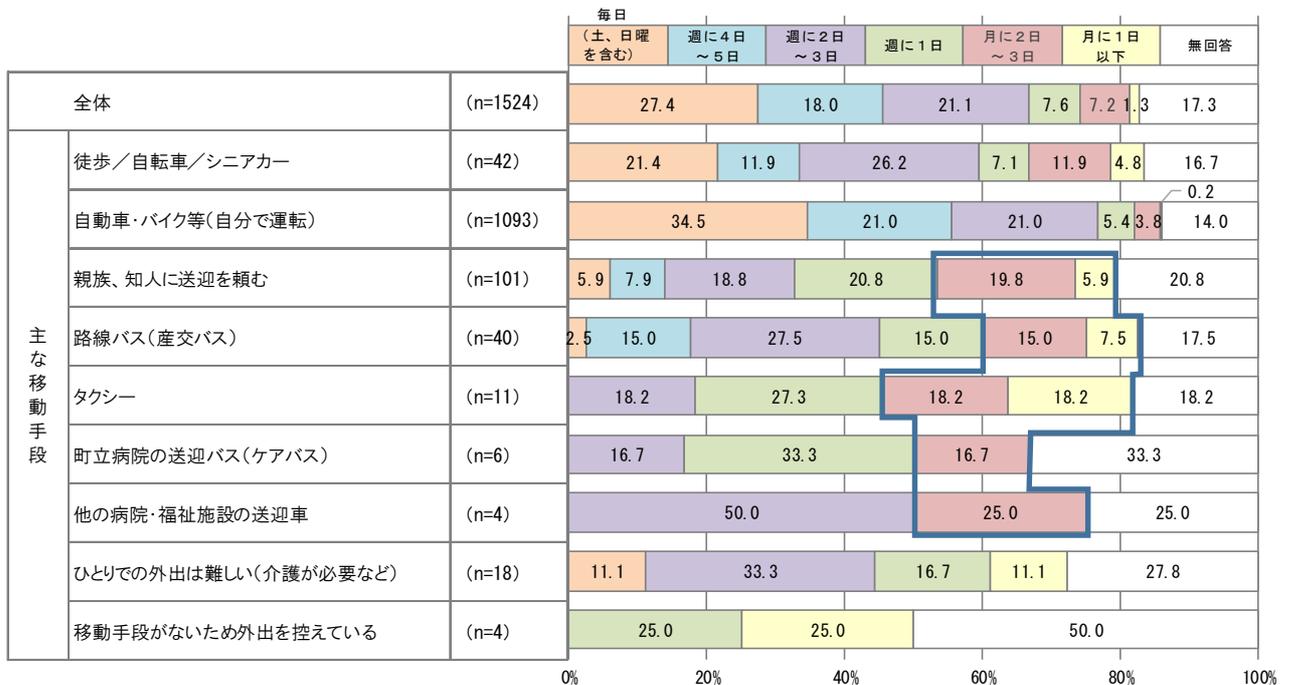
主な外出目的については、「通院」、「買物」が多く、次いで「金融機関等の利用」と「通勤」が多い結果となりました。具体的な買物先には、スーパー菊屋（149件）やゆめmart（51件）の回答が多く、また、病院では和歌山県立病院（97件）の回答が多いです。

主な移動手段における外出頻度では、路線バスやタクシーといった、自分で自由に移動できない交通手段を主に利用する方の回答で「週に2～3日」以下の回答が16.7%以上となっています。



- ※1. 複数回答のため、割合の合計は100%を超える。
- ※2. 回答者に学生はいないが、通学と回答したものもいる。
- ※3. 金融機関はJ A、銀行、郵貯等を指す。

▲主な外出目的

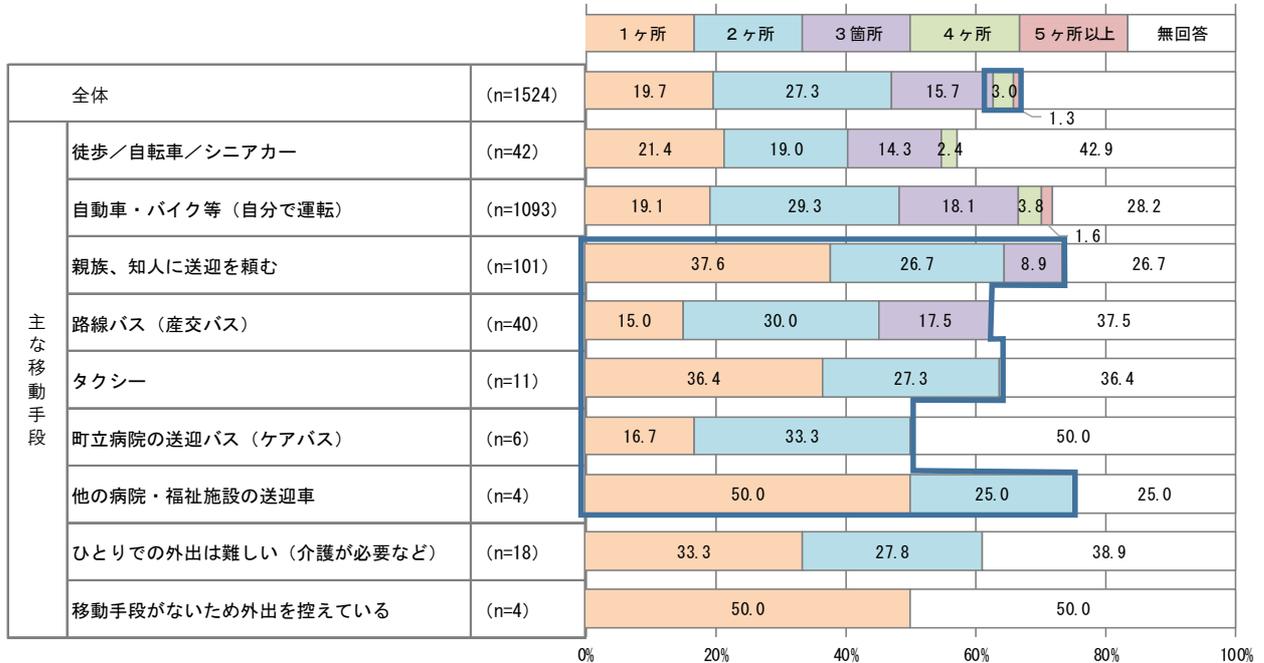


▲主な移動手段における外出頻度

※主な移動手段では、不明の回答を除く

⑤1日の外出で訪れる施設数

自動車・バイク等や、徒歩・自転車・シニアカーといった自由度が比較的高い移動手段に関しては、4施設に訪問すると回答した方が全体のうち、3.0%います。一方で、自分で自由な移動ができない親族等の送迎やバス等の利用者は3施設以下の移動状況にあります。



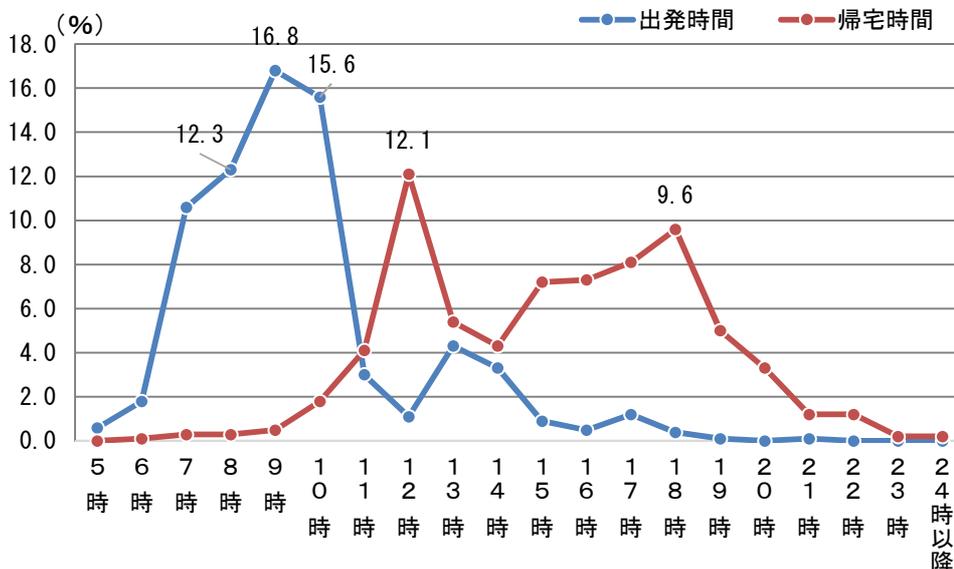
▲移動手段による1回(1日)の外出で訪れる施設数

※主な移動手段では、不明の回答を除く

⑥1回(1日)の外出の出発時間、帰宅時間

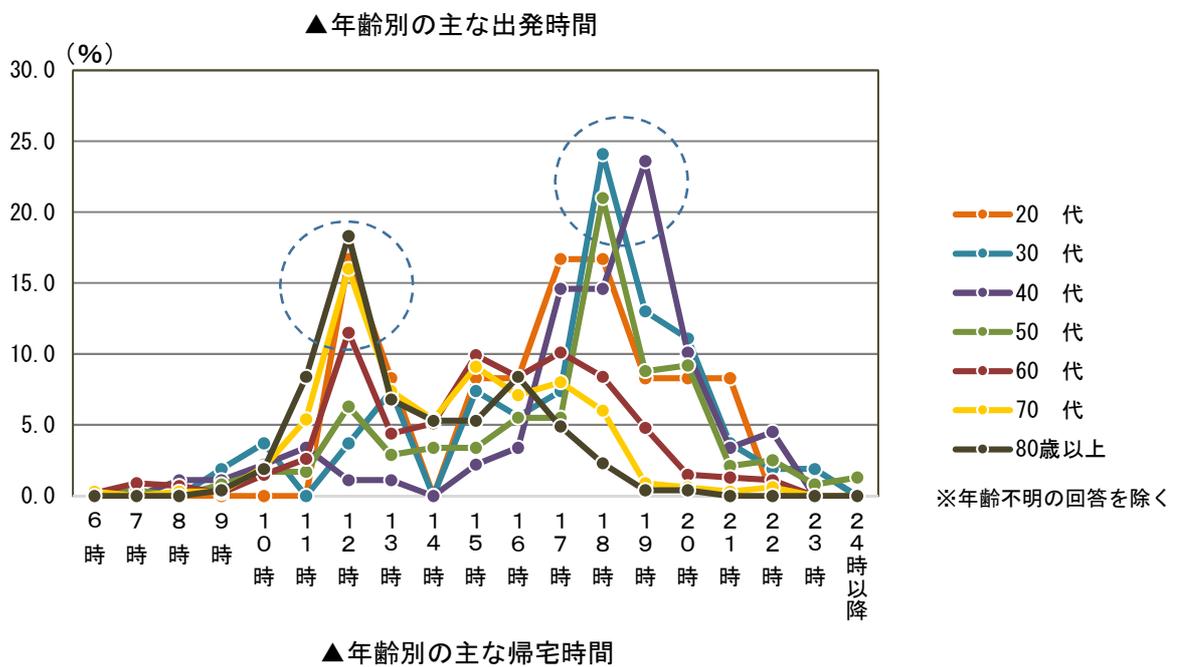
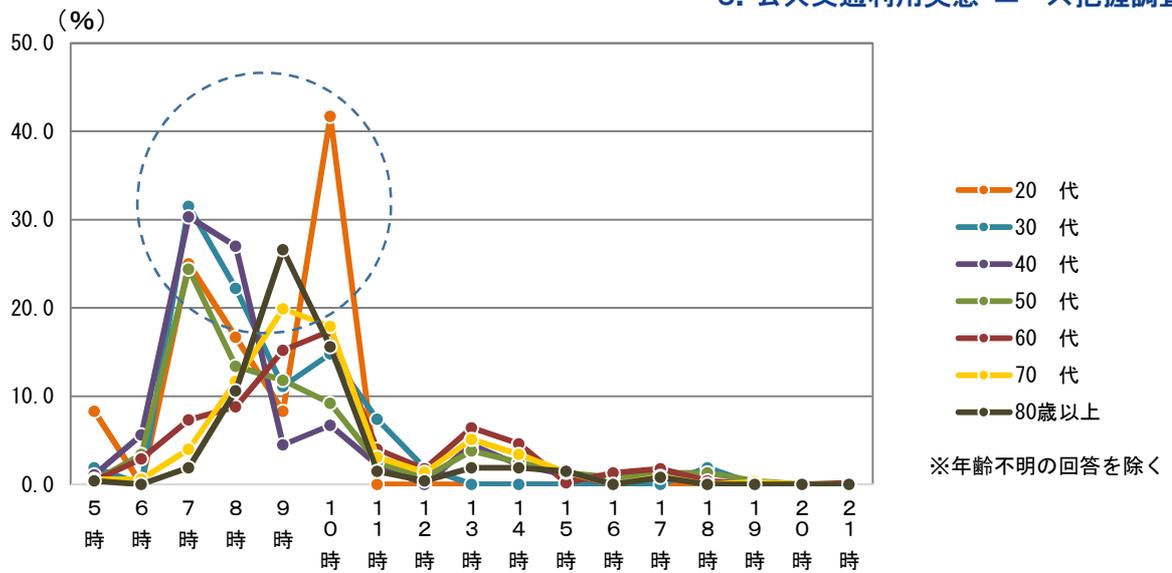
主な外出時間帯について、出発時間は8～10時台が多く、なかでも9時台（16.8%）が最も多いです。

一方、帰宅時間は12時（12.1%）と18時（9.6%）と、昼の時間帯と夕方の時間帯に分かれています。年代別に見ると、60代以上は12時台がピークとなっており、50代以下は18時ごろがピークとなっています。



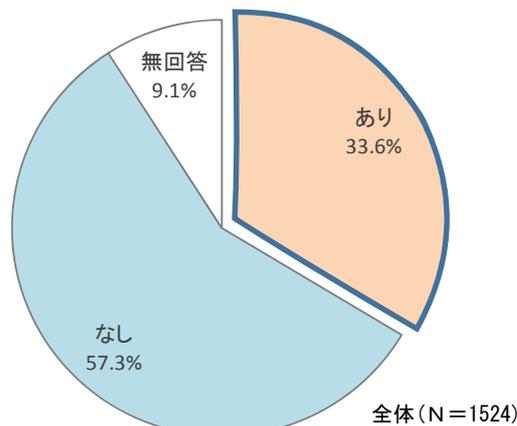
▲主な外出時間

## 5. 公共交通利用実態・ニーズ把握調査



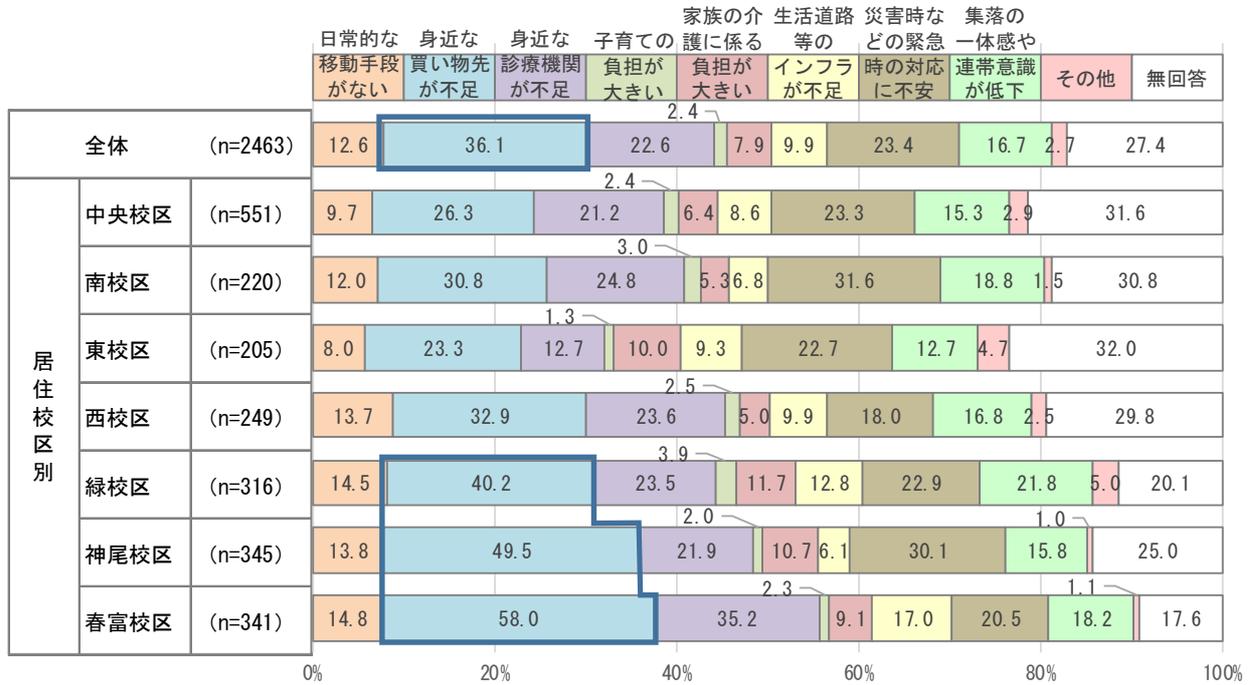
### ⑦友人等との交流状況

全体の約3割（33.6%）が週に1回以上、友人と交流する場を設けています。



⑧ 普段の生活において最も困っていること

全体では「身近な買物先が不足」**36.1%**と感じている方が**36.1%**おり、校区ごとにみると旧三加和町である**緑校区、神尾校区、春富校区**の回答は**4割以上**となっています。

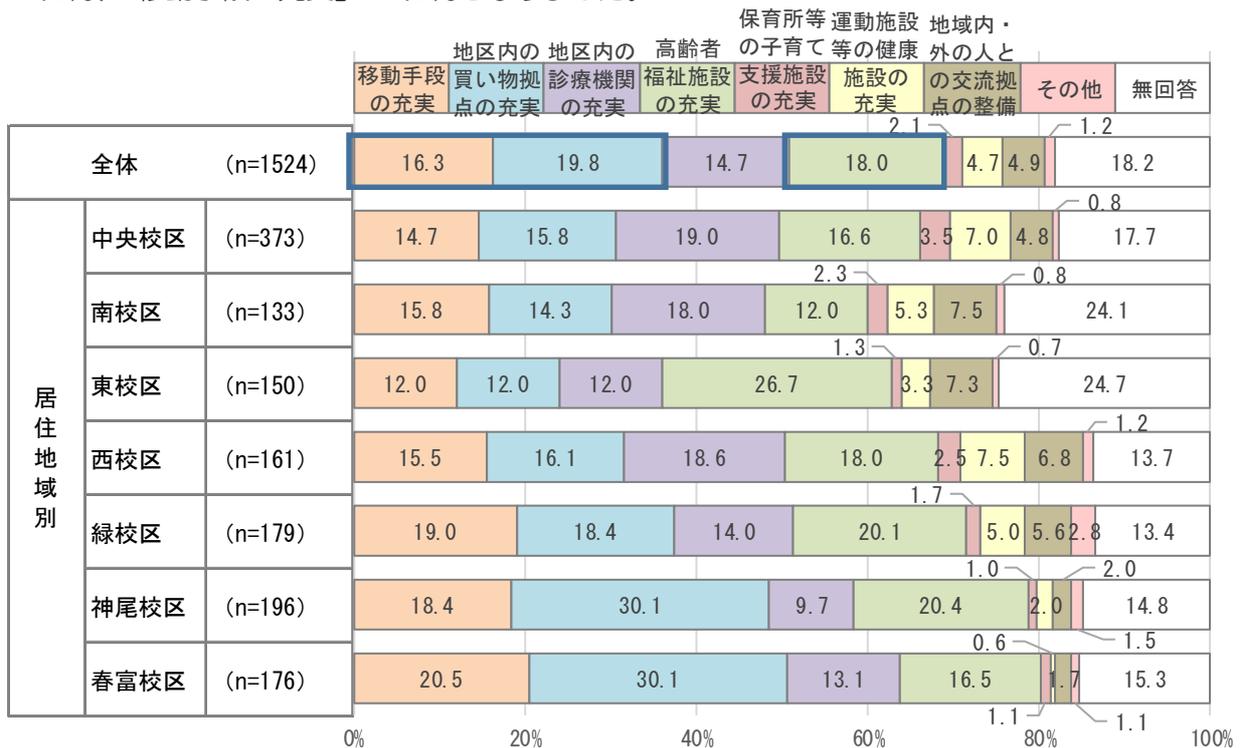


▲ 普段の生活において困っていること

※複数回答を含む  
※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑨ 日常生活の中で重要だと思われる機能

全体で約2割(19.8%)が「地区内の買物拠点の充実」と回答しており、「高齢者福祉施設の充実」18.0%、「移動手段の充実」16.3%となりました。

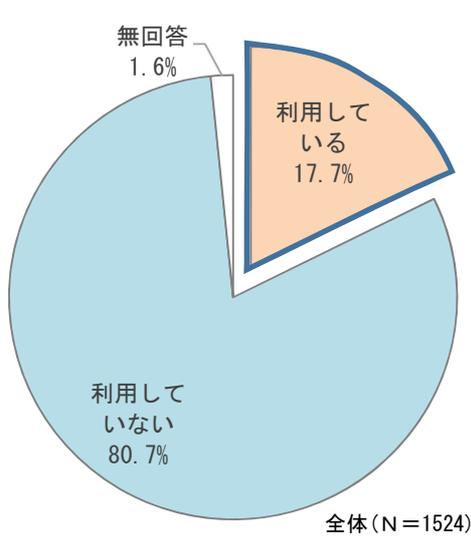


▲ 日常生活で重要だと思われる機能

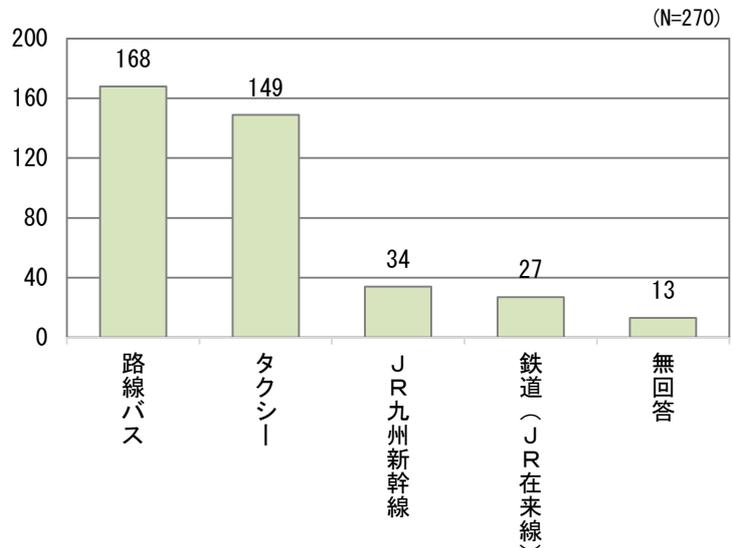
※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑩公共交通の利用状況

公共交通の利用状況については、全体の約2割（17.7%）公共交通を利用していると回答しています。利用している公共交通の内容については、「路線バス」が最も多く、次いで、「タクシー」となっています。路線バスの利用理由としては約7割（70.2%）が「買物・通院等に利用できる」と回答があり、タクシーに関しても約6割（59.1%）が同理由として上がっています。

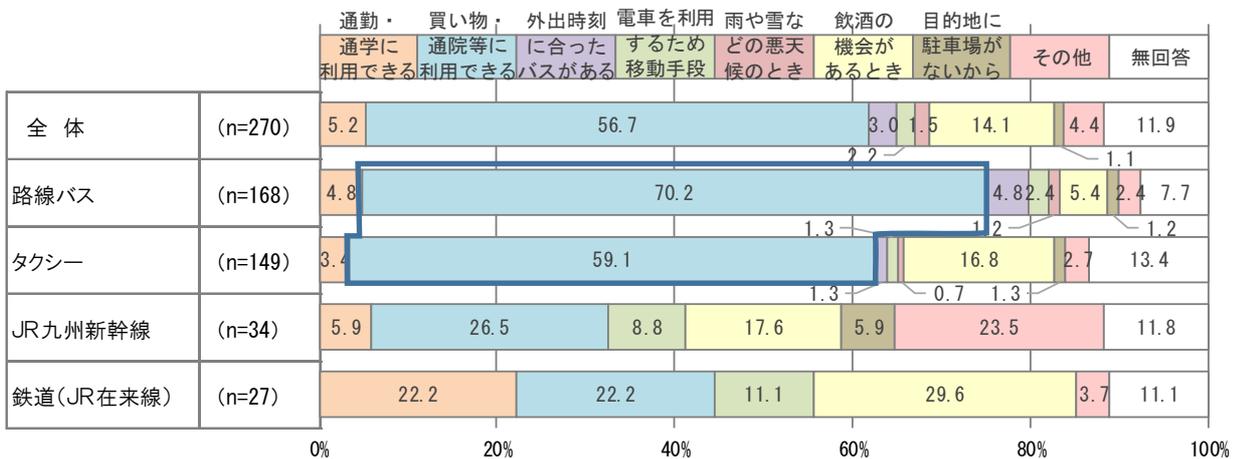


▲公共交通の利用有無



▲公共交通ごとの利用者数

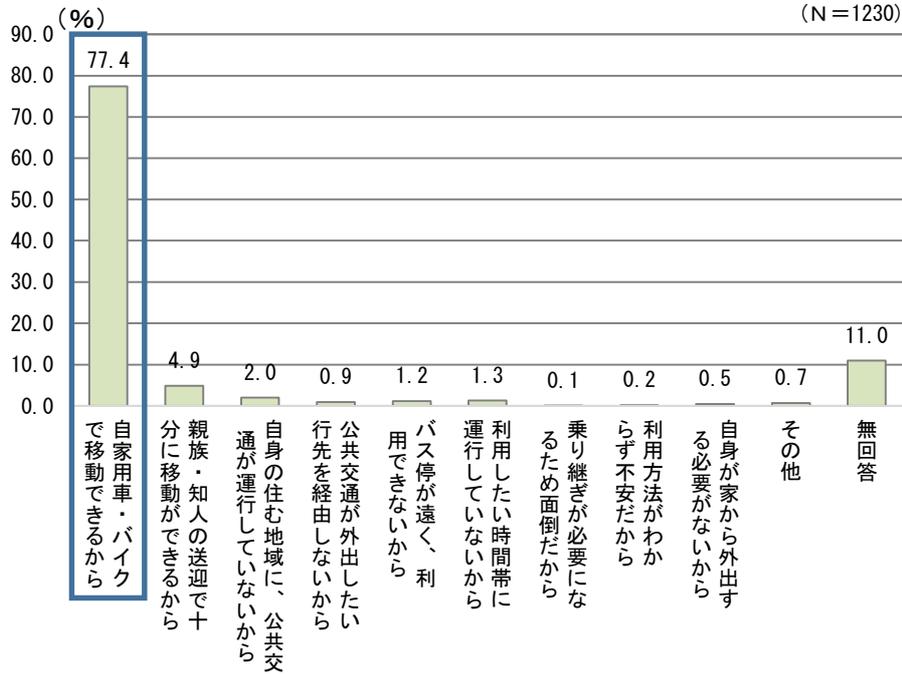
※複数回答を含む



▲公共交通ごとの利用する理由

⑪公共交通を利用しない理由

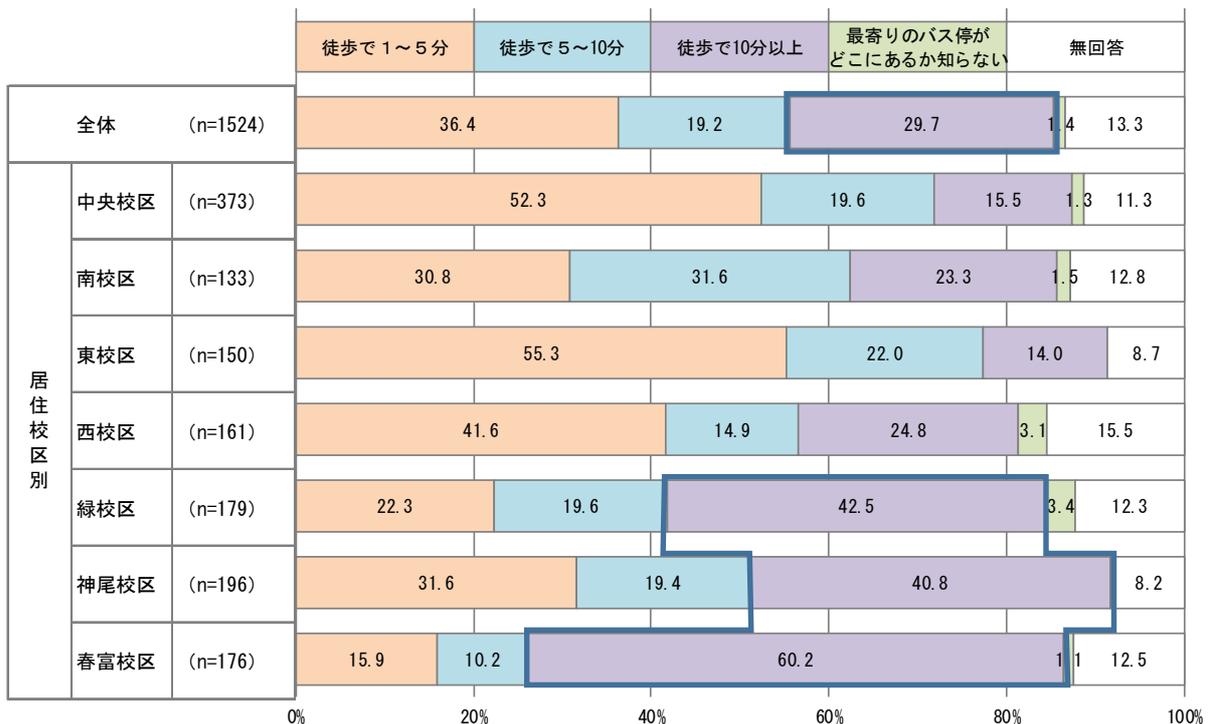
公共交通を利用しない方を対象として、利用しない理由を尋ねたところ、約8割(77.4%)が「自家用車・バイクで移動できるから」と回答しています。



▲公共交通を利用しない理由

⑫最寄りのバス停までの時間

全体の3割(29.7%)が徒歩で10分以上バス停まで歩く必要があると答えています。また、中央校区、南校区、東校区、西校区の旧菊水町側は「徒歩10分以上かかる」と答えた方が、最大でも中央校区の15.5%であるのに対し、**緑校区、神尾校区、春富校区の旧三加和町側は、最低でも4割の方が「10分以上かかる」と答えています。春富校区に関しては約6割の方が10分以上かかる**と回答しています。

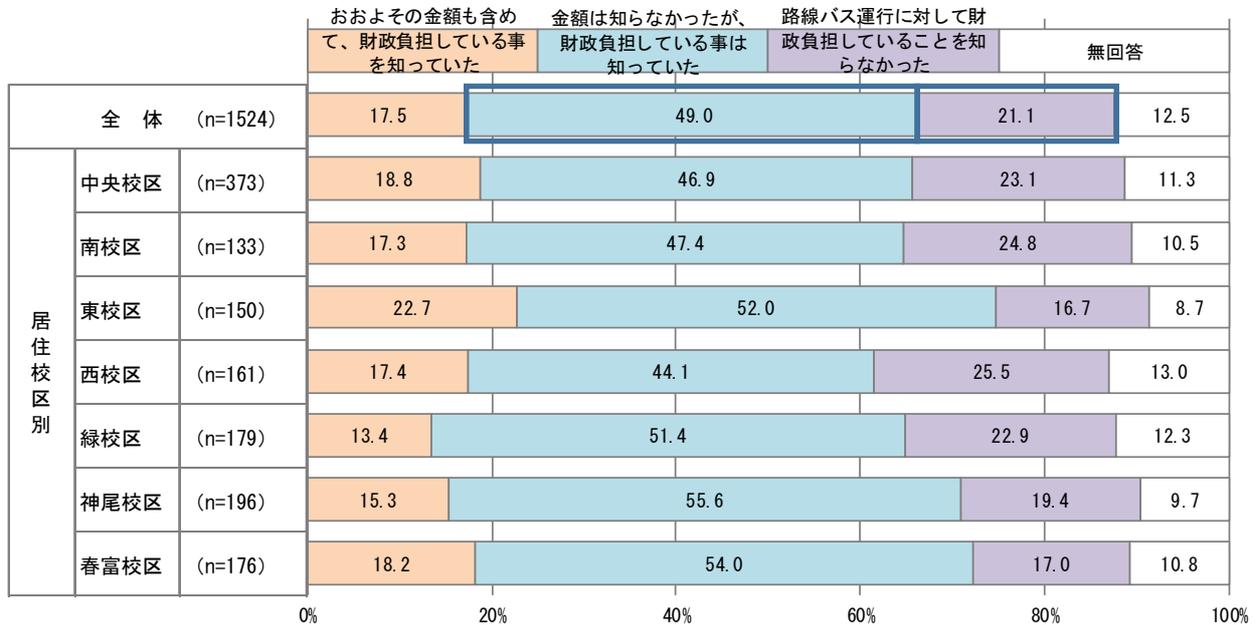


▲最寄りのバス停までの時間

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑬現在の路線バスへの財政負担についての認知状況

全体の約半数（49.0%）が「金額は知らなかったが、財政負担している事は知っていた」に回答しています。また、「財政負担をしていることを知らなかった」と回答した方が2割以上（21.1%）います。



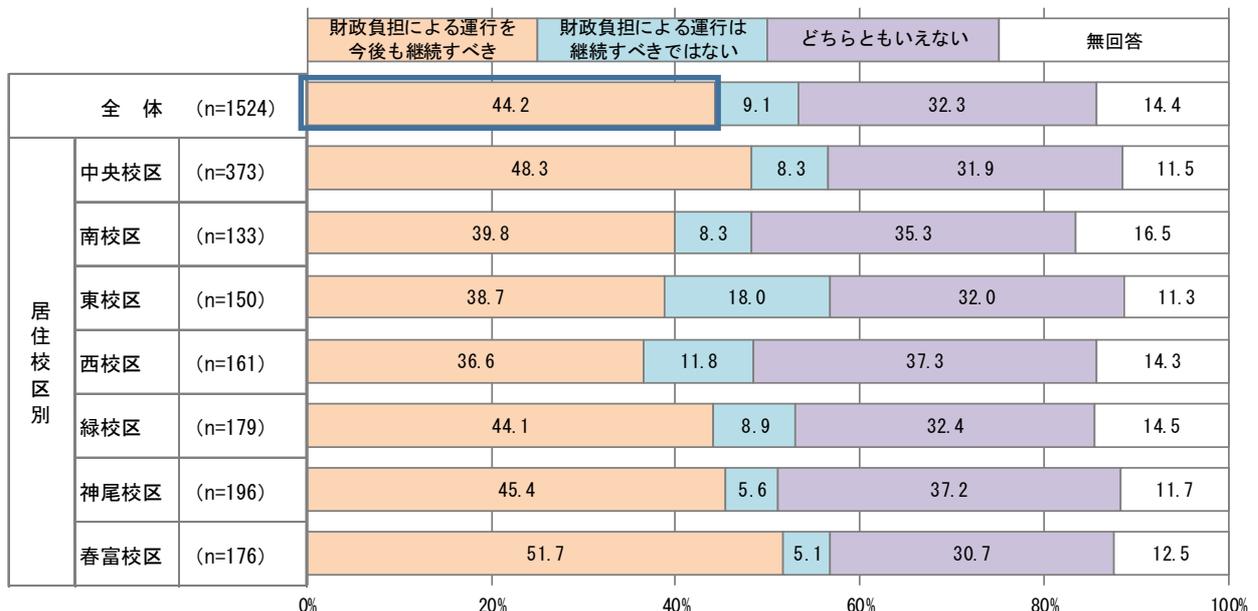
▲財政負担についての認知状況

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑭利用者が少ない路線の今後の維持についての考え

4割以上の方が「財政負担による運行を今後も継続すべき」と回答しており、その中でも過半数の方が「おおよその金額も含めて、財政負担している事を知っていた」や「金額は知らなかったが、財政負担している事は知っていた」に回答しています。

また、4割以上の方が「財政負担を継続すべきだが、負担額の軽減にむけた工夫が必要」と回答しています。工夫の方法としては約4割（36.9%）の方が「サービスの効率化や縮小する工夫をして運行を継続すべき」と回答しています。



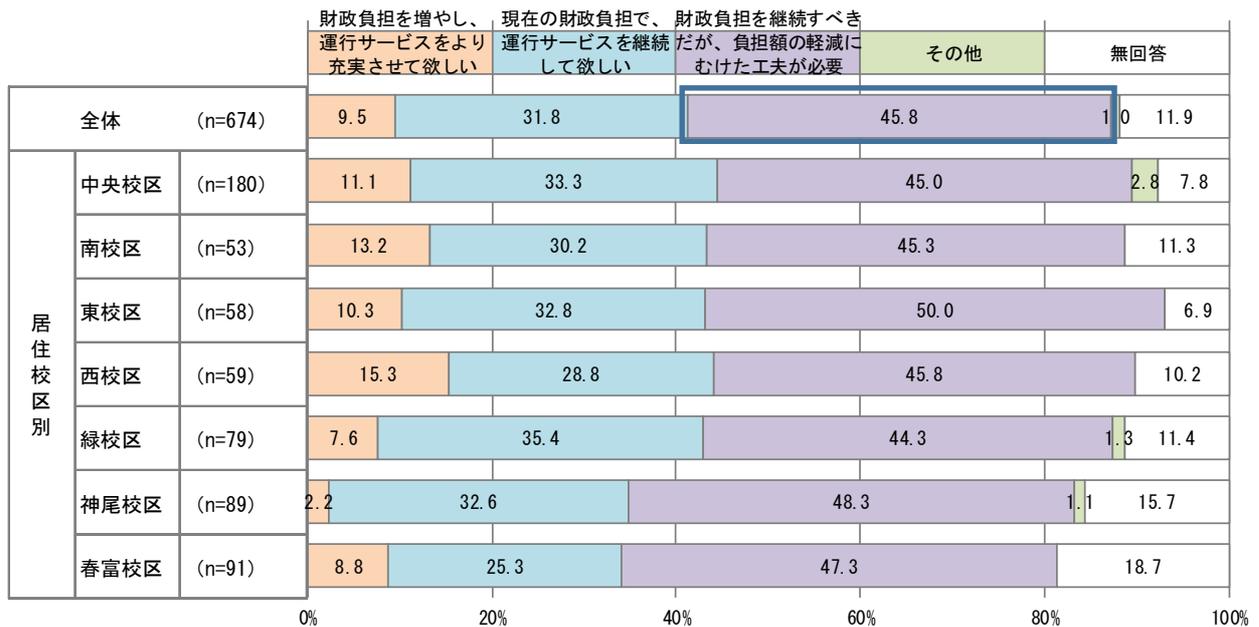
▲利用者が少ない路線の今後について

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

## 5. 公共交通利用実態・ニーズ把握調査

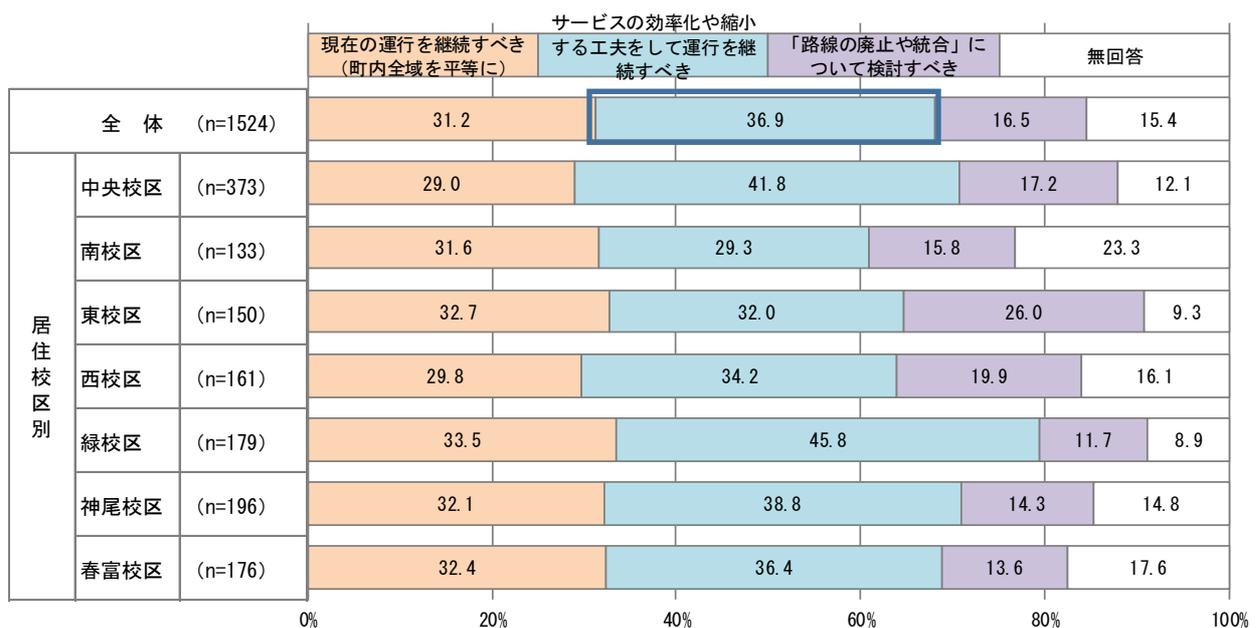
### ▼財政負担の認知状況と今後の維持についての意見

	サンプル数	財政負担による 運行を今後も継 続すべき	財政負担による 運行は継続すべ きではない	どちらともいえ ない	無回答	
全体	上段単位: % 下段単位: 票	100.0 1524	44.2 674	9.1 138	32.3 493	14.4 219
おおよその金額も含めて、財政負担している事を知っていた	100.0 266	56.4 150	12.4 33	27.4 73	3.8 10	
金額は知らなかったが、財政負担している事は知っていた	100.0 747	53.5 400	10.6 79	34.0 254	1.9 14	
路線バス運行に対して財政負担していることを知らなかった	100.0 321	37.4 120	7.2 23	51.1 164	4.4 14	



▲財政負担とサービス水準について

※居住校区别では、校区不明の回答を除く



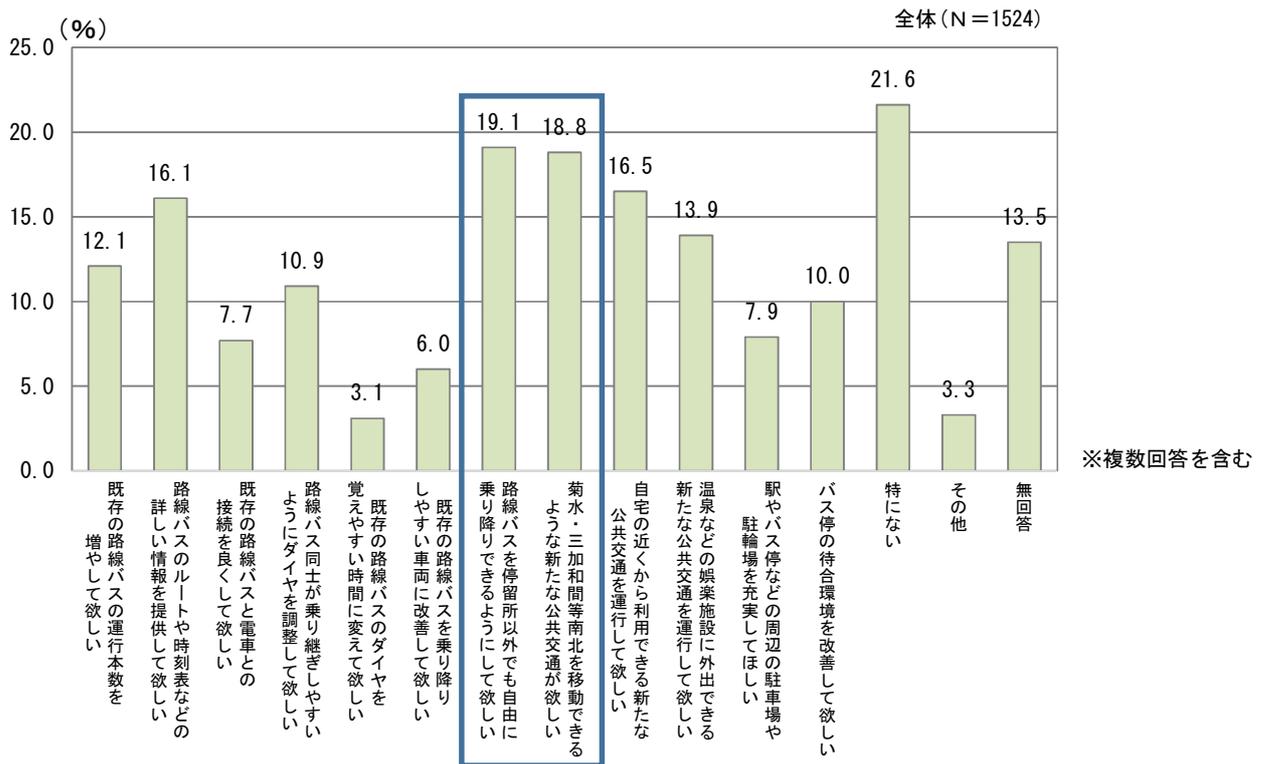
▲利用者が少ない路線の今後の維持について

※居住校区别では、校区不明の回答を除く

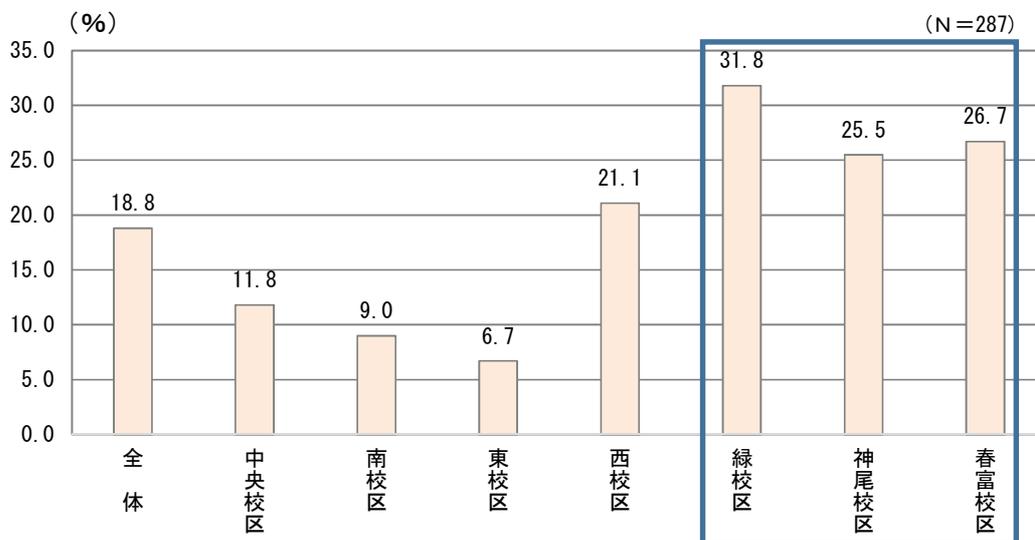
⑮公共交通に望むサービス

全体で公共交通に望むサービスは「特になし」と回答した割合は2割以上ありますが、約2割（19.1%）が「路線バスを停留所以外でも自由に乗り降りできるようにして欲しい」と回答、次いで、「菊水・三加和間等南北を移動できるような新たな公共交通が欲しい」が18.8%、「自宅の近くから利用できる新たな公共交通を運行して欲しい」が16.5%、「路線バスのルートや時刻表などの詳しい情報を提供して欲しい」が16.1%となっています。

「菊水・三加和間等南北を移動できるような新たな公共交通が欲しい」との回答を行政区ごとにみると、旧三加和町の緑校区は3割以上（31.8%）、神尾校区、春富校区は25.0%以上の方が回答しています。



▲公共交通に望むサービス



▲行政区ごとの「菊水・三加和間等南北を移動できるような新たな公共交通が欲しい」と回答した方の割合

(2) グループインタビュー調査

1) 調査概要

① 調査目的

和水町内において、公共交通がないと困る町民を把握し、公共交通利用の可能性について検証することを目的として、各行政区の区長を通じた交通弱者の把握調査を実施しました。

② 調査期間

平成 27 年 9 月 10 日 (木) ~ 24 日 (木)

③ 調査方法

グループインタビュー方式での聞き取り調査  
各地区の交通弱者と思われる町民の居住地を地図上へ記入

④ 本調査における“交通弱者”の考え方

○ 普段の移動に困っている方

例：自動車等の運転免許書をお持ちではない方

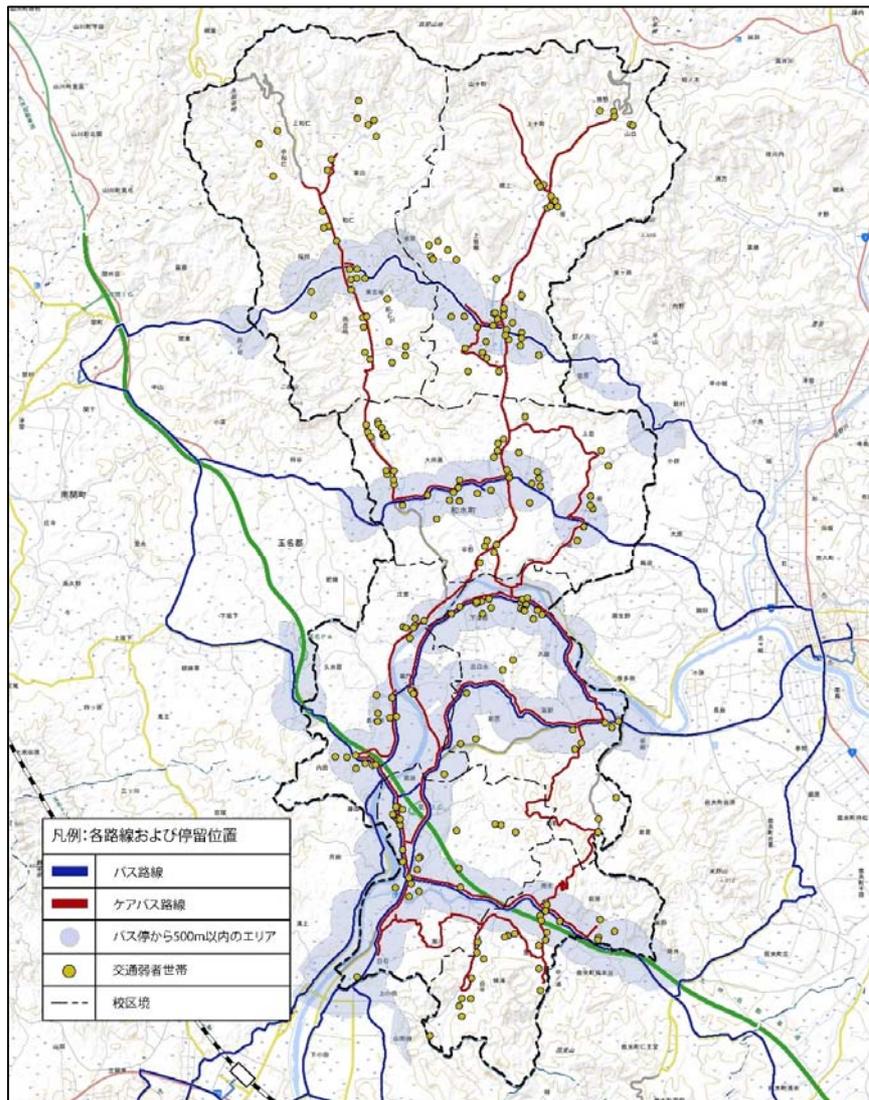
：親族や、区長・民生委員(隣人含む)に送迎を頼む方



▲グループインタビューの実施状況

2) 調査結果

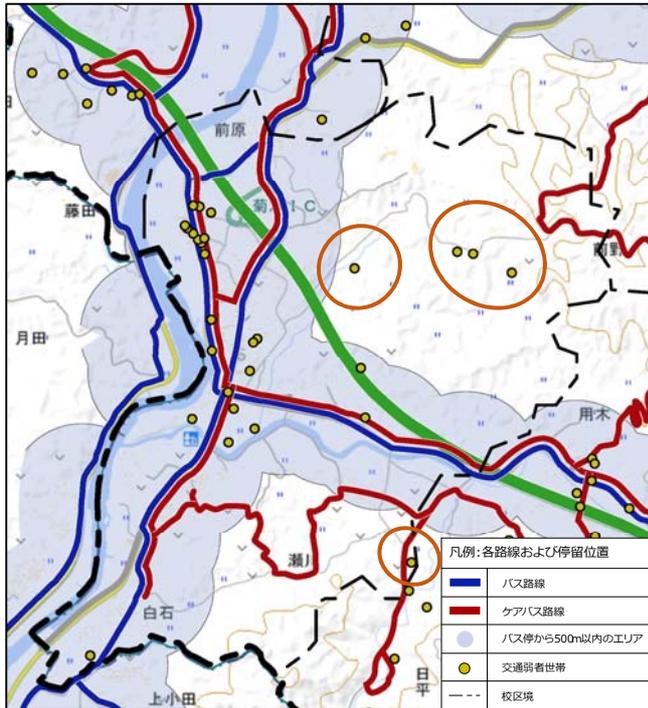
グループインタビューの結果より、和水町内全域で 268 人の交通弱者を把握しました。また、バス停からの 500m 圏域外に住んでいる方は 96 人います。



▲和水町全域における交通弱者の居住状況

I 中央校区

①交通弱者の居住状況



▲中央校区における交通弱者の居住状況

中央校区では計 28 人の交通弱者が把握されました。全 28 人中 5 名は路線バス沿線から外れた位置に住んでいます。

②外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

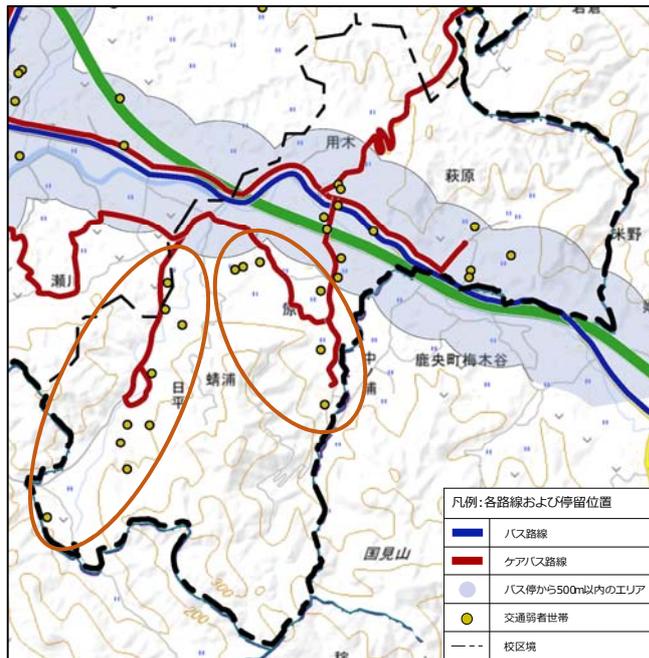
- ・ケアバスの時間が合わない。[白石]
- ・玉名方面へ向かう産交バスは新幹線駅経由のため、時間がかかりすぎる。[白石]
- ・山鹿方面の病院へダイレクトに向かうバスがあると便利。[白石]
- ・鶯原からバス停まで歩いていくのは困難。[白石]
- ・自転車に乗れなくなったのでタクシーを利用している方がいる。[中原]
- ・息子が帰宅できないと移動に支障が出る方がいる。[中原]
- ・電動シニアカーの補助がほしい。[米渡尾]
- ・最寄りのバス停は「藤田」だが、玉名へ行く場合は、皆行原まで歩く。[藤田]
- ・山鹿方面への路線バスの便数が少なく不便を感じる。[中央団地]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・老人のためのコミュニティの場を作る活動をしており、多くの人が参加できるような工夫を考えている。[馬場]
- ・地区内のコミュニティに町外からは入りづらいのではないかと。[白石]
- ・新居の増える地区と増えない地区がある。[白石]
- ・防災訓練（消火器や消火栓の取り扱い、AED、心臓マッサージ）、健康推進（ウォーキング、週 1 回の筋トレ等）、2 年に 1 回、区の旅行を行っている。[皆行原]
- ・健康体操（2 回/週）；筋トレ、自強術体操。学びのばば講座（8 回/年）；自主防災講座、健康講座、ひなかざり（祭り）、年末の餅つき、他。囲碁（1 回/週）を行っている。[馬場]
- ・道路幅員が狭い（4m ぐらい）。大型トラックは通らないようお願いしている。[藤田]

## Ⅱ 南校区

## ① 交通弱者の居住状況



▲南校区における交通弱者の居住状況

南校区では計 34 人の交通弱者が把握されました。全 34 人中 **14 名は路線バス沿線から外れた位置**に住んでいます。

## ② 外出する際や、地域の問題点、または意見

## 外出する際の具体的な問題点や意見

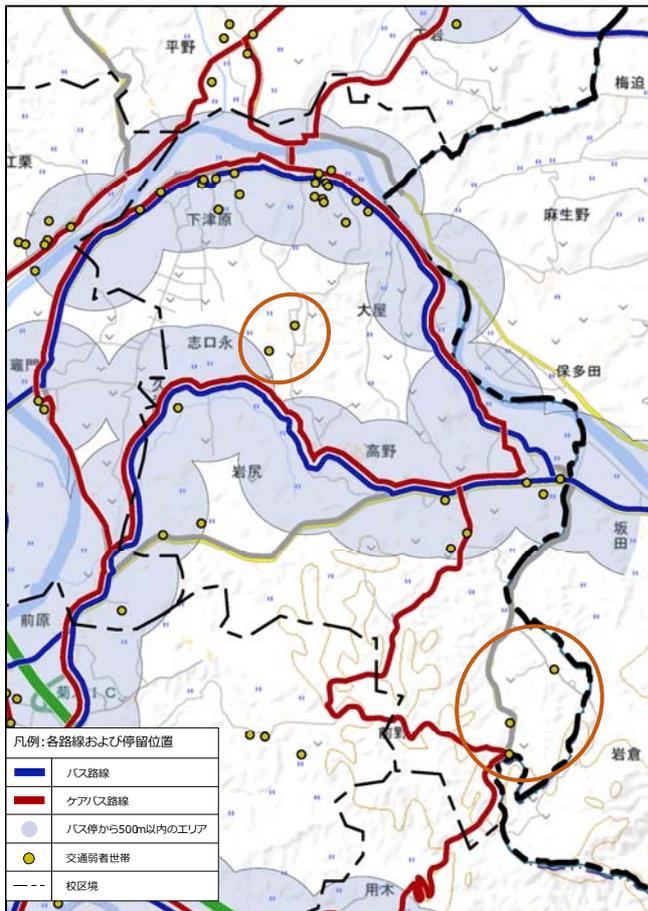
- ・ 自宅からバス停までの移動が困難な状況にある。[日平]
- ・ 移動に困っている方は子供が帰ってきた時のみと制限されている。[萩原]
- ・ 移動に困っている方は好きな時間帯や目的地に外出できない。[行政区不明]
- ・ ケアバスのルート（遠回り）を無駄に感じている方もいる。[日平・用木]
- ・ ケアバスは病院から買物施設へのルートがあれば利用が増えると思う。[日平・用木]
- ・ 玉名や大牟田等への公共交通による移動手段があればいい。[日平・用木]
- ・ 自家用車を持たない方を思うと、銀行と病院への交通手段を必要に感じる。[日平・用木]
- ・ 路線バスがなくなったら、コミュニティバスを運行、もしくはタクシー補助が必要になるのではないか。[日平・用木]
- ・ コミュニティバス運行に際して、原則、路線に面した利用者は自宅前から乗れるようにしてほしい。またコミュニティバスは、極力、利用者の外出理由に沿う運行形態を取ってもらえるように配慮してもらいたい。[行政区不明]

## 地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・ 農業の後継者が減っている。空き家が増加している。[日平]
- ・ 空き家の対策をしてほしい。台風のために、道路で倒木があり、処理に困っている。[萩原]
- ・ 空き家対策を町として、もう少し推進してほしい。所有者が町外だと苦勞する。[行政区不明]
- ・ ゴミステーションが遠く、ゴミ出しに持って行くことができない。[行政区不明]
- ・ 県道 3 号は、歩道がないのでゴミ出しが危ない。[行政区不明]
- ・ 買物は、移動販売車があるが、出かける楽しみがない。菊水「なかよし会」と三加和「ふれあい会」は、社協の送迎がほしい。[行政区不明]
- ・ 食事宅配サービスの利用者が 2 人いたが、トラブルで辞めた。[行政区不明]
- ・ 行事を嫌う若者が多いため、外に出ていく。[日平・用木]
- ・ 用木は困っていないという意見もある。[日平・用木]
- ・ ゴミの集積を増やせないか。高齢者がゴミ出しに苦勞している。[行政区不明]

Ⅲ 東校区

① 交通弱者の居住状況



▲東校区における交通弱者の居住状況

東校区では計 35 人の交通弱者が把握されました。全 35 人中 5 名は路線バス沿線から外れた位置に住んでいます。

② 外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

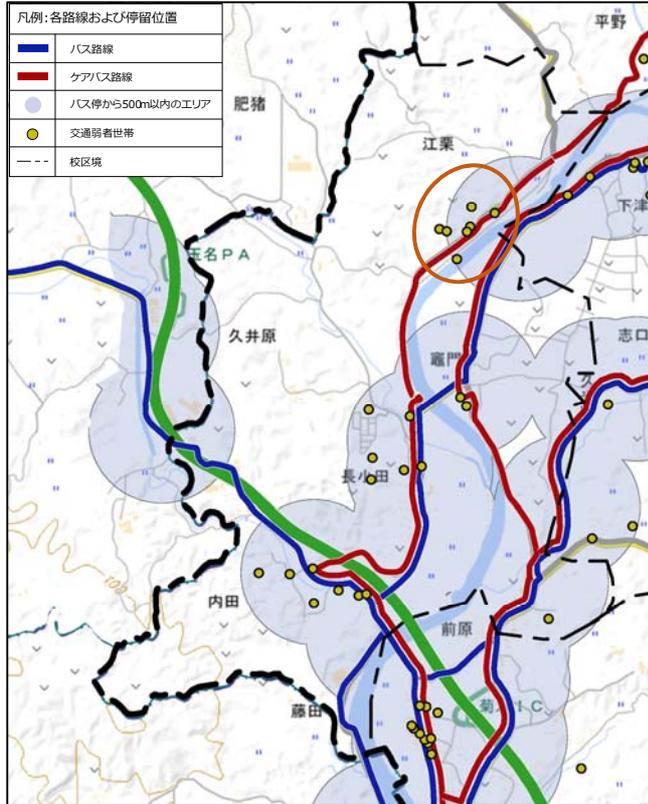
- ・夫婦で車を持っていない世帯もあり、近くに住んでいる娘に頼ることがある。その世帯は主にタクシー移動を行っている。[志口永]
- ・ケアバスの利用者が 1 名と少ない。住民は町外の病院利用が多いため、バスがないと不便（地域柄山賀方面が多い）。[焼米]
- ・ケアバス以外にタクシー無料券の配布をしてほしい。[久米野]
- ・移動に困っている方の一人は息子が帰ってきたときや、近くの地域（焼米）の娘、近所の人に頼っている。[榎原]
- ・子供・孫・親戚等が来たとき、近所の人や友達に頼っている方がいる。
- ・ロマン館へのバスと病院の巡回バスの調整をしてほしい。[榎原]
- ・現在、車の運転をしている高齢者が多く（90 歳前後）心配しているが、病院行きや買物で不自由するので、なかなか免許証を返せとは言えない。[志口永]
- ・高校生がいるので通学に適した時間の公共交通がほしい。[行政区不明]
- ・コミュニティバス、乗合タクシーを利用したい。大型バスは必要ない。[行政区不明]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・農道の舗装をしたいが、業者に依頼すると高額になるが、高齢化のため、なかなかできない。
- ・神社、観音様等のおまもり、管理等、高齢化により 1 人では難しくなっている。[焼米]

IV西校区

①交通弱者の居住状況



▲西校区における交通弱者の居住状況

西校区では計27人の交通弱者が把握されました。7名は近くのバス停まで向かうのに渡河するか、河川沿いを運行するバスに乗る必要がありますが、居住地の近くには橋梁がない状況にあります。

②外出する際や、地域の問題点、または意見

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

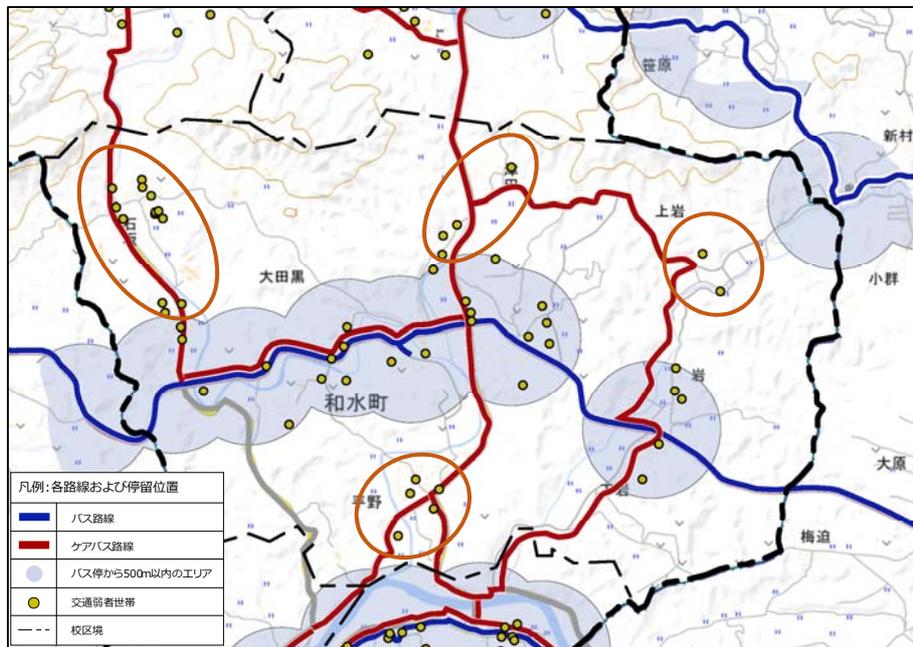
- 地区の運動会、行事を減らせとの声も。和水是仕事が少ないため、若者が出ていくのではないか。未利用の土地はあるが、持主が手放さない。[行政区不明]



## VI 神尾校区

## ① 交通弱者の居住状況

神尾校区では計 63 人の交通弱者が把握されました。全 63 人中 25 名は路線バス沿線から外れた位置に住んでいます。



▲ 神尾校区における交通弱者の居住状況

## ② 外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

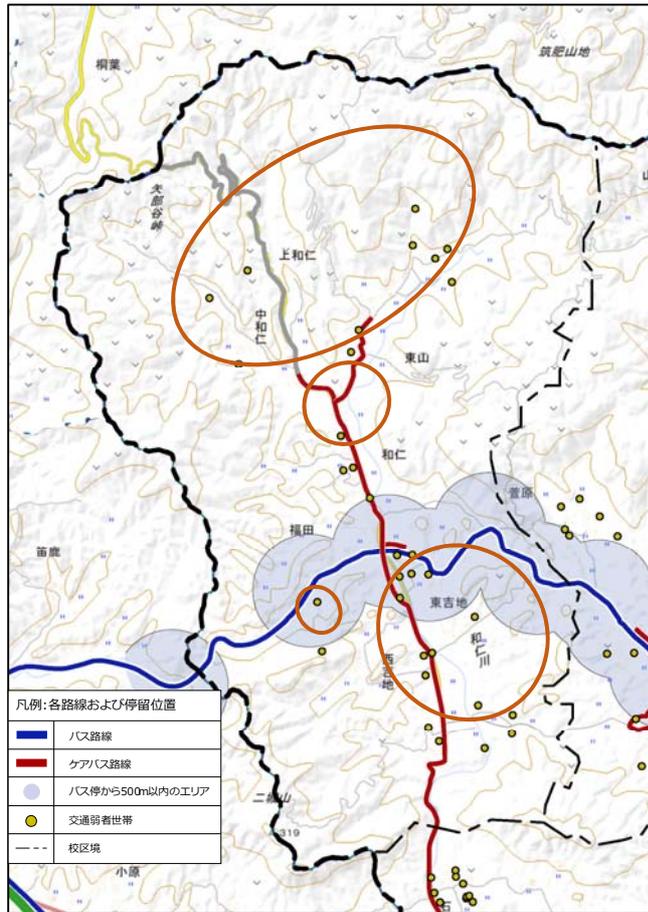
- ・ 買物が一番困っている。[上岩]
- ・ 路線バスの本数が減り利用するのに困っている。近所の人に頼むのも気がつかう。[上岩]
- ・ 近所の人に買物に連れていってもらっているが、近所の方から民生委員に相談された（連れて行くのはいいが、気がつかうとのこと）。[上岩]
- ・ 他人に頼むにも気がつかう。常に困る。[上岩]
- ・ 大田黒から板楠方面への交通手段がタクシーしかない。[上大田黒]
- ・ 制限付のタクシー補助を導入すれば、あとは利用者次第ではないか。[下津田]
- ・ 町内及び、山鹿や南関等に買物に行ける、小さなバスが巡回してくれれば助かる。[上津田]
- ・ ケアバスで買物施設等の目的地へも運行をしてほしい。[行政区不明]
- ・ 小回りのきく乗合タクシーを導入してはどうか（バス乗場まで行けない人もいる）。[上津田]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・ 三加和の役場（和水町全部）は、土日が利用できないので困る。[上大田黒]
- ・ 各地域に店があればいい。予約制の移動販売があるといい。[行政区不明]

Ⅶ春富校区

①交通弱者の居住状況



春富校区では計 32 名の交通弱者が把握されました。全 32 人中 24 名は路線バス沿線から外れた位置に住んでいます。

②外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

- 目的地点まで歩かなければならない。頼む相手に迷惑をかけるため平日は頼めない。[中林]
- 移動制限者には、何らかの地区内の手助けが必要。時間的に余裕を持って生活されている方、制限者を手助けしてもよいと思っている方など、役場が把握し、慈善活動で送迎をする。[中林]
- 外出は車だが、年齢的に運転が難しくなってきた方、健常者だが移動は人頼みの方、病気の後遺症で車の運転は控えめの方等に向けた、バス停までの移動手段を考える必要がある。[和仁]
- 外出は娘が帰ってきたときのみや、娘・親類・近所等に頼んでいる方がいる。[中吉地]
- バスカタクシーしかないので、外出に困っている方がいる。[上吉地]
- ケアバスがあるので、山鹿の病院から町立病院に変えた方もいる。[行政区不明]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- 店がないため、買物に困る。[上吉地]
- 商店、病院がない。[下吉地]
- 郵便局・ストアがある福田を中心に、商品の多い店舗等、新たな施設の設置を考える。[和仁]
- 若者の増加や残るような工夫が必要。[行政区不明]
- 空き家は多くあるが、荷物があるため、所有者が手放さない。荷物は年寄のものばかりで誰も必要としていない。[行政区不明]

(3) 個別訪問調査

1) 調査概要

①調査目的

交通弱者の公共交通に対する具体的なニーズを把握するため、個別訪問による聞き取り調査を実施しました。

②調査対象

グループインタビュー調査から把握した交通弱者

③調査期間

平成27年10月12日(月)～平成27年10月14日(水)

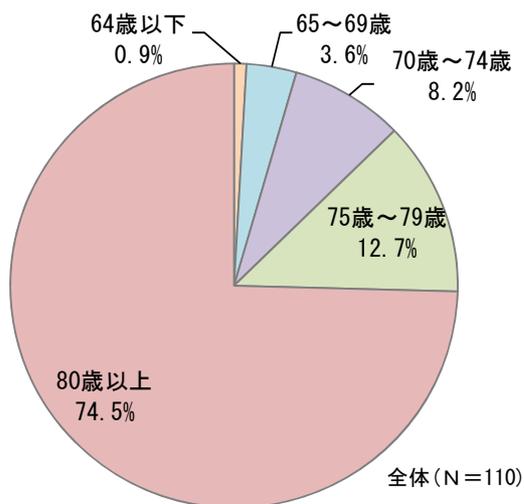
④調査方法

直接面談方式による聞き取り調査

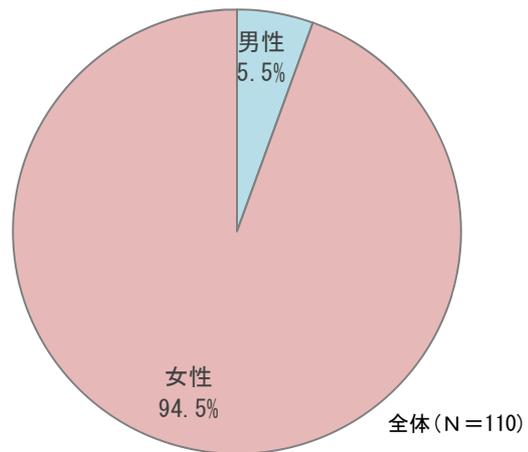
2) 調査結果

①回答者の属性

回答者の属性として、年齢別、性別について下記に掲載します。年齢別においては「80歳以上」が7割以上(74.5%)の回答結果となりました。性別においては女性の回答者が9割以上(94.5%)となっています。



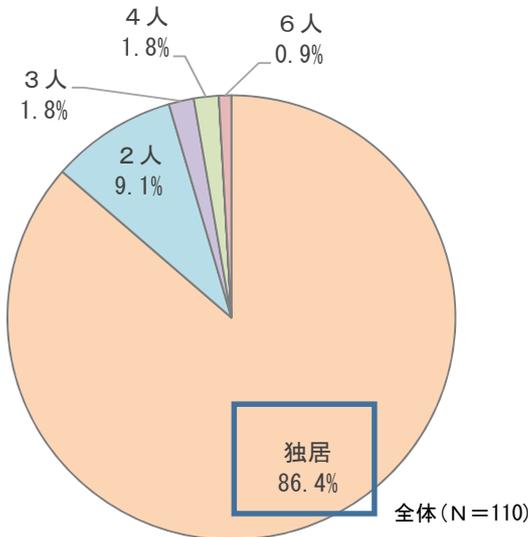
▲年齢別



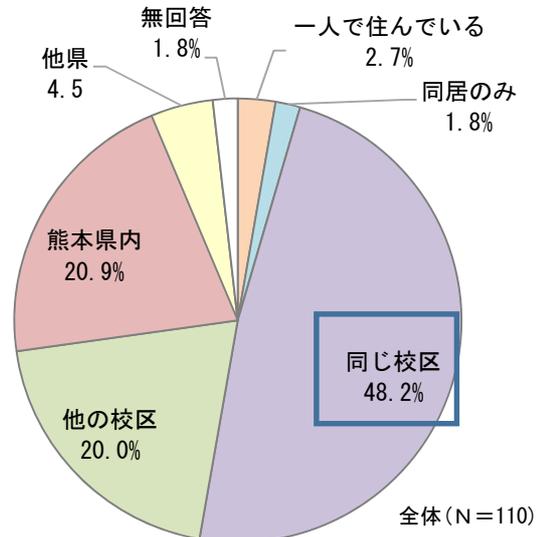
▲性別

②居住状況

居住状況については8割以上(86.4%)が「独居」の状態です。近くに住んでいる親族の居住状況に関しては、「同じ校区」に住んでいるとの回答が約5割(48.2%)となっています。



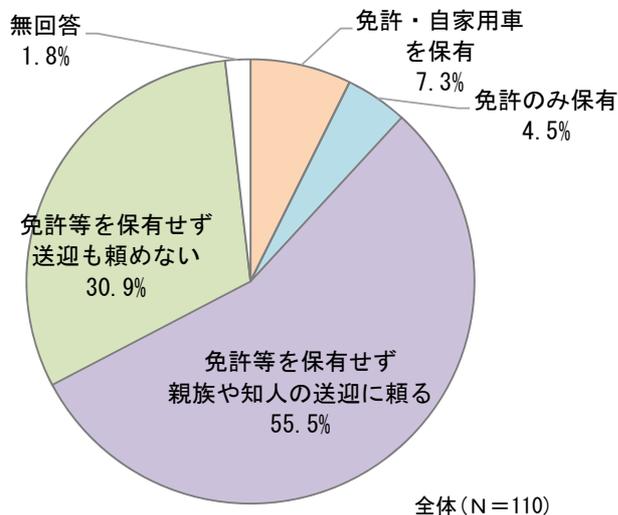
▲同居人数(本人を含む)



▲近くに住んでいる親族の居住状況

③運転免許等の保有状況と送迎の有無

全体の半数以上(55.5%)が「免許等を保有せず親族や知人の送迎に頼る」と回答しました。また、約3割(30.9%)が「免許等を保有せず送迎も頼めない」と回答しています。



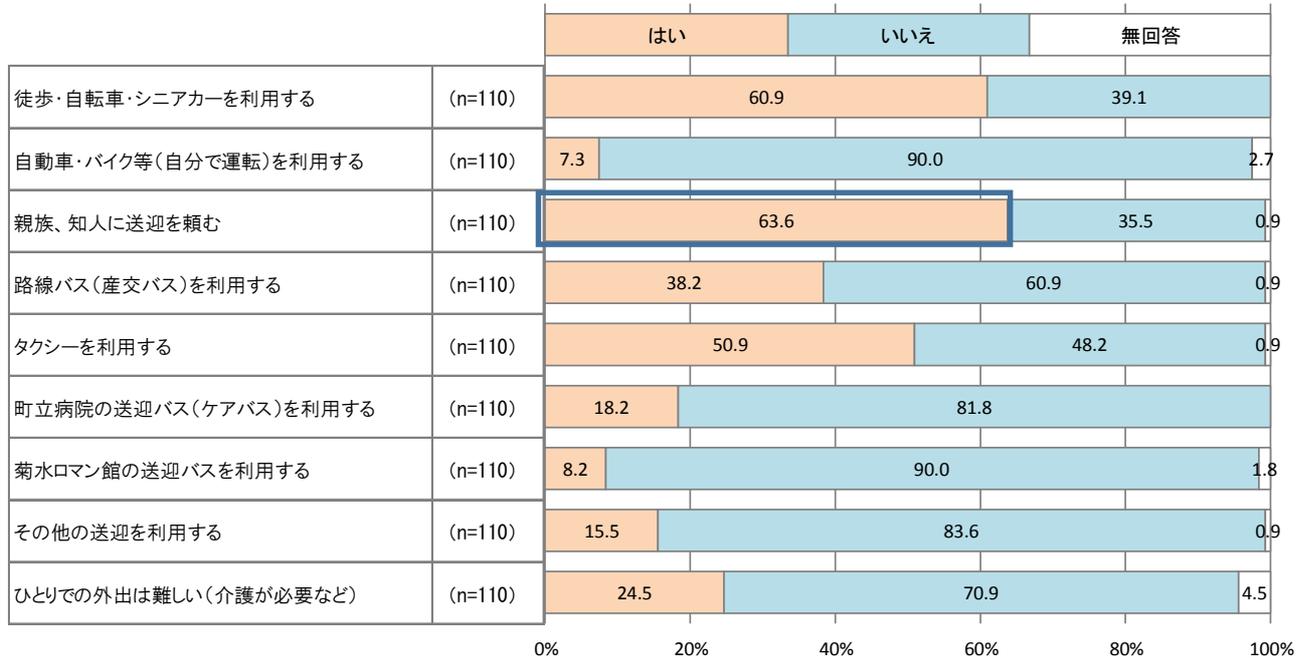
▲運転免許の保有状況と送迎の有無

運転免許を保有している13人の方は、返納に関して以下のように考えています。

- 今後3年以内に返納する考えがある・・・2人/13人
- 時期は未定だが返納する考えがある・・・3人/13人
- 返納の意思はあるが、交通手段がないため返納できない・・・1人/13人
- 少なくとも5年は返納する気がない・・・2人/13人
- 特に考えたことがない・・・3人/13人
- 無回答・・・2人/13人

④ 普段の外出手段

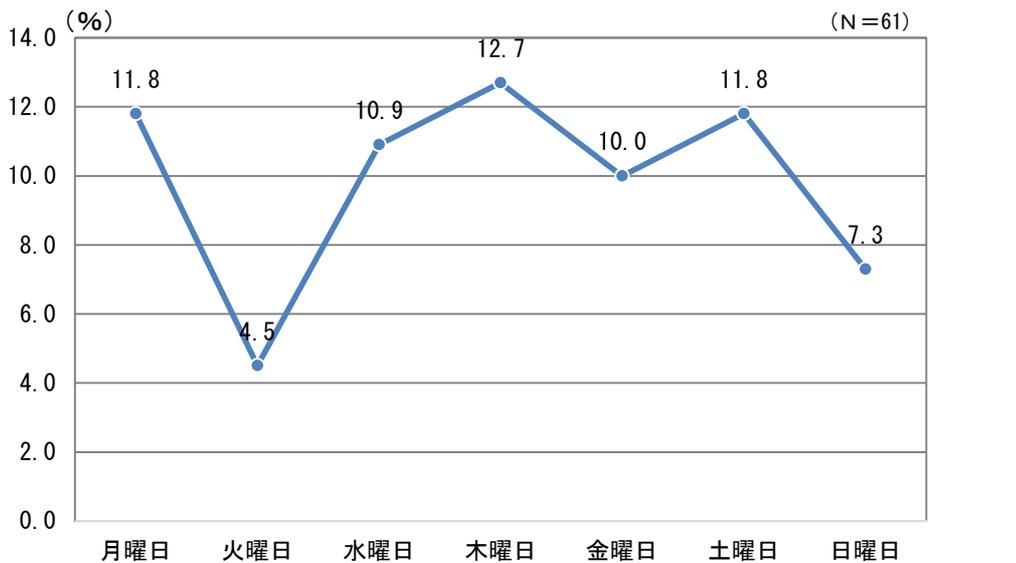
外出の際、全体で最も利用されている移動手段としては63.6%の方が「家族、知人に送迎を頼む」と回答しました。次いで、60.9%で「徒歩・自転車・シニアカーを利用する」、50.9%で「タクシーを利用する」という結果になりました。



▲ 普段の外出手段

⑤ 買物を行う際によく外出する曜日

買物を行う際の曜日としては木曜日(12.7%)が最も高いものの、ほとんど横ばいの状態です。しかし、火曜日は他の曜日に比べ買物にでる曜日としては低い(4.5%)現状にあります。

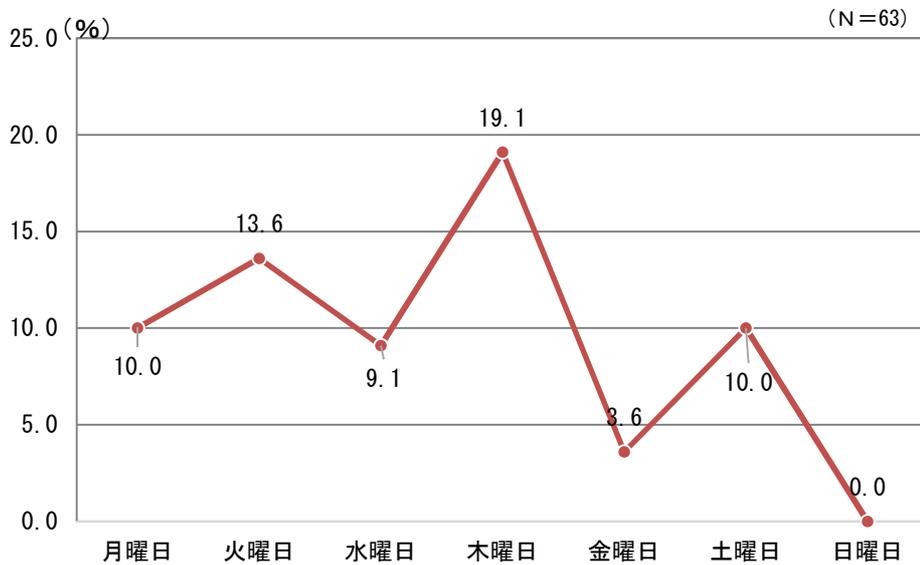


※複数回答を含み、無回答を除く

▲ 買物を行う際の曜日

⑥通院を行う際によく外出する曜日

通院を行う際の曜日として約2割（19.1%）が木曜日と回答しています。また、休診日である日曜を除いて、金曜日の通院割合が3.6%と低い現状にあります。

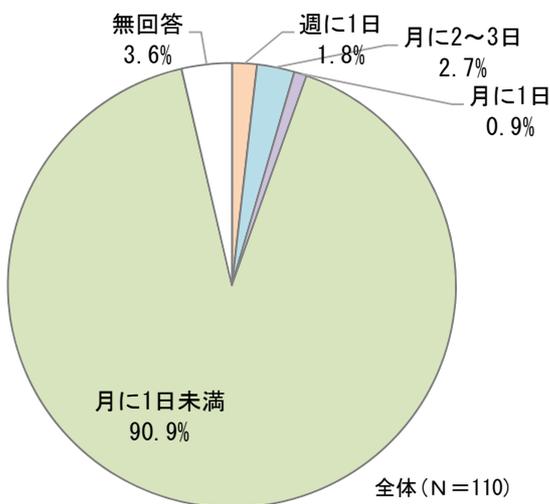


※複数回答を含み、無回答を除く

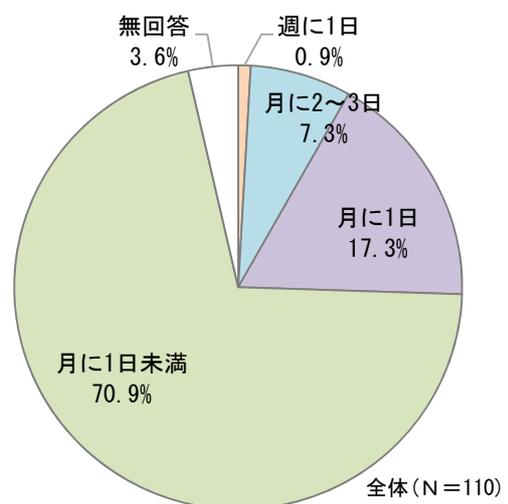
▲通院を行う際の曜日

⑦役場や金融機関への訪問頻度

役場や金融機関を訪れる回数としては、役場で90.9%、金融機関で70.9%が、「月に1日未満」と回答しています。



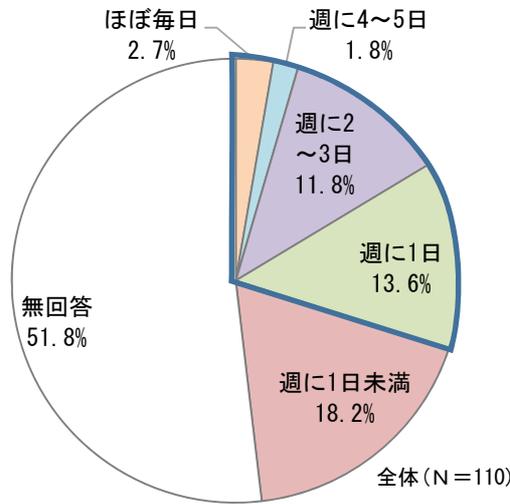
▲役場への訪問頻度



▲金融機関への訪問頻度

⑧趣味による外出状況

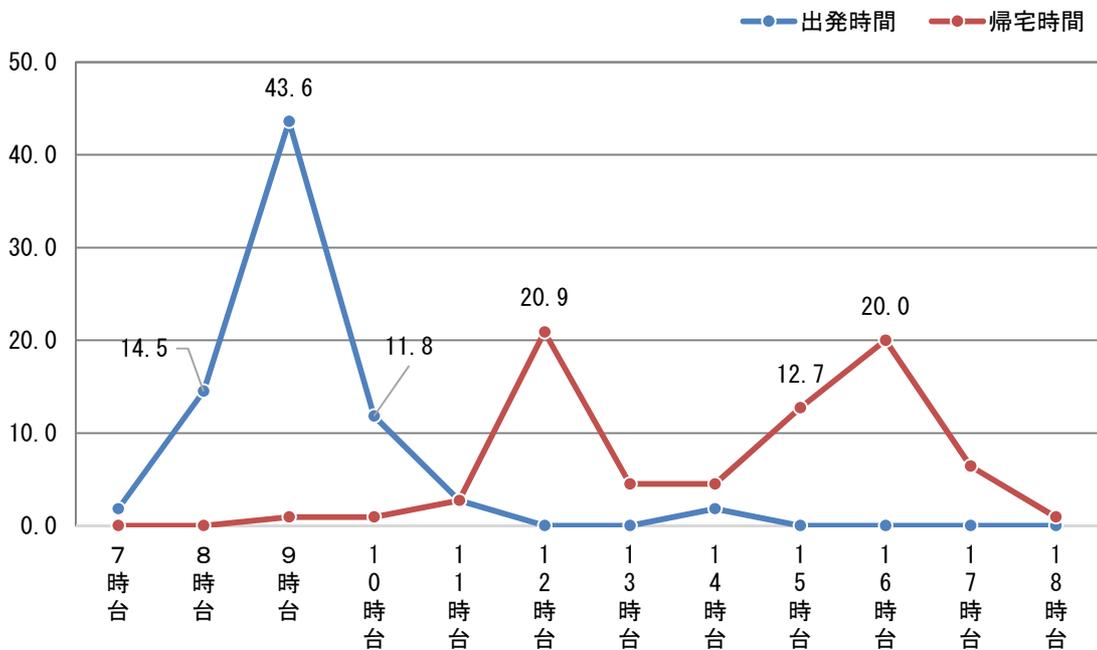
趣味による外出状況 30%の方が週に1日以上外出するという現状です。



▲金融機関への訪問頻度

⑨理想の外出時間帯

理想の外出時間として、9時に出発を望んでいる方が全体の4割以上(43.6%)、また、帰宅時間としては12時(20.9%)、が最も高く、次いで16時(20.0%)を望んでいるという回答結果になりました。

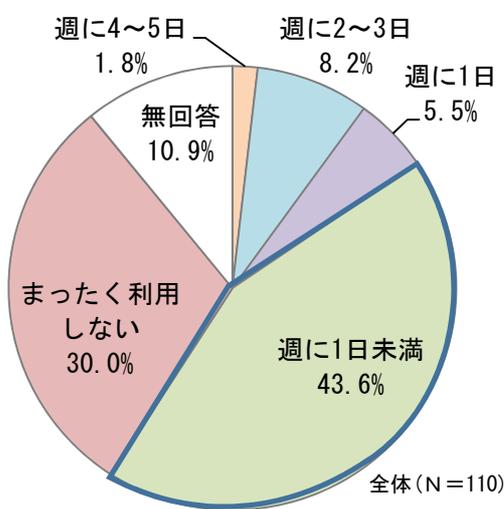


▲理想の外出時間

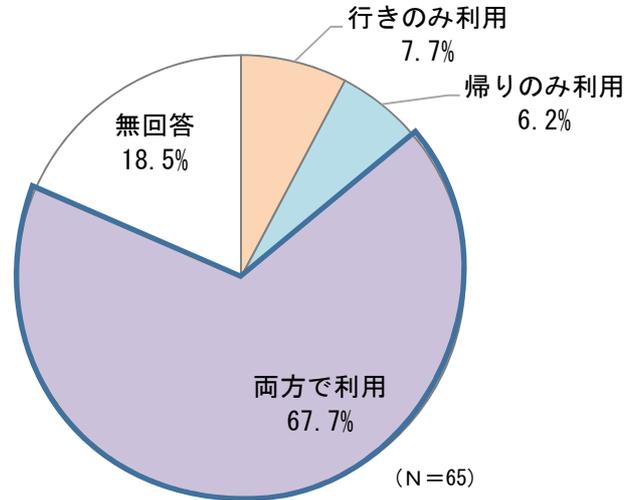
⑩公共交通の利用頻度

公共交通の利用頻度では、約4割（43.6%）が「週に1日未満」と回答しており、15.5%が週に1日以上利用すると回答しています。

また利用の際には約7割（67.7%）が公共交通を行きも帰りも利用する「両方で利用」と回答しています。



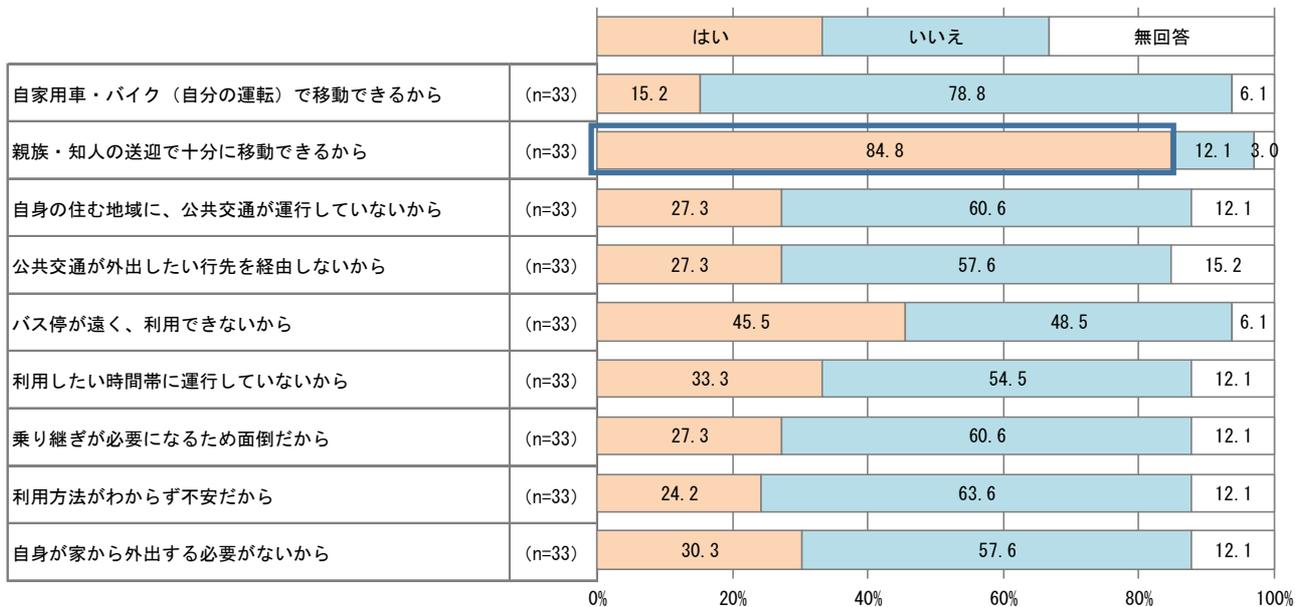
▲公共交通の利用頻度



▲公共交通の利用方法

⑪公共交通を利用しない理由

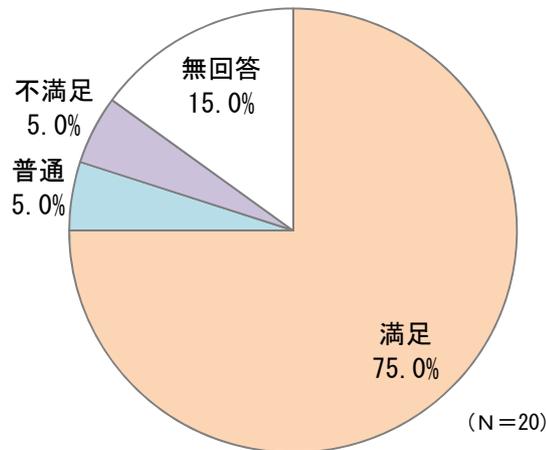
公共交通を利用しない方の意見としては8割以上（84.8%）が「親族・知人の送迎で十分に移動できるから」と回答しています。



▲公共交通を利用しない理由

⑫ ケアバスの満足度

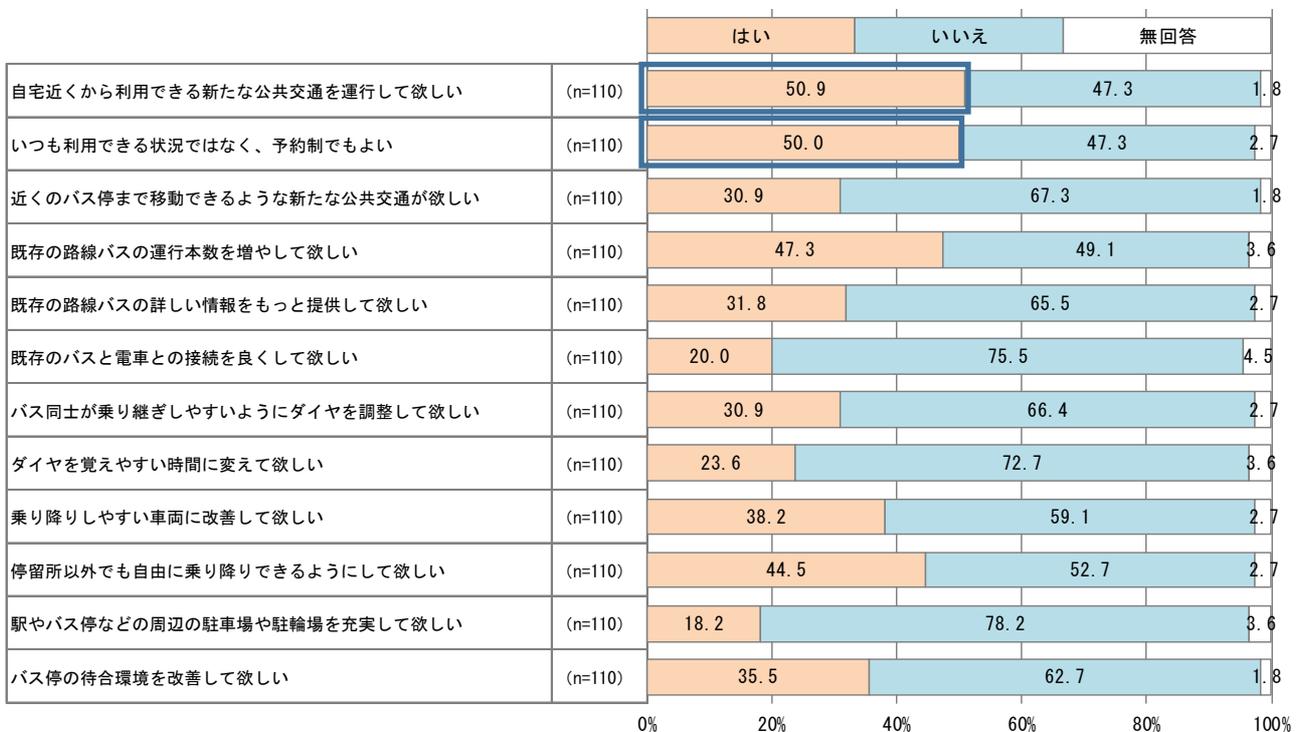
ケアバスの運行状況について利用者は75.0%が「満足」と回答しました。



▲ケアバスの満足度

⑬ 公共交通に対する要望

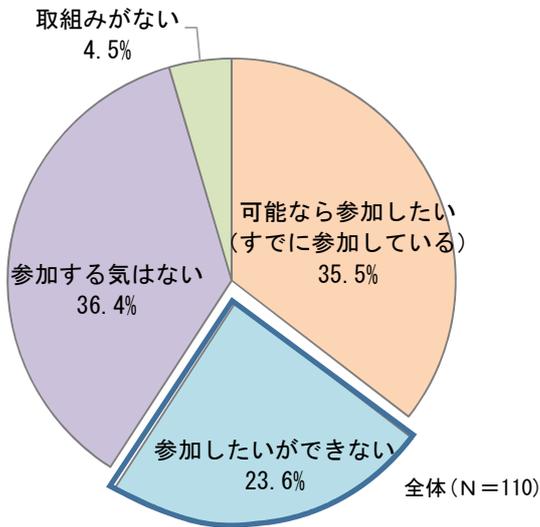
公共交通に対する要望について、「自宅から利用できる公共交通を運行してほしい」と回答した方が過半数(50.9%)おり、「いつも利用できる状況ではなく、予約制でもよい」と回答した方も5割います。



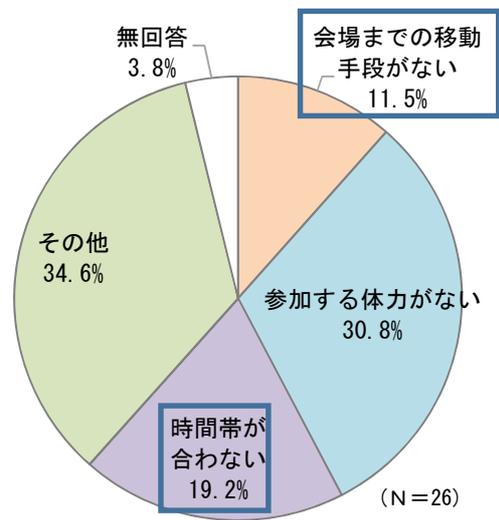
▲公共交通に対する要望

⑭ 取組みや活動への参加有無

和水町が行っている生涯学習教室や各行政区で取り組んでいるお茶に間筋トシ教室といった取組みに参加する意思について 35.5%が「可能なら参加したい(すでに参加している)」と回答しています。また、「参加したいができない」と回答した方が 23.6%おり、参加できない理由を尋ねたところ、約 2 割 (19.2%) は「時間帯が合わない」、約 1 割 (11.5%) は「会場までの移動手段がない」と回答しました。



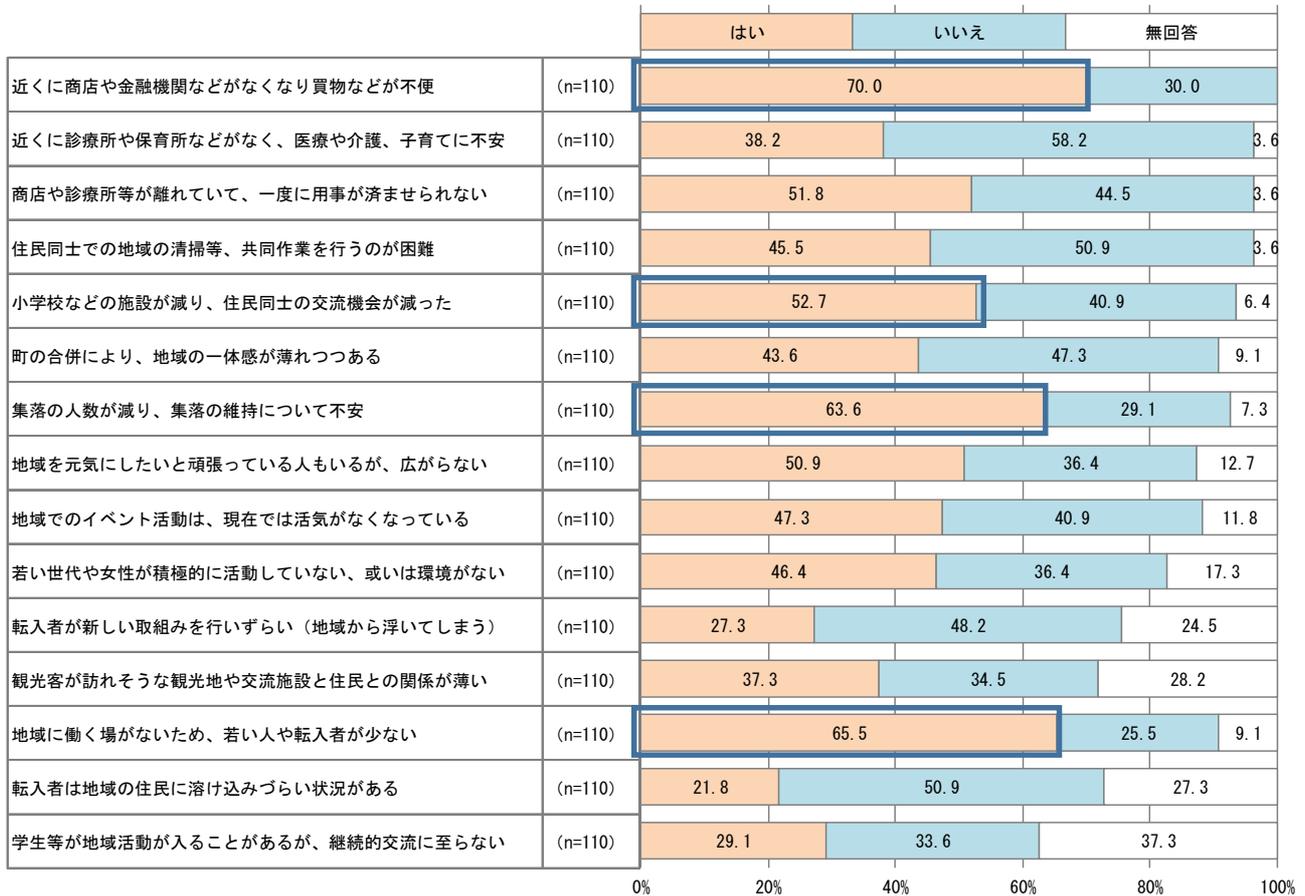
▲ 取組みへの参加状況



▲ 参加したいができない理由

⑮ 普段の生活等で困っていること

普段の生活等で困っていることとして、7割の方が「近くに商店や金融機関などがなくなり買物などが不便」と回答しており、6割以上が「地域に働く場がないため、若い人や転入者が少ない」、「集落の人数が減り、集落の維持について不安」と回答しています。また、過半数の方が「町の合併により、地域の一体感が薄れつつある」と回答しています。



▲ 普段の生活等で困っていること

## (4) 交通事業者・町内施設等へのヒアリング調査

## 1) 調査概要

## ①調査目的

利用者および事業者からみた公共交通の課題、本事業への協力可能性等を把握するための事業者ヒアリング調査を実施。

## ②調査日

平成 27 年 9 月 10 日（木）～平成 27 年 9 月 24 日（木）

## ③調査方法

直接面談方式によるヒアリング調査

## 2) 調査結果

## ●バス事業者（産交バス㈱）

## 【玉名営業所について】

- ・大型バスは 13 台所有し、中型バスは 33 台所有。小型バスも 10 台所有している。
- ・大型バスと小型バスは全台ステップがついている。
- ・中型バスは 33 台のうち、2 台がノンステップバスである。
- ・全体で 38 系統あり、うち和水町内を通過するのは 9 系統。
- ・乗務員は 60 名程度。平日は 50 交番、土曜は 41 交番、日祝は 36 交番。

## 【路線バスの利用特性】

- ・和水町内での利用者は高齢者・通学者が多い。
- ・利用の時間帯は主に朝と夕方の利用者が多い。通院されている方はお昼ごろ帰宅のために利用している状況にある。

## 【利用者からの要望の声】

- ・利用客からは親切な対応であると好評である。
- ・新規路線の要望として次の 2 路線が上がっている。  
 “南関～坂下～江田～菊水ロマン館～玉名駅”を通るルート  
 “南関～坂下～江田～東郷 or 米の岳～山鹿”を通るルート

## 【運行上の課題点】

- ・軽油費の高騰による運行費の上昇が問題としてある。
- ・乗務員が足りない状況があり、乗務員の確保は課題の一つである。
- ・和水町は、山鹿～南関や山鹿～熊本間等の路線で通過点となっているため、和水での利用が少ない系統でも、他の地域で利用されていることがあるため、和水だけを見て路線を見直すことは難しい。

## 【利用促進等のために行っていること】

- ・65 歳以上の免許返納者には運賃が半額になる割引乗車券を発行。利用者は増加傾向にある。
- ・65 歳以上で購入できるサンコーパス 65 という定期券の発売(3 ヶ月 14,000 円、6 ヶ月 25,000 円)しており、通常利用より大幅に安く利用できる。
- ・バスの乗り方教室の実施し、バス利用時に不安なく利用できるよう取り組んでいる。

## 【行政との協力関係】

- ・和水町 まちづくり推進課とはすぐに連絡をとれる関係ができており、今後もスムーズな関係の維持が大事だと思う。

## 【今後の公共交通再編への意向】

- ・ 和 water 町の南西に位置する玉名市では H28 年の 10 月に路線を再編する予定である。
- ・ もし乗合タクシーを導入するのであれば、路線バスとのすみわけをしっかりと欲している。乗合タクシーを導入するにあたり路線バスの便数が減ることのないようにしてもらいたい。

## ● タクシー事業者（高瀬合同タクシー）

## 【菊水営業所について】

- ・ 小型タクシー3台、福祉タクシー1台の計4台を保有している。
- ・ 従業員は1日3名配備されている。

## 【利用特性について】

- ・ 全体での利用者層に偏りなく利用されている。H27年の8月は13,906人利用。
- ・ 菊水側ではH27年の8月の利用者数は1,050人の利用があり、偏りなく利用されている。
- ・ 営業範囲は玉名市と玉名郡であり、和 water 町に関しては全地区に対応している。
- ・ シャンボタクシーの利用は主に観光送迎や学校での社会研修時に利用している。
- ・ 平均的な利用料金は、玉名市側では845円/人であるのに対し、菊水では1,217円/人と割高で利用されている。
- ・ 福祉タクシーは全体で4台所有し、うち1台は菊水に配備している。
- ・ 身障者へは全国的に1割引を行うサービスを行っている。サービス分は行政等から補助が出るわけではなく、自己負担である。
- ・ 菊水の利用者はタクシーの配車まで時間が15分ほどかかっても他の地域より待っていただける方が多い。

## 【利用者からの要望の声】

- ・ 利用者からは特に要望の声はない。
- ・ 地域のスーパー等に防犯の目として車両の待機を依頼されることもある。

## 【乗合タクシー等のサービス導入に関して】

- ・ 協力させて欲しいが利用が増えても利益が減ることが懸念される。同業者や他業者が新しい交通体系を構築し、利用者がそちらにシフトされることは避けて欲しい。
- ・ 新サービスを導入するのであれば、事務の手間が増えるような予約等での電話対応等は工夫をし、できるだけ負担にならないような方法を考えて欲しい。
- ・ システムが整うのであればタクシーチケット配布がよい。

## ●タクシー事業者（三加和タクシー）

## 【営業所について】

- ・中型タクシー4台を保有しており、現在(2015.9.15時点)2名の方が従事している。よって稼働は実質2台。
- ・ジャンボタクシーや介護タクシーは、親系列である山鹿営業所からレンタルは可能。

## 【利用特性について】

- ・1月の利用は320名ほどでほぼ午前中の利用。土日の利用は平日より少ない状況。
- ・利用者は主に高齢者であり、通院と買物をする方がほとんどである。1人あたり、片道平均1,500円程度で往復3,000円程度。
- ・バス停までの送迎は全体の15%ほどおり、固定客である。バス停は、福田、板楠。片道660～1,800円程度
- ・三加和地区での利用者は通院等で山鹿に行くことが多い。
- ・営業範囲は玉名郡であり、山鹿のお店に通うなどの努力をして、知名度を上げている。合同タクシーとのすみわけは特にない。(玉名市は営業範囲外となっている。)
- ・特タクカード(山鹿タクシー系列、無料)では3万円分の利用で千円分のJTB商品券を贈呈するサービスを取組み中。

## 【利用者からの要望の声】

- ・料金を安くして欲しい。
- ・近所の人に頼まずに済むので家の近くにタクシー会社があるほうがいい。

## 【乗合タクシー等のサービス導入に関して】

- ・どのような利用体系であっても是非協力させて欲しい。

## ●和水町学校教育課

## 【スクールバスに運行状況について】

- ・スクールバスは大型バス1台、中型バス1台、マイクロバス1台の計3台の運行を行っており、地元の輸送会社である、マツカワ物流となごみ観光に運行を委託している。
- ・補助金の対象としており、規程上、学校から居住地区までの送迎のみとなっており、学校行事等でバスを使用する場合は別契約で運行することとなっている。
- ・運行経費は年間約2,000万円で、国からは400万円ほどの補助が出ている。
- ・3つの送迎ルートを設定しており、登校時は8時頃には小学校着になるように運行されている。下校時は早い便で16時半発となっている

## 【児童の利用状況について】

- ・三加和小学校区の学生は全校生徒149人で、スクールバスを利用している学生は132人。
- ・学校から家まで2km以上離れた学生を対象としている。
- ・利用に際して、新入学時にスクールバスの乗り方を教えている。

## 【今後の取組みについて】

- ・三加和中学校にある図書館を土日祝は地元の方を対象として、児童や生徒だけでなく、一般の方も利用できるように開放する計画がある。

## 【利用者からの要望の声】

- ・現状では原則として登校時と下校時は同ルートで帰宅するようになっているが、帰宅時間のスクールバスを利用して他ルートの学童保育施設まで送迎できないかと複数の児童の親から要望が出ている。

## ● 和水町社会教育課

## 【現在の取組み状況】

- ・「ふれあい大学」という町内在住の60歳以上に向けた講座を毎月第3水曜に開いている。講座の内容はさまざま、終活について、和水町の歴史等について学ぶことができる。参加は無料で、1年間で130人ほどの参加があり、内30人ほどは職員による送迎を行っている。会場は中央公民館と三加和公民館を1月ごとに変更している。
- ・「コスモス学級」という姑を対象とした料理教室を月に1回程度、年間10回、三加和公民館で開催している。H27年で41名の受講者がおり、材料費の1000円を参加者から徴収している。施設研修や、修学旅行も行っている。(費用は自己負担)
- ・どちらの取組みにも参加される方もいる。

## 【現在の公共交通に対する意見・要望】

- ・受講者のなかには、近くの公民館で行われる場合は参加するが、遠くの公民館で行われる講座には行きたくても足がないのでいけないという方もいるため、交通の便を整えれば参加者も増えるのではないかと考えている。

## 【社会教育課から見た公共交通や地域の課題・意見】

- ・施設として、三加和体育館やふれあい会館、弓道場、スカイドーム等を管理しているが、どの施設も建設から10年以上が経ち、メンテナンスも行き届いてないので、老朽化しており、安全面で不安な部分もある。
- ・利用者数に対して、維持費が多くかかっている現状にある。

## ● 和水町商工観光課

## 【現在の取組み状況】

- ・道の駅を拠点とした、経済のみならず、地域活性化を考慮した地域づくりを行っていく計画があり、50年後を見据えた「理想の田舎」を目指している。
- ・肥後民家村を活用し、工房を設けている。住民が自発的に行動を起こしたり、アーティスト等の活動の場としたりして、幅広い利用を目指し地域の活性化を図っている。

## 【現在の公共交通に対する意見・要望】

- ・公共交通のイメージを変える、例えば、「公共交通を利用する人はカッコいい」等のイメージを持たせることで利用促進に繋がるのではないか。

## 【今後の取組みについて】

- ・福岡のみならず、国外の観光客もターゲットとして、町外からの集客を増やすために、プロモーション活動を行っていく必要がある。
- ・観光客の増加に向けた、町の自然を堪能できるようなサイクリングコースを設けるといことも考えられる。

## ●和水平町観光協会

## 【現在の取組み状況】

- ・福岡県に住んでいる女性を対象とした、観光モニターを実施。参加者からの意見として、自家用車で訪れない場合は駅やインターから交通手段がないため、移動に不便を感じるという声があった。

## 【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・温泉や自然、八つの神様を結ぶ観光ルートとなるように公共交通の導入を行えば、観光客増加の見込みがある。
- ・町内の宿泊施設とのタイアップを行い、観光客が公共交通を利用すれば、特典が付く等のサービスを行ってはどうか。
- ・朝、夕に観光地を結ぶ公共交通手段が1本ずつあれば、利用が増える可能性がある。
- ・駐車場のない空き店舗周辺の駐車場の整備を図ることで、空き店舗の利活用が行いやすくなるのではないか。
- ・タクシー会社による、観光タクシーの運営を行ってはどうか。

## ●和水平町健康福祉課

## 【現在の取組み状況】

- ・タクシーチケットの助成を行っている。年金受給額が80万円以下で、要支援2以上の方、町内に1親等がない方を対象者としており、20名ほど登録されている。サービス内容は500円の割引券を月に6枚配布し、繰越の利用はできないようにしている。
- ・買物支援・ホームヘルパー派遣を行っている。1時間200円で利用でき、買物や掃除のサービスを行う。

## 【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・乗り継ぎが行えるバス停が少ないので移動に不便を感じる。
- ・小さな拠点づくりとしては拠点ごとに待合室等のなんらかの滞在できるスペースを設ける必要がある。
- ・和水平町を南北に結ぶバス路線がないため、南北の移動を可能にする必要がある。
- ・買物はなるべく自分で選んで行いたい方が多い。
- ・三加和には金融機関が少ないため、金融機関に手軽にいけない方が多い。

## ●和水平社会福祉協議会

## 【現在の取組み状況】

- ・「通所介護サービス」を介護認定外の方を対象に行っている。サービス内容は、認知症や介護の予防を目的としており、福祉センターで、毎週火曜と木曜行われている。利用料は1回あたり500円で昼食代も含まれている。希望者の方は入浴もできる。送迎も行っている。参加者は菊水で45名ほど、三加和でも45名ほど。
- ・「男性料理教室」を毎月行っている。三加和地区は第4金曜、菊水地区は第3金曜に開催している。参加者は2地区合わせて20名ほど。参加費は材料代の300円を頂いている。

## 【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・小さなものでもいいので、商店が町内に点在しているほうがよい。現状ではコンビニやスーパーが数店あるのみ。近くに商店があれば、買物を楽しむことができ、外出機会の増加につながると思われる。
- ・高齢者でも好きな時間に好きなものを選んで買えることが望ましいのではないか。

## 【今後の取組みについて】

- ・通所介護サービス利用者を送る際に、近くにある緑彩館(生鮮食料店)に立ち寄ったところ、利用者の買物が弾み、好評であった。移動販売でも良いので、利用者が各種サービスと買物を一度にできる機会を増やしていくことも考えていきたい。
- ・家に入浴施設がない方へお風呂利用の送迎を行っていききたい。ただし現状では施設の利用は介護予防事業参加者のみとなっているため、一般開放での利用は厳しい。

## ●和水平老人クラブ連合会

## 【現在の取組み状況】

- ・幹部会、女性幹部会を行っている。

## 【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・仮に路線バスが廃線になることで、買物と通院に支障をきたす方が老人会の会員に4名ほどおり、減便でも良いので廃線は避けて欲しいと切望される方がいる。
- ・菊水町と三加和町の合併により、南北に長い和水平となったが、南北に公共交通が走っておらず、町内の移動が行いづらい。南北に移動できる手段の確保を望む。
- ・スクールバスの運行時間外を利用して、有償でもよいので一般利用を行うことはできないのか。
- ・以前あった循環バスがなくなったことにより、公民館の行き来ができなくなり、生涯学習講座を受けられなくなった方もいる。

●和水平地域婦人会

【婦人会について】

- ・婦人会のほとんどの方が自家用車を利用し、免許を持たない方は自家用車を所有している方に乗せてもらい、定例会等には集まっている。

【現在の取組み状況】

- ・交通安全母の会、献血推進、結核予防等の呼びかけ運動や募金活動等を行っている。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・普段利用することはないが、利用者のことを考えると、目的地まで行きはバス、帰りはタクシー  
というような使い方ができるよう、交通網の整備を行って欲しい。

【今後の取組みについて】

- ・各種団体である老人会や商工会等との意見交換や交流を行い、横の繋がりを太くして、相互扶助の関係を構築していく必要がある。
- ・今後の担い手が不足しているので、リーダー性のある女性を育てていく必要がある。

●和水平商工会

【現在の取組み状況】

- ・商栄会に菊水地区に所在している 30 軒の商店が加盟している。年末の大売出しや抽選会等のイベントを行っている。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・スクールバスの運行時間外を利用して一般の方向けの有償輸送利用はできないのか。
- ・シルバー人材として運転を行える人材は揃っているので、雇用を含めて、輸送サービスの見直しも考えられるのではないか。

【今後の取組みについて】

- ・空き店舗やシャッター街化している江田商店街の利活用を考えている。

## ● 菊水ロマン館

## 【現在の営業状況について】

- ・道の駅の営業時間は9時から20時まで。
- ・道の駅として農産物等の販売、レストランでの食事だけでなく、温泉施設での入浴、すぐ横を流れる河川ではカヌー体験を行うことができ、また、キャンプ場もあるため、バーベキューを行うこともできる。

## 【店舗の利用者の特性について】

- ・道の駅の利用は1日あたり平日で500人ほど、休日で700~1,000人ほどの利用がある。
- ・温泉施設の利用者は、朝方はトラック等の長距離運転手の利用が多く、夕方には送迎バス等を利用や、自家用車で来られた地元の高齢者の利用が多い。
- ・農産物等の購入は地元住民の利用が多く、休日になると、観光客等の利用が多い。
- ・福岡からの利用者はお土産に野菜等を購入していく。
- ・休日の利用では150台分ほどある駐車場が満車になることもある。
- ・ゴルフ場がそばにあるので、ゴルフをしてからロマン館を利用される方もいる。

## 【温泉バスの運行状況について】

- ・菊水ロマン館独自に無料でそれぞれの地区を曜日毎に巡回する、温泉利用者用の送迎バスを運行している。

月曜日…玉名市小田地区

水曜日…菊水南地区

木曜日…菊水東地区

- ・スロープをつけたノンステップバスを所有している。
- ・運行は10時過ぎにはロマン館に到着し、16時半に出発する。
- ・バス停等はなく、地区や集落の要所に集まって、乗車してもらうようにしている。
- ・送迎バスの利用は1本の送迎で10人ほどの利用があり、利用者のほとんどが高齢者である。

## 【利用促進・経営改善のために行っていること】

- ・カヌー体験者やキャンプ場利用者には入浴の割引券を配布している。

## ● 丸美屋

## 【現在の営業状況について】

- ・三加和温泉側では、入浴のほかに、お食事処とお土産売り場がある。
- ・入浴料は400円だが、町民は18時以降に300円と安くなるため、18時~19時が利用のピーク。また水曜日は日中も300円で入浴できる。
- ・緑彩館では、主に生鮮食品や加工品等の販売を行っている。

## 【店舗の利用者の特性について】

- ・来場者数は温泉施設と緑彩館で述べ400~500名ほどで、75%ほどは高齢者である。
- ・緑彩館に関しては、90%ほどが高齢者の利用となっている。土日は家族連れも増えるが以前に比べると、福岡からの来場者が減ってきている。
- ・温泉施設入口に路線バスのバス停があり、1日7本の便があるものの、ほとんど利用者はいない。

## 【利用促進・経営改善のために行っていること】

- ・毎月イベントの開催をしている。スカイドームで行われる送迎付のテニス大会や、老人会を対象とした送迎付のペタンク大会を行っている。テニス大会は35名ほど、ペタンク大会は25名ほどの参加がある。
- ・老人会の利用では、乗合わせ場所を決め、その地点まで送迎を行っている。
- ・年に4回は温泉施設側の休憩スペースを利用し、カラオケ大会を開催している。
- ・毎月26日に温泉利用者には、次回半額券を配布している。
- ・福岡県南部からの利用者を増やすため、広告活動を行っている。

## 【今後の取組みについて】

- ・菊水ロマン館とは連携を行うことも可能。例えば、施設が菊水と三加和にあるので、それぞれのイベント開催時にはお互いの地区から送迎を行うなど。
- ・路線バスとのタイアップも可能。ただし、システム化をしっかりと行って欲しい。
- ・ふるさと納税者には、好待遇を行うなども可能。
- ・三加和温泉周辺には温泉施設の多いため、ひとつの拠点化としていくことも可能。しかし、緑彩館では地元の食品を並べたいが商品がそろいづらい面があるため改善が必要。

## ●菊屋

## 【現在の営業状況について】

- ・旧菊水側の営業時間は、朝9時から開いている。旧三加和側は9時半。
- ・遠方にお住まいで、スーパーを利用したい方向けに送迎のサービスと、移動販売、宅配サービスを行っている。
- ・送迎サービスは週に2回行っており、1日2コースを回っている。1日の利用は、20人ほどで、一人あたり約1,000円分購入される。
- ・移動販売に関しては2台で行っており、それぞれルートが決まっている。コストの面では移動販売での売上げを考慮しても現状ではマイナスの状態である。
- ・宅配サービスは2,000円以上の購入で利用できる。週に5回で、両店舗に1台ずつ、三輪のバイクで配達を行う。

## 【店舗の利用者の特性について】

- ・旧菊水側の店舗では1日に800人ほどの利用があり、その内の約50%が高齢者である。
- ・旧三加和側の店舗では1日に350人ほどの利用があり、その内の約60%が高齢者である。
- ・両店舗において、高齢者による利用は午前中が多い。だいたいビニール袋1つ分の購入をされる。買いだめをされる方は段ボール箱いっぱい購入していく。
- ・来店は車での利用者が多く、歩いてくる利用者はほとんどいない。
- ・移動販売の利用は1日40人ほどで、増加の傾向にある。
- ・宅配サービスでは酒類の購入もあるので、一人あたり1回の利用で3,000円～4,000円ほど購入される。10時半から18時まで行っている。

## 【利用促進・経営改善のために行っていること】

- ・サイトからネット販売サービスを行う予定である。安否の確認も可能。
- ・送迎サービスも移動販売も運転手不足の状態にある。
- ・今後はケアバス等との送迎関係を構築していくことも可能。

## ●和歌山県立病院

## 【現在の営業状況について】

- ・診療は月曜～金曜で行っており、受付時間は午前が8時半から11時半、午後は13時から16時半まで。診療時間は午前が9時から12時まで。午後が14時から17時15分まで。
- ・手術が少ないので午前中も午後も診察をしている。午後の診察は浸透していないせいか利用者が極端に少ない。
- ・病床数は、一般の方が56床、療養の方が42床で合わせて98床。

## 【ケアバスに運行状況について】

- ・主動でステップを操作するマイクロバスを1台所有している。
- ・曜日毎に校区や地区を変えて運行を行っている。  
月曜日…菊水地区  
火曜日…菊水地区、坂本地区、緑校区、神尾校区  
水曜日…春富校区、神尾校区  
木曜日…菊水地区、春富校区、神尾校区  
金曜日…猿懸地区、緑校区、神尾校区
- ・一月の運行経費は人件費と燃料費で13万円ほど。
- ・利用者はバス停まで歩ける町内の方、自分で受付を行える方の対象としている。
- ・1日あたり15名ほどの利用がある。
- ・運行ルートは何か基準等を設けて決めているわけではなく、H3年から行われているリハビリ送迎の延伸として行っている。

## 【施設の利用者の特性について】

- ・診察外来者数はH24で26,200人、H25年で26,728人、H26年で27,431人、と増加傾向にあり、常勤の医師が1名増えたことによる患者の増加と思われる。
- ・ケアバス利用者はほとんど固定で、H26年の利用者数は、自地域から病院までの利用が1,846人、病院から自地域までの利用が1,887人である。

## 【利用者からの要望の声】

- ・山鹿等の病院にかかっており、かかりつけ医を変更しづらいため、町立病院にかかりづらい。
- ・ケアバスを利用したくても、住んでいる地区で運行曜日が違うため、利用できない。例えば、金曜の脳神経外科に通っているがケアバスは違う曜日に回ってくる等。

## 【今後の取組みについて】

- ・午後の診察に来る患者が増えれば、午後のケアバス運行も検討する必要がある。

## ●菊水郵便局

## 【現在の営業状況について】

- ・宅配や貯金、保険等の手続きが行える窓口の営業は9時～17時。
- ・ATMの利用は9時～18時。
- ・運搬車が2台とバイクは10台を所有。

## 【施設の利用者の特性について】

- ・1日あたり80名ほどの利用がある。
- ・利用者は主に高齢者である。カードをお持ちの高齢者も多いのでATM利用も頻繁。
- ・バス停は近くにあるが、バスを利用して訪れる方は2～3人ほど。
- ・郵便局からはタクシーを利用して移動される方が増加傾向にある。
- ・手続き等の待ち時間に高齢者の交流の場となることもある。

## 【施設からみた公共交通や地域の課題・意見について】

- ・もし、乗合タクシーやコミュニティバスを導入するならば、告知の方法や、時間調整には十分に配慮すべき。
- ・拠点形成に関しては、拠点ごとにATMの設置を検討していきたいが設備設置費用でも500万円ほどかかるため何かしらの補助が必要となる。

## 【今後の取組みについて】

- ・現在、長崎で試験的に独居老人等を対象とした、「見守り隊」として、地域の見守りサービスを行っている。電球の交換など、ちょっとした家庭での困りごとへの対応など。今後は全国的に行われていく可能性がある。
- ・四国ではイオンと連携しており、イオンの商品を郵便局が配達するシステムもある。

## ●三加和郵便局

## 【現在の営業状況について】

- ・宅配や貯金、保険等の手続きが行える窓口の営業は9時～17時。
- ・ATMの利用は9時～18時。
- ・運搬車が2台とバイクは5台を所有。
- ・集まった郵便物は、午前と午後の2回、玉名郵便局へ配送。

## 【施設の利用者の特性について】

- ・営業範囲は旧三加和町内。
- ・1日あたりの利用者数は約30～50人であり、主に午前中に高齢者が訪れる。全体の7割は高齢者で、宅配利用は5分ほど、各種手続きは1時間ほど。
- ・手続き等の待ち時間に高齢者の交流の場となることも。
- ・郵便局の目の前にバス停があり、1日あたり5～6名ほど乗降されている。夏などはバスを待っているとき、郵便局内で待ったりもしている。
- ・貯金等の手続きに関しては、利用者から連絡を受けるか、郵便局から連絡をしての訪問サービスを行っているが、マニュアルでは、1度訪問し、必要金額を伺い、現金を取りに戻り、再度訪問し、お渡しするという形になっている。
- ・高齢者では、友人に送迎してもらって郵便局を利用する方が増加している。

## 【施設からみた公共交通や地域の課題・意見について】

- ・空き家が多いため、利活用できるようにすべき。所有者には空き家バンクへの登録を促す必要がある。郵便局側がボランティアであっても大々的に広告を行っていくのは本社の許可等があるため、行うことは非常に厳しい。

## 6. 地域公共交通の課題と対応策の方向性

### (1) 和水町が目指すまちづくりの将来像

地域公共交通が果たす役割を明確化するため、総合計画に示されるまちづくり方針など、和水町が目指すまちづくりの将来像について整理します。

#### 1) 菊水・三加和 新町建設計画(H18.4)

##### ①目指す将来像

希望(ゆめ)あふれ、人と地域が輝くまち

##### ②将来像の実現に向けた3つのテーマ

1 心豊かな人が育つまち    2 共生と優しさのまち    3 活力と交流のある町

##### ①6つの基本目標

- 施策Ⅰ 分権社会に対応する自立したまち
- 施策Ⅱ 明日を拓く人材が育つまち
- 施策Ⅲ 自然と共生する環境にやさしいまち
- 施策Ⅳ すべての人が安心して暮らせるまち
- 施策Ⅴ 安全で快適に暮らせるまち
- 施策Ⅵ 活力と賑わいのあるまち

##### ②公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒Ⅴ 安全で快適に暮らせるまち

##### イ. 情報通信基盤の整備

情報化が著しい現代社会にあって、情報通信技術の進歩に合わせた情報通信基盤の整備に努めます。これらの整備にあたっては、主要公共施設、公的機関等の情報網を整備することで、住民への行政サービスやまちづくりなど幅広い住民サービスを展開していきます。また、観光情報や産業情報など地域情報の発信を推進します。

##### ウ. 公共交通の充実

新町域の広がりや高齢者の増加に対応した公共交通の充実が必要です。特に、赤字路線の廃止等が懸念される中バス路線の維持に努めるとともに、今後は主要公共施設との連絡を強化する循環バスなどによる新しい公共交通の取組みを進めます。

2) 第1次水町まちづくり総合計画 後期基本計画 (H25.3)

①目指す将来像

希望(ゆめ)あふれ、人と地域が輝くまち

②基本方針となる7つの政策

施策Ⅰ すべての人が安心して暮らせるまち【保健・福祉・医療】

施策Ⅱ 活力と賑わいのあるまち【産業振興】

施策Ⅲ 自然と共生する環境にやさしいまち【環境共生】

施策Ⅳ 安全で快適に暮らせるまち【生活基盤・防災】

施策Ⅴ 明日を拓く人材が育つまち【教文化】

施策Ⅵ 分権社会に対応する自立したまち【協働のまちづくり・行財政運営】

施策Ⅶ ユニバーサルデザインの推進

③公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒政策Ⅰ-第2節 福祉

(5) 介護保険事業の推進

①介護予防重視の取組みの推進

介護予防に関する知識の普及・啓発を行うとともに、介護予防に繋がる地域活動を育成し、高齢者自らがこれらの活動に積極的に参加することで、自主的な介護予防へと繋がります。介護予防事業の柱である「お茶の間筋トレ(教室)」が全地区に普及するよう「拠点づくり」の推進と主体的に運営されるよう「人づくり」を推進します。

⇒政策Ⅱ-第2節 商業・工業

(2) 商店街振興の推進

①商工会との連携による活性化の推進

空き店舗問題の解決や商店活性化に向けた事業を進め、商店街振興として、引き続き商工会との連携による様々な施策を展開していきます。

②高齢者へのサービス提供

高齢化が進行する状況を踏まえ、一人暮らしの高齢者・高齢者世帯への宅配やご用聞き等、地域のニーズに応じたサービス内容の協議を進めます。

⇒政策Ⅳ-第3節 公共交通体系の充実

(1) 路線バスの統廃合

路線バスの統廃合等については、住民ニーズや専門機関での検討を踏まえ、総合的に判断していきます。

(2) 地域内交通手段の確保

コミュニティバス、乗合タクシー等の交通対策は、公共交通空白地域の住民の移動手段の確保の観点から、地域同士のコミュニティ強化による移動手段の確保を進めるなど、引き続き慎重に検討を進め、住民のニーズに即したより良い交通体系の構築に努めます。

⇒政策Ⅴ-第2節 社会教育

(1) 生涯学習の推進

①公民館を拠点とした活動の推進

中央公民館まつり、町文化祭、生涯学習推進大会等については、一本化を視野に入れた交流事業として進めていきます。

3) 第2期和水町地域福祉計画(H26.3)

①地域福祉を進める4つの柱

- 1 関係課連携による地域福祉推進
- 2 地域住民支え合い活動の支援
- 3 人材、福祉事業所、各種団体との連携
- 4 安心安全の基礎づくり

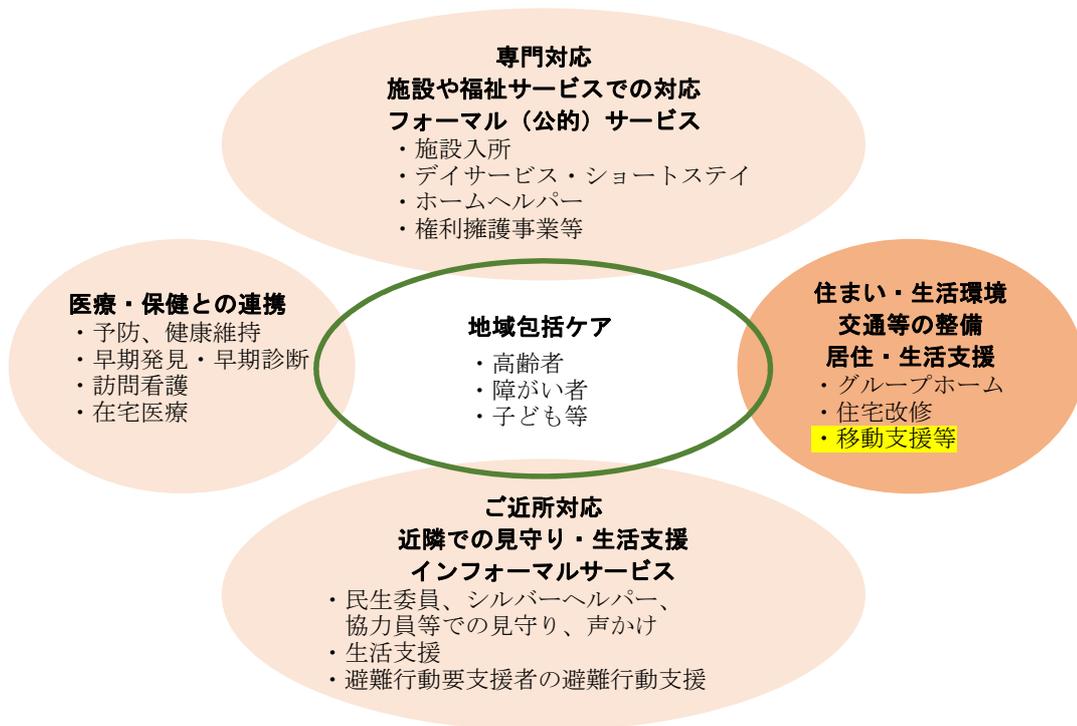
②公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒2 地域住民支え合い活動の支援

●地域包括ケア

医療・介護・予防等が連携し、在宅での介護を中学校区程度の範囲で包括的にケアする、地域包括ケアシステムの推進が国の方針としてあげられています。

そのために、専門機関の連携を進めるものですが、地域福祉の観点からは地域住民の支え合い活動の充実を進めていきます。



⇒4 安心安全の基礎づくり

●交通

公共交通のバス路線は8路線ありますが、それでもバス停までの距離が遠いなど交通の利便性を高めることが望まれています。

移動手段の確保は生活の維持だけでなく介護予防にとっても重要であり、今後とも、コミュニティバスや乗合タクシー等幅広い方策での検討を進めます。

また、住民自身での「乗り合わせ」などの工夫についても支援を検討します。

## 4) 和水町過疎地域自立促進計画 (H22. 4)

## ①地域の自立促進も基本方針

住民の自主的・主体的な様々な活動を推進するとともに住民活動を総合的に支援し、住民と行政とのパートナーシップ関係を構築し、住民ニーズに合った事業を展開し本町としての自立を目指す。

## ②自立に向けて対策を行う8分野

- I 産業の振興
- II 交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進
- III 生活環境の整備
- IV 高齢者等の保険及び福祉の向上及び増進
- V 医療の確保
- VI 教育の振興
- VII 地域文化の振興等
- VIII 集落の整備

## ③公共交通、または拠点づくりに係る取組み

## ⇒ I 産業の振興

## (5) 商業

既存商店の育成・強化を目標に、点在する小売店舗を数ヶ所に集約し、コストの低減や顧客ニーズにあった商品販売のための共同店舗の設置等、時代に則した新たな事業展開が必要である。また、業績向上を図るため、行政や企業・各種団体等が行うイベントとタイアップした商品販売、高齢者や障害者等移動が困難な人々に配慮した宅配事業等の展開、インターネットの活用による新たな顧客の掘り起こし等、商工会が中心となって取り組める体制づくりを構築し、商工会の自立を支援していく。

## (6) 観光又はレクリエーション

観光資源の整備やアクセス道路、施設案内板等の観光サイン、肥後民家村等の宿泊施設等の充実、整備をはじめ、農家民泊のための研修会の開催や関連する組織の育成を図っていかなければならない。また、本町ならではの独自性を打ち出すために「構造改革特別区域」の申請を積極的に行い、滞在型の観光プランをより魅力あるものにしていく。(一部抜粋)

## ⇒ II 交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進

## (5) 町道の整備

町内の各集落や公共施設を結ぶ生活主要道路を中心に整備を進めていく。また、近隣都市へのアクセス道路とそれにつながる道路についても併せて整備を行う。特に、平成23年3月に開通する九州新幹線新玉名駅にアクセスする道路の整備を行うことで、荒尾・玉名方面から本町を経由し山鹿・菊池方面へ広域的に結ぶとともに、朝夕の交通混雑の緩和と主要地方道への連絡道路の確保を図る。

## ⇒ V 高齢者等の保険及び福祉の向上及び増進

## (1) 高齢者等の保険及び福祉の向上及び増進

多様なニーズを把握し、高齢者が望む生活の実現にあったサービスの提供を行うため、NPO法人等への支援や県・隣接町村、既存サービス機関との連携による供給体制の充実に努めていく。さらに、高齢者が集まる温泉施設や集会所等で健康教室や栄養指導等を実施して、高齢者の健康に対する意識の向上を図る。(一部抜粋)

## ⇒ VIII 集落の整備

集落の維持については、集落間の協働を促すために、集落間を結ぶ道路や公共施設までのアクセス道路、集落間や集落内の生活道路の整備を積極的に進め、住民が安全に安心して移動できるようにする。また、住民自治の活動の拠点となる地域の公民館整備も併せて進める必要がある。(一部抜粋)

5) 和 water 町観光交流振興計画 (H22. 3)

①基本目標

和 water 町は日本人が古代から追及しつづけた美と健康と癒しを提供する町  
 ～健康と癒しの旅を熊本・和 water 町で～

②計画の方向性

- I 和 water 流の新たな観光スタイルの確立
- II 和 water ブランドの確立
- III 住民の誇りや愛着の醸成
- IV 知名度の向上 (情報発信とファンづくり)

③公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒ I 和 water 流の新たな観光スタイルの確立

**取組み 2 健康と癒しの観光地づくりの推進**

実践項目 1 観光交流のルートづくり

交流や体験プログラムのメニューを開発し、観光交流客が満足する観光交流のルートづくりと体験交流の旅行をサポートする体制づくりを行います。

実践項目 2 地域資源をつないだ観光ルートの開発

高収益観光交流の振興と観光交流基盤の整備が必要です。観る、聞く、香る、食べる、体験する、買い物をする等観光交流客に提案する和 water 町の既存の地域資源をつないだ観光ルートを開発し、新たなビジネスモデルを構築していきます。

⇒ II 和 water ブランドの確立

**取組み 3 里山暮らし・散策・体験観光の推進**

実践項目 4 八つの神様めぐりの商品化

観光ボランティアガイドの案内で、ウォーキングとバスやレンタサイクルの組み合わせで、全部回れるようにし、最後は温泉で汗を流して帰るコースを整備していきます。また、物語が大切なため、縁起物の土産品の開発も含め、物語化を図っていきます。

⇒ III 住民の誇りや愛着の醸成

**取組み 3 里山暮らし・散策・体験観光の推進**

実践項目 3 住民が参画する仕組みの確立

住民が自ら企画し、自ら実行していくには、町民の多くの方々に賛同を得るための同意形成が必要であり、住民ワークショップが効果的に機能していきます。そこで、住民ワークショップを開催し、住民の意見を観光によるまちづくりに活かしていきます。

6) 和水町地域福祉活動計画 (社会福祉協議会 : H25. 3)

①計画策定の目的

誰もが安心して和水町に暮らすことができる地域副詞の実現

②計画の柱

- I ご近所支え合い活動の充実
- II 福祉人材・福祉文化の充実
- III 関連機関・団体との連携
- IV 地域に顔の見える社協を目指して

③公共交通、または拠点づくりに係る取組み

⇒ I ご近所支え合い活動の充実

**ふれあいサロン事業の支援**

地区の公民館を中心に、介護予防を目的とした生きがいづくりの場として、24年度は三加和地区の6行政区で実施している。今後の主な取組みとして、菊水地区での実施検討、サロンボランティア養成講座の実施、活動紹介パンフレットの作成を検討していく。

**ひとり暮らしふれあい招待会**

65歳以上のひとり暮らしを対象に、年2回、菊水地区・三加和地区でそれぞれ実施している。今後は、講演会・食事会を通して、相互の親睦を深め生活に楽しみが持てるような内容を企画・実施する。

**男性料理教室事業 (町受託事業)**

月1回、食生活改善推進員協議会の指導の下、基本的技術の修得や交流の場を提供している。自立、向上を目指す方へ調理の基本を段階的に指導する。

**介護予防教室 (町受託事業)**

現在、町全体45地区で実施され、その中の29地区は社協が委託を受けている。体操を通して、健康維持だけでなく、地域の方々の交流の場としても機能できるよう勤める。

▼地域差支え合い活動の充実にむけて(例)

名称(仮)	内容	現在の取組み
見守りネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり暮らし高齢者の見守り(新聞の取り込みや雨戸の開け閉め、電気の点灯・消灯など)声かけ、(回覧板の手渡し)。</li> <li>・子ども達の登下校等の見守り活動。</li> <li>・災害時用援護者避難支援など、マップの作成。</li> </ul>	シルバーヘルパーなどによる、ひとり暮らし高齢者等への訪問活動
ふれあいサロン活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館などに月一回程度集まり、おしゃべりやレクリエーション、手芸などを行う。</li> </ul>	現在6ヶ所で実施中
交流活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支え合い活動の前提となる地区住民、世代間の顔合わせなどの交流活動を行う。</li> </ul>	大江田区等での地域の縁側事業
地域おこし活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里づくりなど、みんなが楽しく関わりながら、地域の活力がわくような取り組みの工夫。</li> </ul>	なごみの郷高野での空き家活用等
福祉の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の組織に福祉部を設置し、サロンや交流活動等、色々な活動の世話を実施。</li> </ul>	夢ランド十町で福祉部の設置

(2) 地域公共交通が果たすべき役割

和水町が目指すまちづくりの将来像を踏まえ、地域公共交通が果たすべき役割を示します。

上位計画	公共交通に係る取組み方針
菊水・三加和 新町建設計画	●新町域の広がりや高齢者の増加に対応した公共交通の充実が必要です。 特に、赤字路線の廃止等が懸念される中バス路線の維持に努めるとともに、今後は主要公共施設との連絡を強化する循環バスなどによる新しい公共交通の取組みを進めます。
第1次和水町まちづくり 総合計画 後期基本計画	●路線バスの統廃合 路線バスの統廃合等については、住民ニーズや専門機関での検討を踏まえ、総合的に判断していきます。 ●地域内交通手段の確保 コミュニティバス、乗合タクシー等の交通対策は、公共交通空白地域の住民の移動手段の確保の観点から、地域同士のコミュニティ強化による移動手段の確保を進めるなど、引き続き慎重に検討を進め、住民のニーズに即したより良い交通体系の構築に努めます。
関連計画	公共交通に係る取組み方針
第2期和水町 地域福祉計画	●公共交通のバス路線は8路線ありますが、それでもバス停までの距離が遠いなど交通の利便性を高めることが望まれています。 移動手段の確保は生活の維持だけでなく介護予防にとっても重要であり、今後とも、コミュニティバスや乗合タクシー等幅広い方策での検討を進めます。 また、住民自身での「乗り合わせ」などの工夫についても支援を検討します。
和水町過疎地域 自立促進計画	●町道の整備 町内の各集落や公共施設を結ぶ生活主要道路を中心に整備を進めていく。また、近隣都市へのアクセス道路とそれにつながる道路についても併せて整備を行う。特に、平成23年3月に開通する九州新幹線新玉名駅にアクセスする道路の整備を行うことで、荒尾・玉名方面から本町を經由し山鹿・菊池方面へ広域的に結ぶとともに、朝夕の交通混雑の緩和と主要地方道への連絡道路の確保を図る。
和水町観光交流振興計画	●八つの神様めぐりの商品化 観光ボランティアガイドの案内で、ウォーキングとバスやレンタサイクルの組み合わせで、全部回れるようにし、最後は温泉で汗を流して帰るコースを整備していきます。また、物語が大切なため、縁起物の土産品の開発も含め、物語化を図っていきます。



地域公共交通が果たすべき役割

- 町民の日常生活を支える利便性の高い公共交通サービスの確保
- 高齢者にとっても利用しやすい公共交通環境の確保・維持
- 来訪者の観光移動を支える公共交通アクセスの確保
- 利便性の高いサービスを持続的に提供するための公共交通体系の維持

### (3) 和水町における地域公共交通の現状と課題

#### ◆課題① 町の一体感を生み出すネットワークの構築

---

和水町は、生活圏や環境が異なる2地区（三加和地区、菊水地区）の合併後10年が経とうとしており、1つの町としてのかたちができつつあります。しかしながら一方では、地域の連帯感が希薄のままであると感じている住民もいます。今後も和水町として自助、共助、公助の連携による自立した安心して暮らせる地域づくりを行っていく必要があります、住民の移動や人と人とのコミュニケーション等のネットワークを構築していく必要があります。

#### ◆課題② 町民の外出実態とニーズに即した公共交通体系の構築

---

和水町では、日常生活における通勤通学や消費行動（買い物先）として隣接する山鹿市や玉名市との結びつきが強く、町内では町役場周辺（主に中央校区）の病院・商業施設が町民の利用ニーズの高い外出先となっています。

現在、町内を運行する路線バスは、山鹿市や玉名市と結ぶネットワークとなっているものの、町内の各校区から中央校区への移動ニーズに応える路線がないことから、地域を貫く公共交通を継続的に維持する新たな公共交通体系の構築が必要です。

#### ◆課題③ 公共交通空白地域における移動手手段の確保

---

和水町では、民営路線バス等の公共交通のほか、ケアバス（町立病院）やスクールバス（三加和小学校）といった特定の目的に限定した行政による送迎サービスが行われているものの、依然として交通空白地域が存在します。

交通空白地域では、交通弱者※が96人ほど存在し、運転免許証を保有せずに親族・知人による送迎に頼る方や、その送迎すら頼めない状況にある方も存在しており、交通弱者の日常生活における移動手手段の確保が必要です。

※町内7校区のグループインタビュー調査に基づき普段の移動に困っている方

### ◆課題④ お出かけ機会の創出による新たな公共交通の利用促進

---

普段の生活における困り事では、身近な買い物先等が不足し不便である事や将来的な集落維持への不安、住民同士の交流機会の減少など挙げる意見が多く、これまで身近にあった外出機会や交流機会が失われている状況にあります。

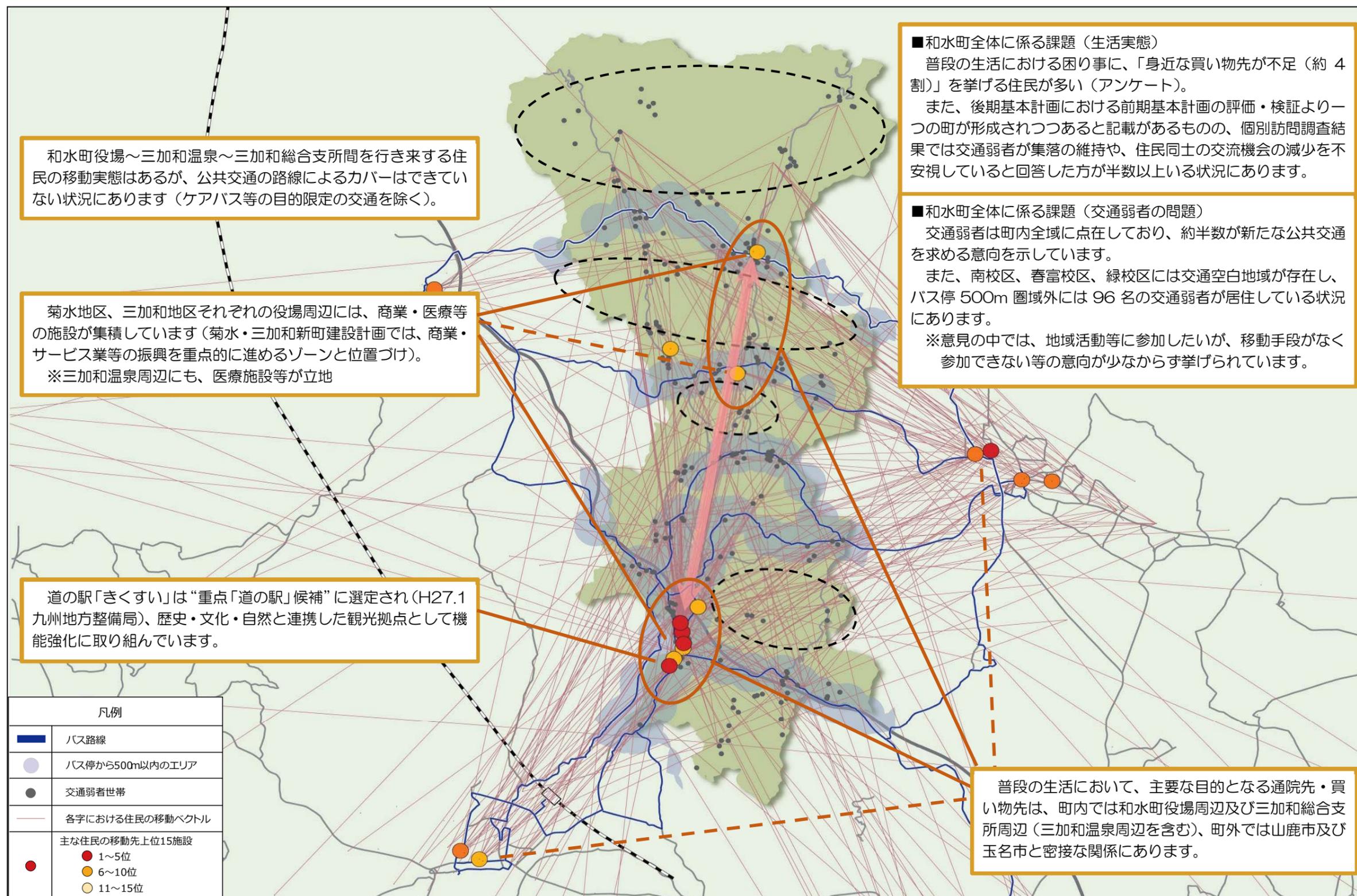
また、交通弱者の中には、地域の活動へ参加する意欲はあるものの、会場までの移動手段がないことから参加しないなどの悪循環が生じており、地域内のお出かけ先としての拠点整備と利用しやすい公共交通環境の確保が必要です。

### ◆課題⑤ 地域活性化に資する観光客の移動環境の改善

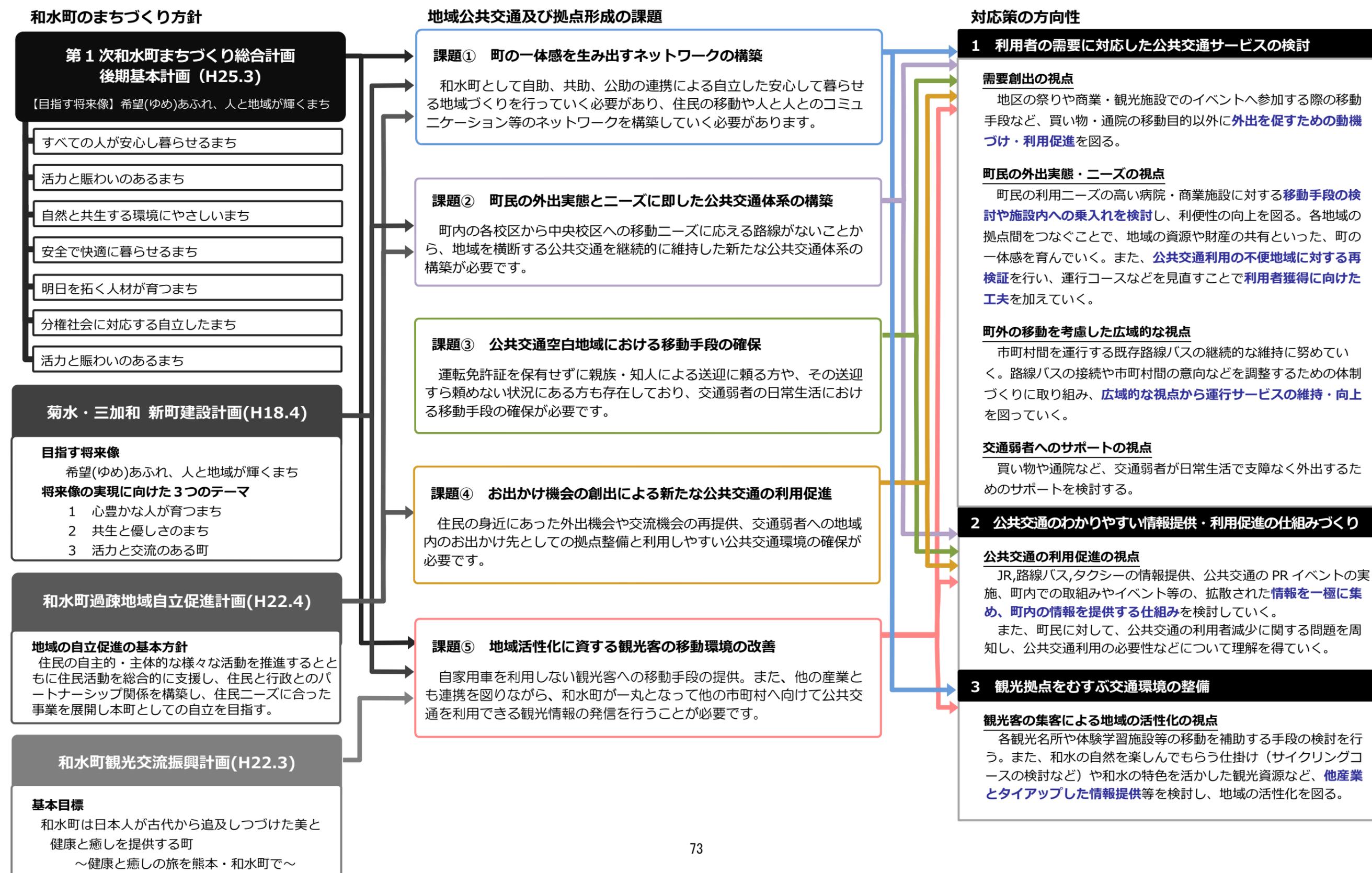
---

和水町には、三加和温泉や菊水ロマン館、江田船山古墳、田中城跡など、多様な観光名所、地域資源はあるものの、それらを結ぶ交通網は少なく、観光客にとって一部不便な状況が生じています。また、道の駅きくすいが「重点道の駅候補」に選定されたことを受け、歴史・文化・自然と連携した観光拠点として機能強化に取り組んでおり、これらの取組みとあわせて観光客の移動環境の改善について検討することが求められます。観光客の買い物行動による商業振興等の可能性もあるため、他の産業と連携した公共交通の利用案内に取り組みながら、和水町が一丸となって地域活性化を図る体制が必要です。

和水平町における課題や上位計画等の整理を行ったものを以下に示します。



(4) 将来に向けた地域公共交通の課題と対応策の方向性

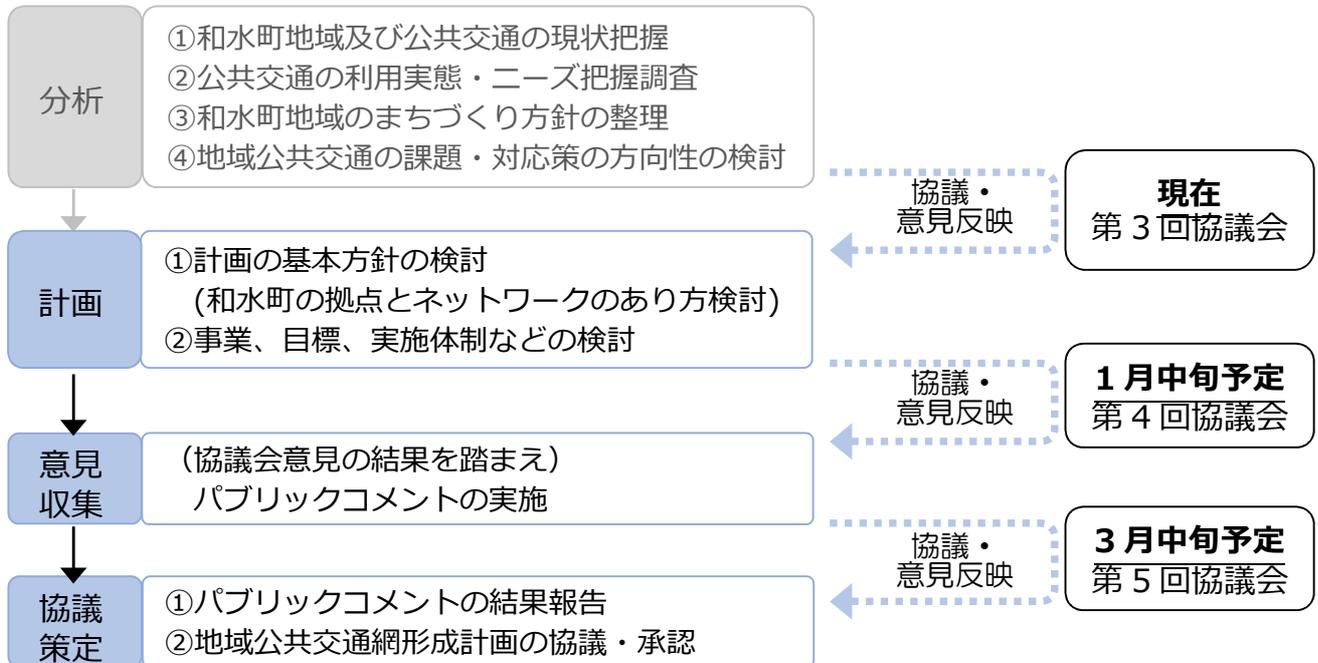


## 7. 今後のスケジュールについて

### (1) 今後のスケジュールについて

本協議会に提示した調査結果を踏まえながら、地域公共交通の課題・対応方針、具体的な事業方針を定める「和歌山地域公共交通網形成計画」を作成します。

以下に、計画書の構成（案）を示します。



### (2) 地域公共交通網形成計画の基本方針として検討する項目（案）について

今後、計画の基本方針等を抽出していくうえで、以下の内容に基づき検討を進めていく。

